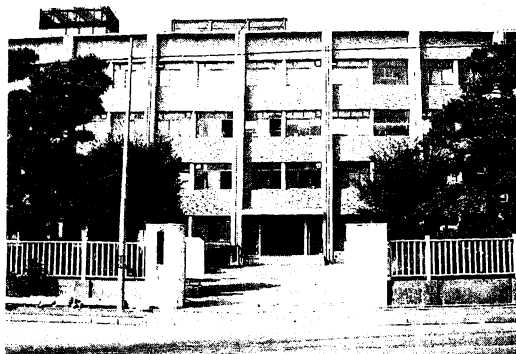


4章 医療技術短期大学部

A. 医療技術短期大学部の概要

近年、我が国では科学技術の発展にともなって医療はますます専門化し、その領域は広範化する一方であり、他方では人口の高齢化、社会の高福祉化が急速に進行している。この現実に対応して、国民の健康を支える高資質の医療技術者の養成が強く望まれている。このような社会的要請にこたえ、本短期大学部は4年間3年課程の国立短期大学部として、昭和50年(1975) 京都大学に設置された。



医療技術短期大学部

当初には看護学科と専攻科(助産学特別専攻)及び教養科(平成2年より一般教育と改称)、昭和51年(1976)には衛生技術学科が設けられ、さらに高齢化社会の到来や身体障害者・精神障害者の社会復帰など、リハビリテーションの必要性に基づき昭和57年(1982)には理学療法学科と作業療法学科が増設され、今日に至っている。各学科は有機的に連携を保ちながら、人間性を重視した教育と広い領域にわたる研究を行っている。

健康科学公開講座……「健康科学」は、人間存在の基礎となる健康を自然・人文・社会諸科学を総合して考究する新しい学際領域の科学であり、本短期大学部の主要研究課題の一つである。公開講座では医療関連従事者と一般市民を対象に、この「健康科学」の内容を毎年テーマを定めて平易に講述している。

開かれた大学の機能の一端として、市民の健康に対する認識と理解を深め、健康の保持・増進にいささかでも貢献したいと願っている。

大学説明会……本短期大学部は三年制であり、京都大学において特異な存在である。主として医療技術者を目指す受験生を対象に本短期大学部の内容を十分理解してもらうために、昭和63年度より独自の説明会を年1回、毎年7月下旬に実施している。

説明会では総合的な学科紹介、施設見学、学科別個別相談などが行われる。本学

部に関心をもつ高校生、高校卒業生及び関係指導教職員の多数の参加を得て好評である。

四年制化への動き……生きた人間として患者・障害者の「生活の質（QOL）」を高め、豊かに国民の健康を支えるという課題は、疾病構造の変化（慢性病、成人病の増加）、高齢少子社会、先端医療技術（移植治療、遺伝子治療）の時代を迎えて、量的にも質的にも多彩・多様となってきた。この課題に応えるべき人間性あふるる高資質の医療技術者を育成するには、現在の三年制教育は限界にきている。この認識に立って、当医療技術短期大学部は、現在、四年制教育体制の実現に向けて鋭意努力している。

B. 学科等の紹介

以下に各学科の紹介と、各教官の授業担当科目（括弧内）及び専門領域を紹介する。

I 一般教育

健康とよりよき医療をめざす医療技術者にとっては、専門の知識と技術の修得だけでなく、豊かな教養と広い視野、そして情操の涵養が必要である。

学生の自己形成にとって、一般教育は重要な役割を果たすものであり、人文科学、社会科学、自然科学、外国語、保健体育の広い分野にわたる多様な科目が開講されている。

一般教育は専門教育とともに大学教育を構成する二本柱のひとつとして、本学部の教育理念を実現するべく努力を傾注している。

中村定男教授（物理学、助産学研究Ⅱ）は、プラズマ中にイオンビームにより励起される静電波の伝はん特性が境界の影響を受ける場合の境界値問題及び、励起された波動が複数のとき、適当な条件下でビームと波動間に非線形相互作用が生じ関与した波が時間的に増大する場合の、増大波の発生条件及びその特性について研究している。



一般教育（端末実習風景）

下野登士男教授（生物学，生理学，生理学実習，医療概論，医学概論）は，随意運動に関する大脳・小脳を中心とした中枢神経回路網の連絡様式とその働きを解明するために，単一神経細胞レベルの電気生理学的研究を行っている。また，実験的に作製したてんかんモデル動物を用いて，てんかん発作発生機序ならびにその発症時に生ずる大脳・小脳回路網の異常興奮についても脳波学的・病態生理学的に検討している。

加茂映子教授（英語）は，19世紀後半に生きた英国の詩人，G. M. Hopkins の詩を研究対象としている。イェズス会士であった彼は，限られた場に身を置いてはいたが，その詩は彼の内面世界の深さと広がりを見せ，彼の卓越した表現力によって，現代詩に大きな影響を与えてきた。一方，フェミニズムの視点から，アメリカの現代詩人，Adrienne Rich の作品を研究している。

川崎伸子教授（化学，生化学）は特定の糖鎖構造を認識して特異的に結合する糖結合性タンパク質（動物レクチン）の構造と生理的機能に関する研究を生化学的，臨床化学的，分子生物学的に行っている。とくに血清中のレクチンは抗体産生以前の先天性免疫に関与する生体防御因子として重要な役割を果たしていると考えられ，その遺伝子構造，遺伝子発現調節機構を明らかにすることにより，生理的意義を解明する研究を進めている。

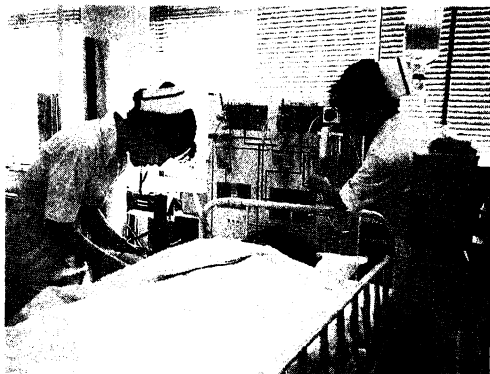
笠原勝幸助教授（保健体育，人間発達，運動学，運動学実習，形態機能学）は，関節・脊椎・腫瘍に関する整形外科の臨床及び基礎的研究を行っている。破骨細胞の形態，発生，機能解析を通じて，人間の骨格の正常発達，異常発達，老化，機能不全，腫瘍性増殖を研究している。世界最初に京大で合成された，生体骨と結合する人工骨 AW-GC を用いて関節温存手術を開発し，患肢の運動機能の改善を実現している。筋肉の訓練方法の改善を通じて，健康維持，体力育成の普及に努めている。

菅 佐和子助教授（心理学，教育学，発達心理，助産技術学特論）は，臨床心理学を専攻し，主に児童～青年期を対象とする遊戯療法やカウンセリングの実践を積み重ねてきた。そこから得られた知見と調査研究を通して得られた知見をあわせ見ることによって，種々の不適応症状の意味の解明とその対策にとりくんでいる。

大塚研一助教授（数学，統計学）は，偏微分方程式を専攻し，主に線形偏微分方程式の基本解の性質を研究している。特に，放物型方程式の基本解の正値性や，楕円型偏微分作用素のスペクトルの漸近的な挙動等の問題について，研究を進めている。

II 看護学科

本学科の母体となった看護学校の歴史は古く、明治32年(1899)7月、京都帝国大学に医科大学が設置ならびに同附属病院が開設されるに伴い、看護婦の養成が必要となり、同年9月に開校された看護婦見習講習科にまで遡る。以来、時代と共に変遷を重ね、昭和26年(1951)4月からは京都大学医学部附属看護学校となった。この間、医学部と表裏一体となって発展を続け、指導者となる看護婦の教育に当たってきた。短期大



看護技術実習風景

学部の学科になって、学生定員は1学年80名に増加すると共に、学科の専任教官15名に加えて他学科教官並びに多数の非常勤講師の協力を得て、人間性豊かな人材の養成に努めている。卒業生の6～7割は、国公立を中心とした医療機関、企業等の健康管理室に就職し(就職率100%)、その他は四年制看護大学編入、あるいは保健婦・助産婦学校等への進学、また、既に学士を有しているものは看護系大学院に進み研究者や教育者をめざすなど、進路は極めて多様で将来性に富んでいる。

中井義勝教授(病態学-内科系, 成人臨床看護-内科系, 老人看護概論・保健, 老人臨床看護)は、内分泌代謝疾患を研究している。内分泌疾患では高血圧、間脳下垂体疾患、副腎疾患、性腺疾患、代謝疾患では糖尿病、高脂血症の研究を行っている。また、肥満症、神経性食欲不振症、神経性大食症等の食行動異常症の研究、及び、ストレス時における内分泌、神経、免疫の相関について研究している。

稲本 俊教授(医療概論, 病態学-外科系, 成人臨床看護-外科系・急性期, 一般臨床医学-消化器外科)は種々の病態と免疫の関連について研究を進めており、肝臓における免疫、特に、肝類洞リンパ球の形態と機能についての研究を行っている。また、乳癌及び消化器癌や臓器移植に伴う免疫機能の動態についての研究も行っている。さらに、看護ケアの免疫能に及ぼす効果に注目し、研究を開始した。

月田早智子教授(形態機能学, 解剖学, 生理学)は、細胞接着の情報伝達機構について研究を行っている。近年、細胞接着装置の単離精製法を開発し、その構成成分について検討を行った。これまでに細胞接着装置に局在する新しい接着分子及び新しい裏打ちタンパク質を数種同定した。cDNA クローニングを行い、それらのタ

ンパク質がいずれも癌抑制遺伝子産物様であり、細胞の増殖の情報伝達に関わるものであることを示した。

亀山美智子教授（看護学概論，臨床看護総論Ⅰ）は、看護史及び女性史を中心とする女性学を研究対象とし、数多くの女性学理論に立って、日常的な視野に写る女性と社会規範とのギャップを解説する研究を行っている。講義・臨床実習では、具体的な例を取り上げながら学生に対して啓発を行う。時として生命倫理等にも及びそれらに関する研究会に参加し、独自の考えを理論化して発表している。

横山文子助教授（看護学概論，基礎看護技術）は、日常生活援助技術の実験的検証，日常生活援助技術の被援助者に与える負荷の実態についてO₂消費量，エネルギー代謝等から検討を加え、看護者の援助技術の選定と、被援助者（療養者）の日常生活行動拡大の客観的指標となるような手掛かりを求めている。

祖父江育子助教授（小児看護概論・保健，小児臨床看護）は、生態学的な健康観を基礎に小児における健康について模索している。特に、エリクソンの発達理論にもとづいた自我同一性の形成過程での個人と社会の相互作用に注目している。今後、白血病人の生活を通して、この研究をすすめていきたいと考えている。

服部律子助教授（母性看護概論・保健，母性臨床看護）は、母子看護，特に周産期及び育児期における母子関係の発達を中心に研究しており、よりよい母子関係を発展させていくための看護介人と家族への援助を可能にするシステムについて看護学の視点から分析を加えていく試みをしている。

内田宏美講師（成人看護概論・保健，成人臨床看護-急性期・周手術期）は、看護行為の分類・看護所要時間の測定・看護度判定システムの開発，手術後シャワー浴の安全性，手術前剃毛の是非に関する研究等を通して，臨床看護の専門性を追求するとともに，脳死・臓器移植の問題に看護の立場からの提言を続けたいと考えている。

谷垣静子講師（臨床看護総論Ⅱ，老人看護概論・保健，老人臨床看護）は難病患者・家族の生活問題に取り組んでいる。とくに在宅で暮らす難病患者のケアの阻害要因について研究している。今後は，ALS患者に焦点をあて，阻害要因の分析を深め，そこから支援対策の研究を進めたいと考えている。また，痴呆性老人在宅看護の開発にも取り組んでいる。

豊田久美子講師（成人看護概論，成人臨床看護-慢性期・回復期・終末期）は，家族看護，及び看護ケアと神経・免疫系との関連について研究している。今後は慢性疾患患者の看護について家族システム理論を用いて介入方法を考究する。また，足浴が神経・免疫機能に及ぼす影響についても研究をすすめる。

片山由美助手（看護学実習）は，近年問題となっている院内感染について，その

教育的対応を検討している。それは、院内感染を含めた、広義の感染防止に関するものである。

荒川千登世助手（看護学実習）は、手術を受ける患者への看護として、術前から術後、及び社会復帰に向けての援助について考究している。

任 和子助手（看護学実習）は、患者のストレス反応と個体要因について検討している。さらに、ストレスを緩和する看護ケアを模索している。

前原恵子助手（看護学実習）は、周産期・育児期における現代の母子の健康保持、増進への看護介入について検討している。

奥田弘恵助手（看護学実習）は、慢性疾患における長期服薬患者の薬剤自己管理への援助について研究を進める。

Ⅲ 衛生技術学科

生体から構造や機能に関するあらゆる情報をひき出し解析すること、そして疾病及びその予防との関連で論ずることは臨床医学に欠くことのできないものである。臨床検査はこれらを具体化するものであり、この領域に携わる人材を育成することが本学科の目的である。卒業生は主に病院の検査部や専業の検査センター、製薬会社や生物学関係企業の研究所等に勤務している。

近年益々進歩の著しい臨床検査学においては、医学の各分野に関しては勿論、基礎科学、工学など広範囲にわたる領域の知識・技術を習得することが要求される。従って、当学科においては多様な分野にわたって専門の教官が配置され、各教官それぞれの専門に応じた多方面の研究が行われており、医学部を始めとした関係機関との共同研究も盛んである。

笹田昌孝教授（内科学、血液学）は、白血病を中心とする造血器疾患の病態解析と治療を課題とする。とくに食細胞（好中球・単球・マクロファージ）の生体防御機能について、基礎的検討に加えて腫瘍排除に向けた臨床応用を目的とした研究を、生物学的、生化学的に行っている。また、感染症について宿主の側より基礎的・臨床的解析を行っている。



衛生技術学科（血液学実習風景）

藤田正俊教授（循環器内科学、

臨床医学総論、臨床生理学、臨床病理学総論)は、虚血性心疾患を中心テーマとして、労作性狭心症に対する新しい内科的治療法として虚血部への冠側副血行路を発達させるヘパリン運動療法を開発し、基礎的・臨床的解析を行っている。また、心血管事象の概日リズムの成因に冠血管トーンの日内変動が重要であることを実証し、その機構解明を進めている。

福田善弘教授(消化器内科学、臨床検査総論、臨床免疫学 他)は、肝発癌・進展機構の解明、肝癌細胞の特性、肝細胞障害機序の解明を主なテーマとしてとり組み、治療応用をめざしている。

田畑勝好助教授(臨床化学、検査管理総論)は、酵素を試薬とする生体成分の分析法の開発に関する研究を行っており、とくに化学発光法と固定化酵素を組み込んだフローインジェクション分析(FIA)方式を用いての生体成分の高感度分析法の開発と生体液中微量金属イオンの酵素的分析法の開発に関する研究を進めている。

岸下雅通助教授(微生物学、臨床微生物学)は、細菌の毒素遺伝子をはじめ、最近では、ヒト・マウスなどの細胞の増殖・分化にともなう遺伝子発現の変化というテーマで、医学部分子病診療学教室と共同研究を行っている。

池本正生助教授(臨床検査総論)は、生体内酵素の臨床化学分析への応用に関する研究を行っている。とくにヒト肝臓アルギナーゼの肝細胞障害に関する新しいマーカー酵素としての意義を臨床生化学的に研究している。また、本酵素の白血球細胞膜表面上への結合に対する意義を免疫学観点からも研究を進めている。

笹山 哲助教授(情報科学概論、医用工学概論、検査機器総論)は、連続動脈圧測定装置の開発とその応用を中心に、各種の非侵襲測定装置から得られるデータや画像の情報処理・分析に関する研究を行っている。また、コンピュータネットワークを利用したハイパーメディアシステムに関する研究も進めている。

中村紀士子助手(臨床血液学等実習)は、造血幹細胞の分化増殖及びCSF産生重傷におけるCSF遺伝子発現機構の解析に関する研究を行っている。

木戸隆宏助手(生化学等実習)は、核内タンパクの修飾物質であるポリ(ADP-リボース)の生理的意義の解明、並びにDNA診断技術の開発を行っている。

Ⅳ 理学療法学科

本学科は、全人間的復権を目的とするリハビリテーション医学に対する社会的要請にこたえて、昭和57年(1982)に新設された。本学科では、身体に障害のある人の基本的動作能力の回復を図るための知識と技術を教授し、かつ研究している。3年間の在学期間中、専門職として必要な能力と倫理観及び豊かな教養を備えるよう教育し、また多くの実習を通じて国民の保健医療の進歩向上に寄与しうる理学療法士

を育成している。

卒業生は、理学療法士国家試験に合格した後、主に病院、リハビリテーションセンター、老人施設、及び小児施設などに就労している。これからは保健所、救急施設などや研究所でも活躍することが大いに期待されている。

濱 弘道教授（整形外科学、リハビリテーション医学）は、運動障害を筋と末梢神経との関係において捉えるため、生理学的、生化学的ならびに病理解剖学的に実験的研究を行い、さらに、これに関連する臨床的データを集積することによって、運動療法とくにスポーツ医学における運動療法の意義を考究している。

野村 巖教授（解剖学、生理学）は、神経系における伝達物質や調節物質とそれらの受容体の脳内分布を免疫組織化学的手法で検索している。また、神経系の繊維連絡を解析する立場から咀嚼及び味覚に関与する中枢神経系要素の役割を研究している。

森永敏博教授（リハビリテーション概論、理学療法概論、運動療法、物理療法）は、運動と筋損傷の関係について、スポーツなどによって生じる局所障害の発生原因に関する基礎的研究を行っている。また、物理療法における極超短波について、その照射形態による深部熱の発生様式及び治療効果の相違についても研究を行っている。

鈴木康三助教授（運動療法、日常生活活動、義肢装具学）は、義肢装具材料の開発研究ならびに運動療法に関する研究を行っている。また、慢性閉塞性肺疾患の呼吸理学療法に関する研究、運動負荷と筋損傷の基礎的研究も行っている。

黒木裕士助教授（理学療法概論、理学療法評価法、理学療法技術論）は、健常者及び身体障害者の歩行運動を酸素摂取量の測定ならびに身体重心の位置・運動エネルギー変化の計測によって研究している。また、スポーツ外傷・障害の理学療法に関する研究及び筋肉の遠心性筋収縮による筋損傷の研究も行っている。

市橋則明助教授（臨床運動学、物理療法、日常生活活動、理学療法概論）は、老化、臥床、傷害が筋に与える影響に関して、MRI 三次元画像解析法を用いて研究を行っている。また、廃用性筋萎縮を防止するために必要な運動量を明確にするた



理学療法学科（義肢装具学実習風景）

めに、一般に行われている筋力増強訓練の筋電図学的解析を行っている。

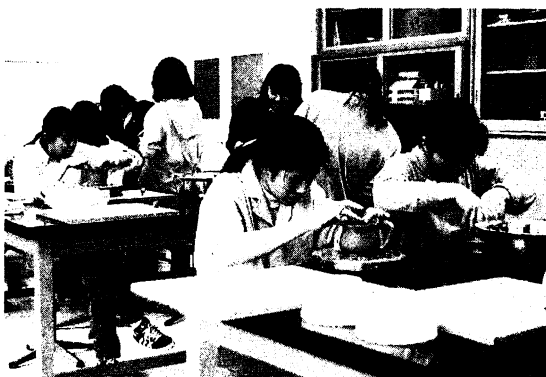
浅川康吉助手（理学療法評価法）は、高齢者・障害者が日常生活活動を自立するのに必要な体力水準に関する研究を行っている。

羽崎 完助手（理学療法概論）は、神経筋促通手技（PNF）の筋活動様式及び選択的・効率的な筋力増強訓練法を明確にするため筋電図学的研究を進めている。

池添冬芽助手（理学療法概論）は、股関節及び膝関節周囲筋の筋収縮特性に焦点をあて、定量的評価方法並びに訓練方法の確立に向けて基礎的研究を進めている。

V 作業療法学科

本学科は、理学療法学科とともに昭和57年（1982）新設された。3年の課程において作業療法士として必要な教養科目、基礎医学、臨床医学、リハビリテーション医学、作業療法概論、作業治療学など幅広い教育が行われ、作業療法士国家試験を受ける資格が与えられる。作業療法士は、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害のある者に対し、



作業療法学科（基礎作業の陶芸実習風景）

し、種々の治療的活動（activity）を応用して適応能力を獲得させ、可能な限り自立した社会参加ができるよう援助する役割を担っている。また、潜在能力を最大限に引き出すために環境や手段に工夫を加えることも作業療法の特色である。卒業生のほとんどは病院その他の医療施設に就職するが、3年以上の臨床経験を終えた卒業生の中には教育・研究職に就く者も出始めている。

高橋清之教授（病理学）は内分泌病理学を専門とし、ことに橋本病、糖尿病等の人体例や実験動物例につき組織学的、免疫組織化学的、電子顕微鏡的検索を加え、発生機序などを病理学的に研究している。これらの基礎知識は作業療法士にとって治療計画を立案する上で問題点の原因を研究したり、禁忌事項を配慮したりする際に欠かせない情報を提供している。

松本雅彦教授（精神医学、臨床心理学、作業療法演習）は精神分裂病の精神病理・精神療法を臨床の場で研究してきた。特に、精神科作業療法における“治療者-患者”関係のあり方に関する研究を主な課題とし、作業療法士にとって医療専門職

として望ましいパーソナリティーの育成に助力している。

小西紀一教授（作業療法概論，作業療法評価法，作業治療学-発達障害）は，精神障害・痴呆老人・高次脳機能障害・発達障害に対する作業療法の領域における感覚統合療法の適応とその効果及び限界を神経機能学的観点から臨床的に検証する研究に従事し，現在自閉症児のコミュニケーション能力の発達を中心的課題として取り組んでいる。

山根 寛助教授（基礎作業学，作業療法評価法，作業治療学-精神障害）は，作業活動の精神面に対する機能と作業活動を媒介とした対象関係を研究課題とし，主として精神障害・痴呆老人に関する作業療法の臨床領域の研究と作業療法士の教育をしている。

早川宏子助教授（作業治療学-身体障害，作業療法技術論）は，身体に障害を持つ成人，高齢者の生活の質を向上させるための活動を身体的，社会的，文化的に分析し，生活基本課題の遂行能力の開発と援助及び障害者における健康について研究している。

赤松智子講師（作業療法管理学，作業治療学実習-身体障害，作業療法技術論実習）は，神経・筋疾患由来の身体障害を持つ人や高齢者に対する作業療法について，地域リハビリテーションとの関連について，高次神経障害の神経心理学的分析及び治療について研究している。

小野 泉助手（作業療法評価法実習，基礎作業学実習，作業療法技術論実習）は，上肢運動機能障害の機能評価法並びに機能代償機器の開発及び住環境改善の研究を進めている。

加藤寿宏助手（作業治療学-発達障害，作業療法演習，臨床評価実習）は，学習障害児を主とした軽度発達障害児に対する作業療法の効果を症例を通し研究している。

腰原菊恵助手（作業療法評価法-精神障害，基礎作業学実習，臨床評価実習）は，精神障害者への作業療法の過程を症例を通して研究し，あわせて学生の実習指導をしている。

VI 助産学特別専攻

助産学教育は，人間の性と生殖に関わる生活上の援助を目的として，看護基礎教育の上に一年間の積み重ね教育を行っている。対象は，ライフサイクル各期の女性であるが，妊娠・分娩・産褥期を中心として，乳幼児と家族及びそれを取りまく地域社会が含まれる。

近年，小産志向が定着し，貴重な出産体験への期待が高まる一方で，家族や地域

社会の援助機能は低下したと言われる。その中で、母親が産後の発達危機に陥らないで、母子相互作用により自信を持って育児ができるよう援助する役割も重要で、これらの一連の助産過程を科学的・系統的なステップを踏んで学習させている。教育実習は、病産院における周産期の実習と、生活の場における新生児訪問や家族計画指導、ひいては結婚教育（性教育）を実習させ、地域保健医療のあり方と助産婦の役割についての認識を高めさせている。



専攻科助産学特別専攻（母親学級実習風景）

修了すると、助産婦国家試験の受験資格と受胎調節実地指導員の資格が取得できる。他に大学において16単位を修得し審査に合格すれば、学位授与機構により学士の学位を授与される。

我部山キヨ子教授（助産学概論、生殖科学、母子行動科学、助産診断学、助産技術学、助産業務管理、助産学研究）は、出産時のケアの質の評価や周産期を中心とした母性心理の研究を行っている。特に分娩時の産痛や産後のマタニティ・ブルーについて、臨床的に検証する研究に従事している。

山崎あけみ講師（生殖科学、助産技術学、助産診断学、地域保健）は、近年の出生率の低下と女性の社会進出に注目し、母親への過渡期から育児期間中の女性としての自己イメージ、理想的自己、自尊心の変化及び、母親役割行動取得過程に関する研究を行っている。

堀内寛子助手（助産学実習）は、産婦やその家族にとって“満足なお産とは？”を、自己テーマに分娩期の助産ケアのあり方について、また、母性の基盤となる思春期では、親準備性や性教育領域についての研究を行っている。

また、この他にも出産体験に関する研究、地域母子保健サポートシステムの研究や家族ケアの質の評価に関する研究などについて、学外との共同研究を行っている。

表 1

沿 革

明治32.	9	京都帝国大学医科 大学附属医院看護婦見習講習科設置
35.	2	京都帝国大学医科 大学附属医院産婆講習科設置
44.	11	京都帝国大学医科 大学附属医院産婆養成科設置
大正 5.	3	京都帝国大学医学部附属医院看護婦講習科と改称
11.	4	京都帝国大学医学部附属医院看護婦産婆養成所看護婦科並びに産婆科設置
昭和20.	4	京都帝国大学医学部附属医院厚生女学部設置
22.	10	「京都帝国大学」は「京都大学」となる
23.	5	京都大学医学部附属医院厚生女学部に専攻科を設置、従来のものを厚生女学部本科と呼称
25.	4	京都大学医学部附属病院厚生女学部専攻科は甲種看護学校として指定
26.	3	京都大学医学部附属病院厚生女学部専攻科を京都大学看護学校と改称
	4	京都大学看護学校を京都大学医学部附属看護学校と改称
27.	9	京都大学医学部附属看護学校助産婦科設置
29.	4	京都大学医学部附属看護学校助産婦科を医学部附属助産婦学校と改称
34.	4	京都大学医学部附属衛生検査技師学校設置
47.	4	京都大学医学部附属臨床検査技師学校設置
50.	4	京都大学医療技術短期大学部看護科設置 専攻科助産学特別専攻設置
51.	4	看護科を看護学科と改称 衛生技術学科設置
57.	4	理学療法学科・作業療法学科設置
平成 4.	12	専攻科助産学特別専攻は学位規則第6条1項に規定する専攻科として認定

表 2

職 員 数

(平成9年5月1日現在)

区 分	学 長	教 授	助教授	講 師	助 手	事務官等
	学長(1)					
一 般 教 育		4	3			
看 護 学 科		4	3	3	5	
衛 生 技 術 学 科		3	4		2	
理 学 療 法 学 科		3	3		3	
作 業 療 法 学 科		3	2	1	3	
専攻科助産学特別専攻		1		1	1	
事 務 部						12
計	学長(1)	18	15	5	14	12

学長は京都大学総長をもってあてゐる。

表3

学 生 数

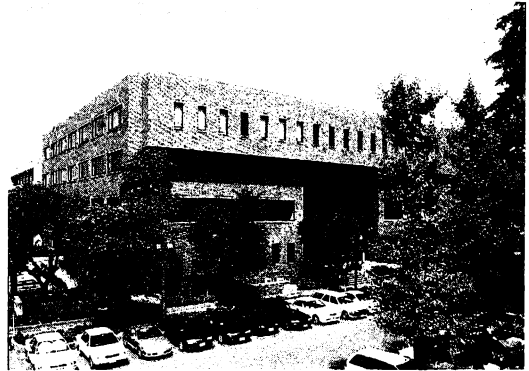
(平成9年5月1日現在)

学科名	学生数	入学定数	総定員	現 員			
				1年次	2年次	3年次	計
看護学科	80	80	240	79	87	79	245
衛生技術学科	40	40	120	39	46	38	123
理学療法学科	20	20	60	20	23	20	63
作業療法学科	20	20	60	20	31	20	71
専攻科助産学特別専攻	20	20	20	22			22
計	180	180	500	180	187	157	524

5章 附属図書館

I はじめに

京都大学の図書館は、附属図書館（中央図書館）及び総合人間学部を始めとする10学部、化学研究所等の研究所・センターの60以上の図書館（室）からなり、それぞれ特色ある収書・利用体制で教育・研究図書館（室）としての役割を果たしている。その機能分担は「調整された分散方式」といわれるシステムを採っており、附属図書館は、研究図書館と学習図書館双方の機能



現在の附属図書館

を備え、学生・教官の研究・教育を支援するだけでなく、学内図書館（室）の相互協力などの連絡調整機能及び保存図書館の機能をも果たしている。また、学術情報の全学的ネットワーク形成や業務電算化を推進する役割も担う全学図書館（室）の中核としての総合図書館機能も兼ね備えている。一方、対外的には近畿地区国立大学図書館協議会の幹事館であると同時に、学内図書館（室）と全国大学図書館との連絡調整窓口でもある。京都大学の図書館を代表する組織としての附属図書館を以下に紹介する。

II 沿革

京都大学創立当時の木下廣次総長は前任の東京帝国大学にあって、図書館管理という、今でいえば附属図書館長というべき役職を経験していた。したがって京都帝国大学という新しい学問研究の場での図書館の使命なり目的について明確な理念を持っていた。これは一口にいうと「開かれた図書館」構想ともいえるべきものであって、後々まで附属図書館の特徴の一つに数えられるものとなった考え方である。

まず創設期の歩みを当時の図書館の出版物から眺めてみよう。

「京都帝国大学附属図書館ハ明治三十二年十二月十一日ヲ以テ開覽ヲ開始セリ仍テ此ヲ創立ノ日ト定ム 之二先ツ二年大学創設事務ノ開始セラルルヤ理工科大学教室ノ一隅ニ仮図書室ヲ設ケ早ク購入図書ノ整理ニ着手シ 又本学創立記念ノ為各

所ヨリ寄贈セル図書ヲ受納シタリキ」

これは明治41（1908）年刊行の『京都帝国大学附属図書館案内』に載った附属図書館の創設と開館の事情を説明する記事である。この記事によって建物の竣工以前に、つまり明治30（1897）年6月の京都帝国大学の創立と時を同じくして、購入（あるいは寄贈）された図書の整理が始まっていたことがわかる。しかし公式には、利用者を迎え、実際に閲覧業務を開始した明治32（1899）年12月11日を京都大学附属図書館の創立の日とした。

この明治32年という年は、わが国で初めて図書館に関する法律（勅令第429号「図書館令」）が成立した年という意味で記念すべき年であった。

建物は、明治31（1898）年7月にまずレンガ造り2階建（229.4㎡）の書庫が建ち、引続き同32年7月までに閲覧室、事務室が完成、職員はそれまで創設事務室の置かれていた理工科大学から移転した。（現在教育学部本館の西側にホレンガ平屋建の建物が見られるが、これが創設期の図書館事務室である。）

建物の整備とともに資料の収集も活発に行われ、大学設立の2カ月後には、はやくも初代総長木下廣次名で全国の著名な知識人や蔵書家に書籍寄贈の依頼状が送られている。

今般本学創立ニ付 記念トシテ書籍・文書・標本等御寄贈下サレ候ハバ 永ク之ヲ本学ニ蔵シ 學術研究ノ用ニ供スベク候間 成ルベク御寄贈ニ預リ度 懇請ノ至リニ堪ヘズ候 追テ 本学図書館ハ其設備ノ完成ヲ持チテ本学々生ノ外 一般公衆ノ閲覧ヲモ許シ候様致度希望ニコレアリ候

先の木下総長の「開かれた図書館」構想とは上のような発想とかかわる。木下総長の理念をいま少し追ってみよう。

図書館は勿論設定するの方針を採り既に其設計にかかり居れり。而して設立の暁には勿論公開に爲すの見込にて、即ち学生の研究上に要する書籍の外は勿論、誰人にてても閲覧するの便利を与えんこと蓋し困難の事に非ずと思えり。元來図書館は人民の必要に迫られて設立するものに非ずして、之を設立して置きて何時にても其用に充てん覚悟なかるべからざるものなり。欧



京都帝国大学附属図書館

州にては図書館の完不定をもって、各地方の程度如何を測度するの観あり。而して我国の如き東京に唯一あるのみ。故に一事を調査せんとすれば、遠方の者と雖ども東京に出でざるべからず。不便も亦甚しと云ふべし。故に京都に之を開設して我国西部の必要に必ずべし。

これは「京都帝国大学附属図書館の設立—木下総長の談片」と題された明治30年8月29日付けの『大阪毎日新聞』の記事である。前半はこれまでに見てきた図書館閲覧の一般への開放であるが、後半は国立国会図書館関西館の構想の先取りといつてよからう。木下はこの後更に地域ごとの特色を生かした主題別図書館ともいえる発想を披露している。

これより先、当時まだ東京帝国大学文学部の大学院生であった島文治郎は近代図書館に関する研究を京都帝国大学より委嘱されていたが、準備の進展とともに自らも創設事務に加わり、次いで明治32（1899）年11月初代の附属図書館長に補任された。補佐する職員は計10名であり、その事務機構は図書受付掛等の5掛であった。

閲覧は開始されたが、電燈設備が整ったのは明治36年6月であった。その性能は当時としては素晴らしいものであったらしく、「電燈ハ散光白熱式ニシテ反射ノ理ニヨリ室内平均ノ光線ヲ散布スルハ殆下他二類ナキ所ナリトス」と記されている。

創設当時すでに6万冊に近い図書を蔵していたが、以後、各年度ごとに平均16,000冊前後増加し、明治35（1902）年度末には10万冊を超える蔵書を持つに至った。そのため同36年4月には第2書庫としてレンガ造り3階の建物を増設している。第1書庫と併せて約40万冊を収蔵できる規模になった。

附属図書館の重要事項を審議する商議会の名称は明治41（1908）年12月1日付けの達示第19号に初めて記録されている。「商議会規程」の第5条は、「(1)図書館ニ関シ総長ヨリ詔詢ノ件、(2)図書館長ヨリ提議ノ件、(3)図書館ニ関シ委員ヨリ提議ノ件」の3項目を審議するものと定めた。

第1回の商議会が同42年2月17日に開催され、「本学図書（各分科ヲ通シ）印刷目録（Author catalogue）調製希望ノ件」という議題が館長から提案された。当時の目録カードは簡単な手書きのものしか残っていないので、この案は実行されなかったものと考えられるが、この早い時期に全学に共通して使える印刷目録を構想していたことは注目し得る。

明治43（1910）年、初代の館長は、第三高等学校教授に任ぜられ、在任11年で附属図書館を去った。創設期の図書館を軌道にのせた島は、また図書館の啓蒙運動家としても先駆者の一人であった。附属図書館創設の翌年、同33年1月に島は、館員笹岡民治郎、秋間政磨とともに「関西文庫協会」の設立を發議し、翌34年4月に日本最初の図書館雑誌である『東壁』を發刊した。

島館長の後任は、明治31年から図書館事務取調委員として創設の業務に携わってきた石川一であった。石川は学生監であったため、まず司書官に任ぜられ、次いで第2代館長に補せられた。注目すべきこととして、「京都帝國大学増加図書月報」の発行とアメリカ議会図書館カード型印刷目録の既刊分と継続刊行分の受入とがある。

第3代館長は、明治44（1911）年より昭和11（1936）年に至る25年の長期間その職にあった新村出である。言語学者として古今両洋の文献に精通し、附属図書館が誇りとする特殊文庫の大半は新村館長の在任中に収集された。

大正2（1913）年9月12日に開催された第9回商議会は、臨席した総長澤柳政太郎のかねての腹案である図書統一計画の審議に多くの時間を割いた。この統一計画というのは、各学部、研究室には研究上不可欠な文献のみを置き、他の図書は可能な限り本館に集中することにより、取書と整理に合理的効果を与えようとするものであった。しかし、分科大学側からの積極的な賛成は得られず、結論は見送られた。これは総合大学における図書館の管理方式としての集中化と分散化に関わる問題であり、今日なお多く議論を呼ぶところである。

大正9（1920）年4月28日に開催された第12回商議会は、大学図書館の理念に関わる重大な規則改正を提案した。第1条の附属図書館は「図書ヲ貯蔵スル所トス」を「図書ヲ収蔵シ図書ニ関スル一般事務ヲ処理スル所トス」に変更しようとする提案であった。大学図書館を単に図書の収蔵庫とみなすような考え方は、図書館側の実践を通じて打ち破られつつあったはずであり、商議会もこれを承認した。しかし、総長の決裁が得られず、この条文改正案は、図書館理念が大きく変わり、利用者へのサービスを優先させるという考え方が定着する戦後を待たねばならなかった。

蔵書の増大に対応するため、大正14（1925）年7月鉄筋4階建の第3書庫が増設された。

昭和11（1936）年1月24日、本館の玄関に接する新聞閲覧室から出火し、閲覧室と附属建物のほとんどが焼け落ちるといふ不幸な事件が起った。この時焼失した図書は約3,000冊、破損約320冊、閲覧用目録カードの焼失約36万枚に及んだ。

これに代る新しい建物は昭和14（1939）年5月に着工したが、激化する戦局の余波を受けて、当初の計画を大幅に縮小せざるを得ず、しかも外郭が建造されただけで、後の工事は一向に進まなかった。その間、閲覧室は法経4番教室、本部大ホール等を転々としなければならなかったと伝えられている。附属図書館の長い歴史の中でも最も苦渋に充ちた時期であった。

明治44（1911）年、就任以来引き続き館長の職にあった新村出が昭和11（1936）年10月定年退官し、第4代館長として羽田亨が就任した。羽田館長は中央アジア史

学の権威であり、新館を文献資料のみでなく考古学・美術資料も収集・保存・提供する施設として構想した。しかし翌12年の日中戦争勃発により、この壮大な構想も挫折のやむなきにいたった。羽田館長は同13年京都大学総長に任ぜられたため、経済学部の本庄榮治郎教授（日本経済史）がその後任に補せられた。

昭和15（1940）年1月新館建築のための地鎮祭まで行われながら、戦局の拡大により工事は中断され、外郭のみが空しく戦後まで残された。いわゆる「暗い谷間」の時代の始まりであり、大学と図書館を取り巻く環境は年ごとに悪化していった。

時代の影響は先ず出版物の内容に対する規制という形で現われてきた。雑誌「自由評論」、「憲政公論」等が「安寧秩序ヲ妨ルモノ」との理由で初めて閲覧禁止になったのは大正10（1921）年のことであるが、昭和10年代になると思想・言論の自由な表現への禁圧は日常的な風潮となっていくのであった。

本庄館長は昭和17（1942）年7月困難な時代の後事を文学部澤湯久孝教授に託して退任した。すでに学生の在学年限は昭和16年から短縮され、戦火によって大学の機能そのものが失われはじめていた。昭和19（1944）年4月第19回の商議会が開かれたが、主たる議題は図書棟開、図書の手入難に伴って学生の読書の便をいかにして図るか等であった。

昭和22（1947）年に澤湯館長は退任し、同じく文学部の原随園教授に引継がれた。原館長は同年制定された「附属図書館長銓衡手続内規」によるはじめての公選による館長であった。緊急の課題は昭和15年に起工し、外郭だけが残った建物の完成であった。戦後の混乱期ではあったが、全学挙げての支援と協力により昭和23（1948）年2月竣工式を迎え、仮住いの閲覧室、事務室が新館に移された。

第8代泉井久之助館長の時代（昭和24年11月～32年7月）は大学制度の変革と定着、新しい図書館の理念の確立の時代であった。旧制度の京都帝国大学は医学専門部と第三高等学校を吸収し、新制京都大学として再発足した。また相次ぐアメリカ教育使節団の勧告や各地に設けられたC I E図書館との接触を通じて、図書館についてのアメリカ的理念が徐々に浸透しはじめていた。短期間ではあったが昭和24年6月末より本館内に開設され、一般市民に開放されたクルーガー図書館などもそのような生きた実例であった。泉井館長自身も昭和25（1950）年10月より約5カ月間、招かれてアメリカの大学図書館を視察した。

昭和30年から40年代にかけて、図書館の指導に当たったのは田中周友（法学部）、堀江保藏（経済学部）、尖戸圭一（工学部）、平岡武夫（人文研）の4館長であった。

昭和30年代の附属図書館の目立った動きのひとつはマイクロフィルムによる文献複写の開始と飛躍的な増加である。当時、現在のような複写機はなく資料をマイクロフィルムに撮影し、印画紙に焼付け、資料の複製を行っていた。昭和31（1956）

年、京都大学をはじめ9大学の図書館がマイクロフィルム・センター館に指定された。全国の研究者による複写申込みは爆発的に増加し、とりわけ欧米の自然科学系文献への申込みが圧倒的であった。

アメリカ議会図書館が従来の目録カードに記載されているデータをコンピュータが読み取れる形で入力し、その磁気テープ（LC MARC）の頒布を始めたのは昭和44（1969）年からである。附属図書館における業務機械化（電算化）への動きは、翌年の「フォートランによる文字情報の処理」研修会が弾みとなって「業務機械化作業グループ」が結成された。

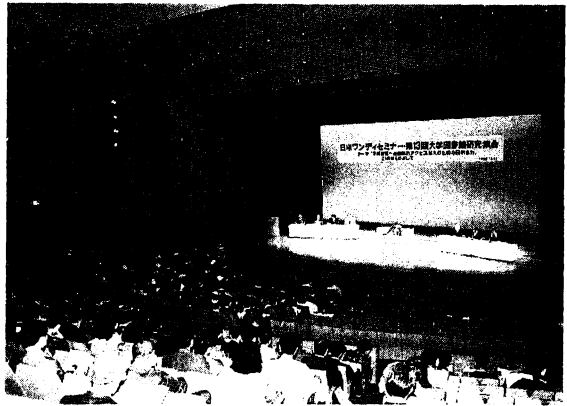
昭和55（1980）年に入って京都大学全体としても、この問題への対応は急務となった。「学術情報問題調査検討委員会」が設けられ、当時の林良平館長が委員長に就任した。同委員会は昭和55（1980）年10月総長あてに中間答申を提出した。この頃積年の念願だった新図書館建設計画も検討され、昭和56（1981）年6月発行の館報「静謐」（号外）は、林館長の一文「京都大学附属図書館の新営について」を掲げた。以後、本館は新営建築へのさまざまな準備と来るべき学術情報の電算処理という課題を担って歩み始める。新館は昭和58（1983）年10月竣工し、翌59年4月9日に開館するが、その際、閲覧システムが同時に稼動し、図書館業務の電算化の第一歩を踏み出した。

昭和58年には、新館運営のため抜本的な見直しが行われた。経費面では、従来文部省配当の予算のみで運営されていたものを、積算校費、教育研究特別経費からの支援を受け、財政面の改善が実現した。また昭和60（1985）年には、「京都大学附属図書館規程」、「京都大学附属図書館利用規程」等が全面的に改正され、新たなスタートを切った。

新営なった附属図書館にとって当面の課題は業務電算化と雑誌のバックナンバー・センターの設置であった。バックナンバー・センターとは各部局図書館（室）所蔵の逐次刊行物のうち利用率の低下したものを附属図書館に移し、一括管理運用することによって利用の効率化と部局図書館（室）業務の負担を軽減しようとする試みである。部局から保存書庫に集中された資料は10万冊を越えた。業務電算化は、昭和60（1985）年1月に汎用電算機をホストとするシステムが稼動し、受人、目録、雑誌等の業務が電算処理されることになった。

新館への移転、電算化という重大な課題をかかえたこの時期の館長はともに工学部教授であった高村仁一と西原宏であり、続いて就任した西田龍雄館長（文学部教授）は、この基盤に立って、学内外における学術情報システムの構築に取り組んだ。平成2（1990）年1月には初めての電算機の更新（リプレース）が行われ、全学規模での端末配置が完了、同4月には学内LAN: KUINS（京都大学統合情報通信シ

ステム)の運用も開始された。画像情報を扱ったEFS(電子ファイリングシステム)によるサービスも平成3(1991)年に試行運用された。また、海外の学術雑誌の網羅的な収集整備の一翼を担うために、昭和62(1987)年、文部省から外国雑誌センター館として理工学系サブセンターに指定された。



日米ワンデイセミナー

平成4(1992)年4月に就任した朝尾直弘館長(文学部教授)は、国家公務員の完全週休2日制に伴う土曜日の開館を5月から実施した。また10月には、第5回日米大学図書館会議の公開を目的とした「日米ワンデイセミナー」を実施し、翌年11月『21世紀に向けての大学図書館』として報告書がまとめられた。更に我が国では初めての試みとして平成6(1994)年秋季展示会で電子展示を企画し、公開実験を行った。これが電子図書館化への発端である。

退任直前の平成7(1995)年1月の阪神・淡路大震災は大きな衝撃であった。この惨事には、附属図書館からも神戸商船大学、神戸大学の各図書館へ復旧支援に赴いた。

平成7年4月、朝尾館長の後任に長尾真工学研究科教授が就任し、大学図書館の機能強化が叫ばれる中、最新の情報処理技術を駆使した電子図書館構想を強力に推進した。平成10(1998)年1月の電算機システムの更新に併せ、電子図書館システムの手算が認められた。長尾館長は任期なかばで工学研究科長に就任のため館長を退任、同9(1997)年4月、万波通彦館長(工学研究科教授)が就任し、電子図書館システム構想の実現に向けて商議会に電子図書館専門委員会を設置した。

Ⅲ 情報の発信源としての図書館 — 蔵書の管理と保存 —

図書館を外部から眺める人は当然のことながら、図書館資料の閲覧、貸出等利用の面に多くの注意を寄せるであろう。しかし、図書館資料が利用者の手に触れるまでには、実に多くの人手と時間を要している。資料の選択、会計的処理、分類、目録、ラベルなどの装備を経て、ようやく資料はサービスの現場(利用者の手)に移る。

サービス現場を支える資料整理を担当しているのが情報管理課の受人、目録の2掛である。この他、電子化情報を制作しコンピュータネットワークを通じて提供する電子情報掛と、ネットワークで結ばれた全学の図書館業務システムの運用・管理を担当するシステム管理掛がある。



オンライン利用者用目録 (OPAC)

寄贈資料以外は、商議会选择書分担商議員会議(学生図書、特別図書等)及び館内選書委員会で選書され、購入が決定される。これらの資料は会計の処理、図書登録番号を付与の後、本学の蔵書となる。この受人れ手続きは受人掛が担当しており平成8年度全学では、87,982冊受人れている。図書以外の雑誌、視聴覚資料、電子的情報資料(CD-ROM等)の受人れも同掛が担当する。

次に図書館資料は目録掛に移り、資料を主題別に分類、配置場所のデータ等を作成する。今日の日録作成は全国的に図書館資料(図書、雑誌)を共同分担して目録所在情報データベースとして形成している。現在、全国500の機関から図書、雑誌併せて3,000万件のデータが学術情報センターに蓄積されているが、本館ではこのサービス開始当初よりこれに参加、平成5年12月には全学的な人力体制が整備された。

目録所在情報データベースや平成9年4月から新たに提供を開始した画像情報データベースは、コンピュータとネットワークで構成される情報通信ネットワークシステム学内LAN-KUINS(京都大学統合通信システム)上で稼働している情報サービスである。システム管理掛ではこれら情報サービスのサーバとなっている図書館業務システムの運用管理を担当している。これと併せ、インターネット・ホームページの公開、オンライン利用者用目録(OPAC)、スタンドアロン(単体)型を除くネットワーク上でのCD-ROM文献情報データベースのサーバ管理も同掛が担当する。

京都大学では、教育・研究の高度化、高等教育における個性化、大学院重点化を包括する大学組織・運営の活性化を進めている。世界的にも欧米を始めとする大学図書館の高度情報化、電子図書館化への整備が急速に進んでおり、我が国でも学術審議会の建議(平成8年7月)にもその方向が明確に示されている。

建議では、電子図書館とは「電子的情報資料を収集・作成・整理・保存し、ネットワークを介して提供するとともに、外部の情報資源へのアクセスを可能とする機能をもつもの」と定義されている。附属図書館は平成10年1月、次期図書館システムの更新を機に高度電子図書館システムの導入を進めている。

附属図書館が導入しようとしている電子図書館は、システム（ハード）の面ではサーバクライアント方式を基本とした分散方式で、附属図書館及び部局図書館（室）が一体となった全学的規模のATM-LANを介して情報の発信、配信を高度に機能させることを目指している。情報内容（コンテンツ）の側面からは、従来から行っている貴重書画像情報データベースに加え「京都大学百年史」など「京都大学エンサイクロペディア」の形成を目指し、学内で所蔵、発生する学術情報を著作権にも充分配慮のもと、積極的に発信していく。平成8年1月にはインターネットホームページを開設、貴重資料、図書館利用案内等のデータを公開し、さらに同8年度には国宝・重要文化財の文字・画像データを作成し、蔵書検索（OPAC）の人力件数も現在71万件に達し、更に充実する予定である。

情報配信の面では、CD-ROMデータベースのネットワークサービスの充実を目指し、現在のMEDLINE、GeoRef、PsycLit、BA on CD（農学部提供）に加え、CAやBeilsteinを追加し、更に電子ジャーナルの利用など、より多様なコンテンツの導入を計画している。

附属図書館の資料購入費については、その多くは大学の共通経費から配分されている。一方、文部省は昭和37（1962）年度から国立大学経費のなかに特別図書購入費という費目を計上した。これは通常の図書館経費では高額すぎて購入できない叢書、雑誌のバックナンバーなどに向けられる予算である。大学院をもつ人文・社会科学系学部を対象にして配分される。折から戦前及び戦中に刊行された海外の文献が多数再版されはじめた時期にあたり、通常の経費では人手できなかったもののがかなり確保できるようになった。また昭和46（1971）年度からはより多額の学生用図書費が配当されるようになり、学生用図書や参考図書の整備充実に役立っている。また、昭和53年度から配分されている大型コレクション購入経費によって、近年受入れた資料は次のようなものがある。

平成6年度 蘭学関係貴重原書

平成7年度 ドイツ雇用・労働関係基本公報集成

平成8年度 古地図及び地理学文献コレクション（室賀コレクション）

附属図書館の蔵書は平成9（1997）年3月末で約78万冊に達した。京都大学全体の蔵書数547万冊に比べると約15%を占めるにすぎない。しかし、大学創立時より古典籍の収集に努めて、京都という地理的条件を生かして名家に伝えられた家伝書の

多くを継承してきた。ここに京都大学附属図書館の蔵書構成の大きな特徴がある。国宝・重要文化財に指定された図書、特殊文庫と貴重書のうち、代表的なものを以下に紹介する。

国宝「鈴鹿本 今昔物語集」

平成3年10月、京都市在住の鈴鹿紀氏より本館に寄贈され、

同7年6月重要文化財、同8年6月国宝に指定された。現在最古の写本で始本とみられ、平成3年度から修補された9冊は地下貴重書庫に保管されている。だ、解明されるべき部分も多く、今後の学術的研究が待たれる。

重要文化財

附属図書館の所蔵する国宝以外の重要文化財は39種170冊である。このうち34はいわゆる「清原家家学書」に属する。家学書中の「周礼疏」、「孝経述義」、「中冊」の3点は戦前の法律で国宝に指定されていたが、昭和25(1950)年の文化財保護法施行により、いずれも重要文化財として指定替えされている。

この他の重要文化財としては、「万葉集(尼崎本)巻16 1帖」、「兵範記」、「信記」、「範国記」がある。

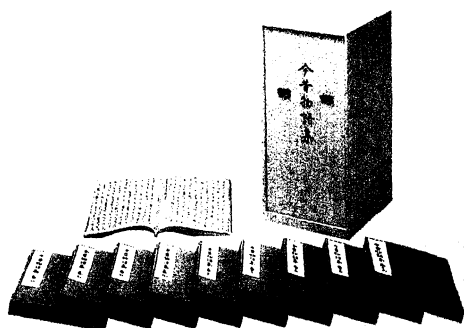
特殊文庫

平松家本

公家西洞院時慶を祖とする平松家は代々朝廷の記録を司る家柄であり、家蔵書うちには朝廷の儀式典例、日記類などに貴重なものが多い。日記類のうち先に挙げた「兵範記」、「知信記」、「範国記」はいずれも重要文化財に指定されている。また万葉集、古今和歌集などの勅撰和歌集や伊勢、源氏等の物語類の写本、註釈など見るべきものがある。眞名字本「平家物語」は平家異本の一つであり、研究者のい評価を得ている。

清家文庫

清家文庫は清家(清原氏)を家祖とする元子爵舟橋氏の伝襲本である。清原家蔵書は明経博士家の家柄であったため経書を中心にして、儒学に関するものが中心であるが、同家の日記、秘伝、口宣案等の文書類も重要である。とくに注目すべ



国宝「鈴鹿本 今昔物語集」

は「周礼疏」,「孝経述義」,「中庸」は重要文化財に指定されている家学書群である。このうち「孝子伝」1巻は本館創立60周年の記念事業の一つとして、昭和34(1959)年12月に影印複製され、学界に紹介された。

近衛家本

近衛家本の大部分は明治から大正の一時期に附属図書館に寄託されていたが、昭和13(1938)年陽明文庫が設立される際に寄託を解除し、返還された。近衛家から、この時附属図書館が約半世紀の間寄託典籍の保管を全うしたことに対する感謝の証しとして、同文庫に属する典籍219部、3,150冊を本館に寄贈された。この時の寄贈書が現在附属図書館でいう近衛家本である。漢籍を多く収めるが、「宇津保物語」、「落窪物語」、「大鏡」などの国書写本も含まれている。

中院家本

中院家は代々国文学、特に和歌の道に通じ、伝世の典籍も多くはその分野のものである。一門の学匠の自筆本、写本、書込みのある手沢本が多く、古文書も数多く含まれている。

谷村文庫

谷村文庫は明治大正の実業家・谷村一太郎氏による集書である。氏は敏腕な実業家でありながら、書齋の閑雅を愛する好学の人であり、「中嶋棕隠と越中」、「青陵遺編集」、「校註老松堂日本行録」等の著作がある。内容はほとんどが和漢の稀覯書よりなる。奈良朝では天平12(740)年の光明皇后願経、平安朝では伝桓武天皇筆の写経、鎌倉時代では建保6(1218)年の大学頭藤原孝範の願文等、きわめて多彩な内容である。総数約9,200冊の各々に印された「秋邨遺愛」の秋邨は同氏の雅号である。

旭江文庫

ダンテに深く傾倒した大賀寿吉氏の旧蔵書である。氏はあらゆる機会にダンテ文献の収集を行い、原典はもとより新聞、雑誌の切り抜きにいたるまで網羅するものであった。文庫目録は昭和16(1941)年、“Catalogo della Collezione Dantesca donata da Giukici Oga”として附属図書館から刊行された。

以上のほか、次のような特殊文庫を所蔵する。

藏経書院本、日藏既刊本、日藏未刊本(仏典・仏書計8,050冊)、河合文庫(朝鮮の文書・典籍2,160冊)、新聞文庫(幕末以降新聞関係861冊)、陶庵文庫(漢籍、洋書8,046冊)、島田文庫(修験道資料等234冊)、菊亭家本(同家旧蔵の歌道・音楽・故実等の家伝書2,357冊)、中井家絵図・書類(建築関係2,267枚・114冊)、維新特別資料文庫(志士の筆跡、稿本、遺品、軸物270、巻物43、図書613、その他)、イ

スバニア文庫（スペインの学術書1,304冊）、Rolls Series（英国中世の記録742冊）

貴重書

「天正少年遣欧使節肖像画」（1586）等和漢書約5,000冊、洋書約500冊のうち、幕末から明治時代にかけて活躍した吉田松陰、坂本龍馬、木戸孝允、高杉晋作等の遺品・遺墨984点を取めた「雑新資料」も本館の貴重書として指定されている。これ等の貴重資料は虫害からの防止あるいは修復に努め資料保存に最善の努力を払っている。

Ⅳ 図書館サービス

閲覧

附属図書館所蔵資料は開架図書・書庫内図書に大別される。開架図書は約9万冊であり、利用者は自由に書架から資料を取り出し閲覧・借出しができる。書庫内図書は約68万冊で、大学院生、教職員は入庫検索ができる。書庫内図書の中にはバックナンバー・センター（BNC）の雑誌約9,000誌、15万冊が含まれている。これらの資料については、他大学・他機関・一般市民は、求める資料が本館に所蔵されていることを確認（ファックス等）のうえ、利用が可能である。他大学関係者は所属大学の図書館長の紹介状または国立大学間共通閲覧証、他機関の者は所属機関長の紹介状、一般市民は身分証明書（保健証、運転免許証等）が必要である。

附属図書館の開館時間は平日は午前9時から午後9時、土・日曜日は午前10時から午後5時までであるが、学外者は月曜日から金曜日の午後5時までに来館すれば利用できる。ただし祝日は休館である。平成8年度、附属図書館への年間入館者は76万人に達し、平日1日平均3,100人、最大5,600人を記録した。また、平成9年度から利用者サービスの改善として、学生部の協力を得て、学生証と図書館利用証の一元化を図り新学部生、新大学院生から学生証で利用が可能となった。

利用者サービス

利用者サービスを担当するのは、情報サービス課4掛である。参考調査掛では、資料の所在



1階メインカウンターとOPAC

調査、利用相談に応じている。学内外からの照会が多数寄せられる。資料運用掛ではカウンターで資料の貸出・返却に対応し、雑誌・特殊資料掛では学術雑誌の運用と貴重書等特殊資料の利用に対応する。相互利用掛では文献複写の受付、図書館資料の図書館間相互利用(HLL)の窓口となっている。

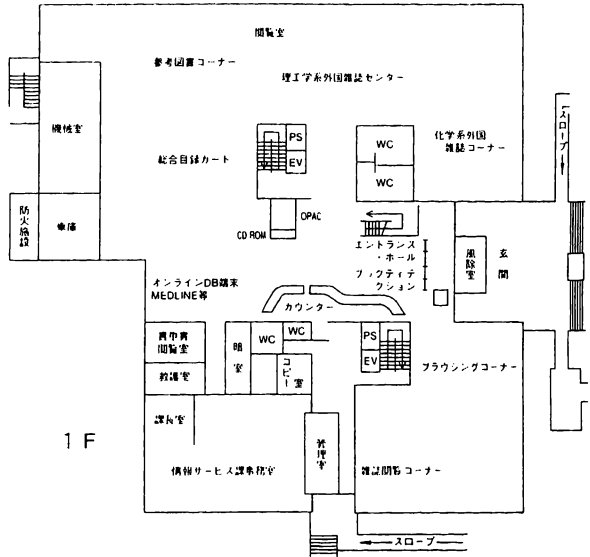
ここで簡単に館内設備を説明しよう。

エントランス・ホールを通り、入館装置(ゲート)

を図書館利用証(学生証)を使用して入館すると、メインカウンターがあり、その正面から右奥に京大総合目録(カード目録)、参考図書—主要な各国の全国書誌、博士論文抄録誌、辞書・事典、各主題別の便覧、抄録、索引誌等々、約3万冊が配架され、参考閲覧席が設けられ、およそ学術情報に関する多種多様な質問に応えられるように準備されている。また、OPAC、CD-ROM用検索端末も設置されている。

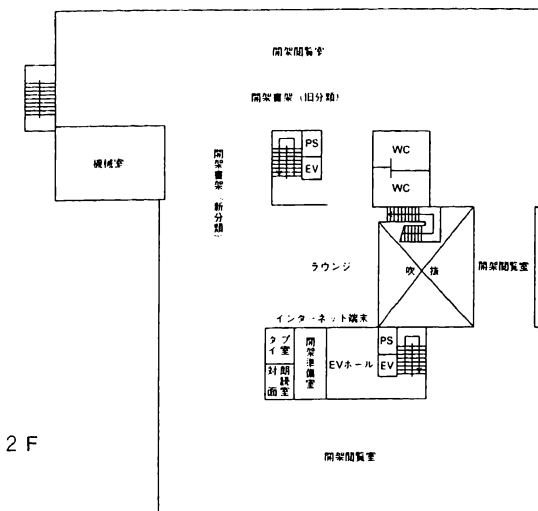
参考図書のコーナーの東側には、理工学系及び工学部化学系外国雑誌コーナーが設けられている。エントランス・ホールを左に折れるとブラウジングコーナー(雑誌閲覧、新聞ラウンジ)があり、ソファが置かれ、代表的な日刊紙、外国新聞などが備付けてある。

2階は開架式の閲覧室であ



2階閲覧席

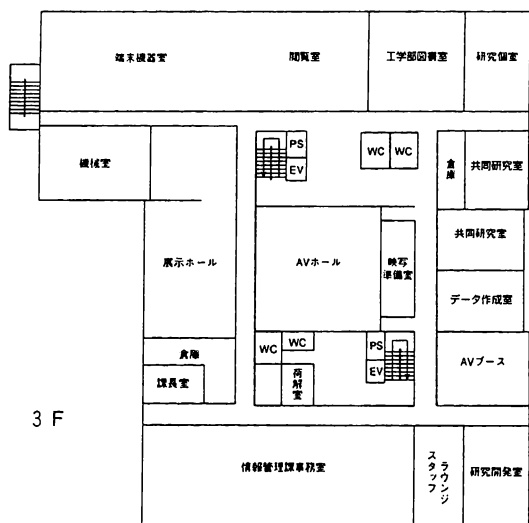
る。利用者は書棚に並んだ図書に自由に接し、求める文献を利用できる。人文・社会・自然科学の各分野にわたる基本的な図書が新刊書を中心に約9万冊配架されている。読書と思索の場にふさわしい雰囲気を生むように木製品を主体にした家具が配置され、座席数約610席は自然採光を考慮して、閲覧室周辺に配置されている。2階閲覧室の中央にロビーラウンジが設けられ、インターネット検索コーナーもある



2 F

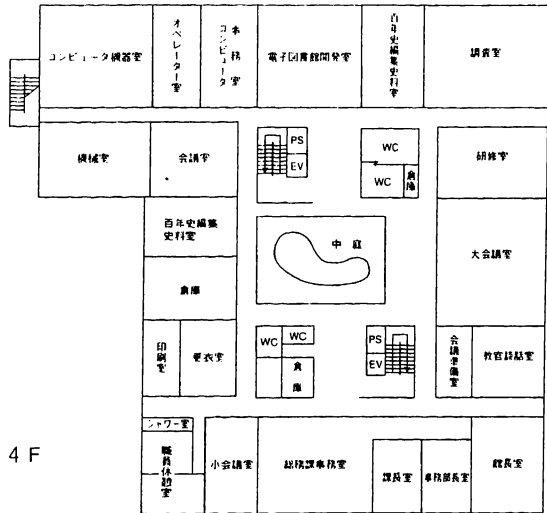
障害者に対して図書館は積極的に奉仕する姿勢を維持している。点字辞書、弱視者用読書機、対面朗読室のほか建物入口のスロープの設置、床面の表示など、設備面でも配慮している。

3階は情報管理課事務室のほかは図書館の多様な利用をめざしたユーザースペースである。北東の一隅に本館の資料を使って研究する大学院学生以上の研究者のために提供される研究個室が、またグループ研究のため、



3 F

20名規模の共同研究室を2室用意している。AVブースは外国語を習得するための音声テープ、ビデオテープ等の視聴覚資料を視聴することができるブースを18席設けている。AVホールは視聴覚機器を設置した教育と研修の場所であり、118席の座席がある。また、本学が所蔵する貴重書等を公開する展示ホールもある。



4階には館長室をはじめとする管理部門、会議室、研修室、教官談話室が置かれている。また図書館の情報処理センターとしての機能を果たすためのコンピュータ機器室、オペレータ室などがある。ここには学内の図書館データを処理するサーバが置かれ、情報処理の中枢となっている。この他、京都大学百年史編集史料室が置かれている。

書庫

地下1階は積層式の書庫で、約25万冊の収容力をもつ。工学部化学系外国雑誌のバックナンバー、和雑誌用の書架があり、本館所蔵の国宝・重要文化財等、貴重資料を保管する貴重書庫もここにある。恒温恒湿の空調設備を備え、木製壁面は落し込み構造となっている。地下1階上層にはマイクロ資料が保管されている。

地下2階には電動式集密書架を設置して、約75万冊の収納が可能である。中央・南のエリアには田分類の和洋図書、特殊文庫、HRAF 資料を配置、北側エリアには全学から収集した学術雑誌のバックナンバーセンター (BNC) が設置されている。

情報の提供—参考調査サービス—

学術情報の所蔵調査・文献調査をするサービスである。例えば研究調査で疑問が生じた場合、これに対して適切な情報を提供したり、使用すべき文献名を提示するなど、利用者を援助する。近年は印刷媒体 (図書・雑誌) のみならずオンラインによる情報検索及びCD-ROM 検索によるサービスも提供している。また、目録検索

用端末の利用指導、図書館利用指導（オリエンテーション）、文献収集講座等も行い利用者サービスに努めている。

情報入手—相互利用・文献複写サービス—

いかに大図書館でも世界各国で生産される情報や文献をすべて網羅して収集できるものではない。このような限界を認め、図書館間でそのよう

な欠落を補い合うのが相互利用である。相互利用活動には種々のタイプがあるが、図書そのものの相互貸借と文献複写及び他大学図書館の訪問利用である。

特に文献複写サービスは、学術情報センターを介してコンピュータ上で処理できる NACSIS/ILL (Inter-Library Loan) システムの運用が平成4年度開始され、利用者の迅速な文献入手が可能となった。

貴重書・特殊文庫の利用

貴重図書の利用に際しては事前の子約が必要である。その利用は閲覧のみが許される。特殊文庫についても大部分は貴重図書なので取扱いは貴重書に準じる。

マイクロ資料の利用

マイクロ資料も新聞、貴重資料、各種コレクション、HRAF 等多数所蔵しており、リーダープリンター類の機器も備え利用サービスに努めている。

所蔵資料の公開としての展示会

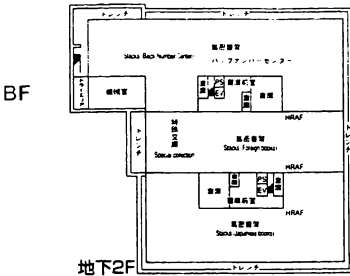
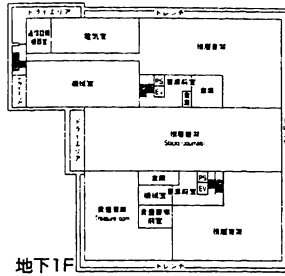
所蔵資料の公開・展示も市民への図書館の一般公開という図書館の果すべき役割りのひとつである。日常には接す



バックナンバーセンター(地下書庫)



国立大学図書館協議会公開事業資料展



ることのできない貴重な図書や特定の主題のもとに集められたコレクションに接することによって、利用者は新しい知識を得、知的好奇心をそそられるであろう。本館における第1回の展示会は、明治33(1900)年12月に催された「附属図書館創立1周年記念展覧会」であり、ここでは(1)本邦古写本、(2)本邦古板本、(3)本邦古活字本、(4)支那古板本及大部書、(5)朝鮮古板及古活字本等々の展示があり、その

展示内容の充実ぶりが見られる。現図書館開館以後、特に公開・展示の活動を重視してきた。近年には以下の展示会を開催している。

平成5年12月1日～10日 「京洛出版の軌跡—五山版、古活字版、八文字屋本」

平成6年9月26日～10月28日 「吉田松蔭とその同志」(電子版展示会も同時に開催)

平成7年10月16日～27日 「舎密局から三高へ」
11月6日～12日 「幕末・明治期古写真等資料展—忘れられた日本の風景、風俗」(国立大学図書館協議会主催)

平成8年11月11日～17日 「『今昔物語集』への招待」

さらに、平成9年度には「京都大学創立百周年記念展覧会 知的生産の伝統と未来」の附属図書館会場での展示を予定している。

図書館の広報活動と研修会

京都大学の図書館への理解を助け、更に図書館の効果的利用を促進するために、各種「利用案内」(「利用のしおり」, 「利用案内」, 「英文案内」, 「中国語案内」, 「LSN」(Library Service News))の発行、利用者に対する利用指導(オリエンテーション

・OPAC/TSS 研修会)・利用者教育等を行っている。また、館報として「静脩」を年4回発行し学部学生、大学院学生、教職員及び全国の主要図書館に配布している。

V 結 び

大学図書館は、教育研究の高度化、高等教育の個性化、組織運営の活性化を内容とする大学改革の動きの中で、学術情報資源を収集・提供・作成することにおいて、積極的にサポートする役割を要請されている。その際の活動指針は、情報発信機能の充実、一般市民への公開、国際化の進展であり、これが京都大学の学術情報流通の指針にも通じるものである。

平成8年7月、学術審議会は大学図書館の在り方について「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」を建議した。情報処理技術(ネットワーク、情報蓄積、処理技術)の急激な向上によって、マルチメディア化・ハイパーテキスト化の進展、および高速の情報通信ネットワークの基盤整備が進み、これに伴うように、CD-ROM等の電子的情報資料が急増し、学術情報の流通形態が劇的に変化しつつある環境下における大学図書館の在り方について指針を示したものであった。

いまや、大学図書館は、学術情報資源の共有の理念のもとに、高度に技術的展開を遂げつつあるコンピュータと情報通信ネットワークを有効に活用した、学術情報資源の収集・提供・作成を内容とするネットワークサービスを展開する時代に入った。コンテンツ・シート・サービスや新着図書館資料案内など、これまでに実施してきた図書館サービスだけでなく、新たに、多様な情報媒体を統合した学術情報資源の電子化(電子出版)を進め、ネットワークを介して情報サービスを提供することが必要となってきた。

大学図書館だけでなく、いわゆる高度情報化の波が大学全体を包もうとしている現在、大型計算機センター、総合情報メディアセンター、総合博物館等学内の諸機関との有機的な連携のもとに、電子図書館機能充実を図り、21世紀初頭の大学図書館のモデルを実現すべく、全学的な検討を進めているところである。

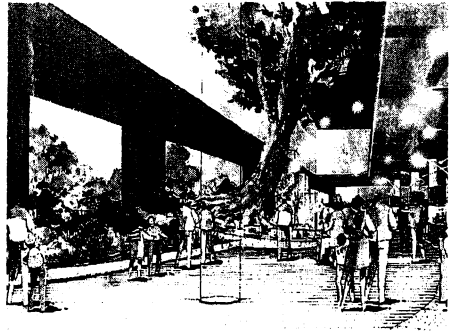
6章 総合博物館

I はじめに

京都大学には、過去100年間に収集・研究された250万点にも及ぶ学術標本資料・教育資料が保存されている。京都大学総合博物館は、文化史・自然史・技術史の各分野にわたる広範かつ多彩で貴重なこれら学術教育資料を集中的に保管・管理し、広く学内外の先端研究・教育への活用を促進し、その成果を一般に公開することを目的として平成9年4月1日設置された。(詳しい紹介は以下のホームページでも行っているので参照されたい。<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>)



総合博物館外観(旧文学部博物館)



総合博物館新館(計画中)の展示イメージ

II 沿 革

(1) 旧文学部博物館—京都大学総合博物館のルーツ

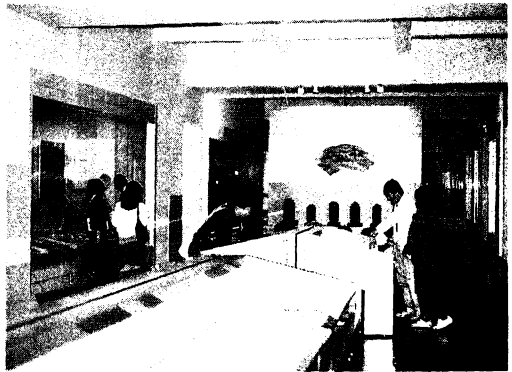
京都大学総合博物館のルーツは、旧文学部博物館にある。東大路通りから直接に入ることができるように建てられた旧文学部博物館は、市民に向かって開かれるという大学博物館の構想をシンボライズする。その背景に大正建築物である旧文学部陳列館の建物の一部を残し、新しい建物と旧い建物をタイル張りの前庭とサツキ植え込みの緑の斜面でつないだ構想は、本学の建築学の教授であった川崎 清博士の名作のひとつであり、いくつかの賞が与えられた。そればかりか、キャンパスのなかでもとりわけこの界隈を愛し、わざわざここを通過して大学に入る人も多い。

旧文学部博物館の歴史は、とおく学部創設以前にさかのぼる。明治30年(1897)京都帝国大学創立の時点で、すでに博物館の構想があり、資料収集がすすめられていた。文学部の前身である文科大学が開設され、史学科が置かれると、古文書・民

俗品、考古遺物、地図・民族資料、美術資料の収集が本格化し、その活動は国内だけではなく、朝鮮・中国をふくむアジアから世界全般にわたっていった。大正3年(1914)、文学部陳列館が建設され、収集した資料を保存し、展示するとともに、史学科各研究室がここに入った。以来、陳列館は、資料それ自体の語るところに虚心に耳を傾け人類の歴史と文化を考究するという、文学部の実証的な学風をつちかううえで大きな役割を果たしてきた。それは、文字史料だけではなく、有名無名の民衆が遺した歴史事実の痕跡をすべて資料としてとらえる史観を基礎にしている。このような見地から収集された所蔵資料は、国宝・重要文化財指定品をふくめ30万点以上に達している。いずれも、長年にわたる研究調査活動と密着し、学術上の基準資料とされるものも多いのが特徴である。

昭和30年(1955)、博物館法に規定される博物館相当施設の指定を受け、文学部博物館と改称、さらに昭和61年(1968)、旧館の半分を遺して新営建物を増築し翌62年(1987)11月より開館した。

新しい建物には、主として研究者・学生を対象とした従来からの研究展示に加えて、一般人を対象とした公開展示のスペースが設けられ、内外に誇るべき貴重な学術資料を可能なかぎり体系的な形で展示する努力が営まれることになった。第一に資料の公開性を求めることはもちろんであるが、資料の劣化に十分に配慮する必要から、春季と秋季の年2回の常設展示を開催するとともに、特別企画



総合博物館展示風景

展示をそれに加えて開催してきた。特別展示は日本史学、考古学、地理学、美学美術史学、東洋史学、文化財学さらには自然史を構成する諸学を専攻する研究者や学生が、その研究を展示という発表形態にまとめたものである。ときに特別展示に際して展示図録が編まれ、それらの刊行物は多くの同学の研究者ならびに同好の一般人に対しても新しい知見を与えてきた。またそれらとは別に、博物館の古文書シリーズが継続的に出版されており、資料の公開性の追求が、館の主要な作業であると位置づけられてきたことを示していよう。

旧文学部博物館ではその10年間の活動のなかで19回の公開講座(有料)を催し、各回ともに満席の一般受講者を記録した。

旧文学部博物館は、文学部の研究・教育と緊密に結びついて、80年余りも実質的に機能してきた。その意味では、わが国における唯一の文化系大学博物館であったと見てよい。一般に公開される総合展示室・講演室等のほかに、内外の研究者や学生が研修する研究展示室や、工作室・実習室、それに貴重な資料を保管する収蔵室等を完備し、世界でも指折りの施設をととのえた大学博物館であったといえる。そして、文学部の研究教育施設として歩んできたが、新館の完成を機に、すでに学内他部局の資料展示も行うなど、学内共同利用施設としての機能をも果たした。資料それ自体の研究も、近年、人文・自然科学の発達にともない飛躍的な進展が見込まれ、国際的・国内的な文化財保護への要請も強いおりから、あらたな資料学の確立が望まれた。文学部博物館はこうした機能を実質化し、あたえられた課題を解決するため、以下に述べるような学内における総合博物館設立への機運とも相応じ、総合大学における博物館のあり方を展望しつつ、将来を見通した組織整備を進めたのである。

(2) 総合博物館への発展

理学部・農学部・教養部などでも、開設以来たゆみなく収集され、研究に用いられてきた学術標本資料が膨大な数量となり、その十分な管理と活用の必要性が叫ばれるようになった。そこで昭和61年(1986)三学部合同調査委員会は、本学各部局における自然史関係資料に関する総合的調査を初めて実施した。その成果を承けて自然史博物館の構想がまとめられ、全学的検討を経て、平成元年(1989)には『京都大学自然史博物館基本計画』が作成された。その上で、同年からは、既存の文学部博物館と新設の自然史博物館とを統合した「京都大学総合博物館」(文化史資料研究部門、自然史資料研究部門の2部門から構成)が構想され、連年、概算要求として提出されるようになった。さらに、工学部・農学部などに歴史的価値の高い技術史関係資料のコレクションが多数存在することが確認され、京都大学の所蔵標本250万点の全貌が明らかになるとともに、これら貴重なコレクションの保全・活用の重要性が全学的に叫ばれるようになった。そして、博物館構想も、技術史資料をも視野に入れた文字どおりの総合博物館構想へと発展したのである。

そして、ついに平成9年度の概算要求が承認され、長年の夢がかない、平成9年4月1日館長をはじめ教官9名・事務官4名の組織として京都大学総合博物館が発足した。現在附属施設(総合博物館新館)新設などを骨子とした10年度歳出概算要求案の作成、提出の準備が進められている。

Ⅲ 総合博物館の役割・組織・教官

(1) 役割

総合博物館は、学内外に対して、以下のような役割を担っている。

1) 京都大学が所蔵する人類の財産とも言うべき学術標本資料の保全

京都大学には、過去100年にわたって収集された250万点に及ぶ標本資料が保存されている。その詳細は後述するようなものであるが、国宝・重要文化財が含まれる。さらに、新種を見つけたとき、その「戸籍原簿」となるタイプ標本も多数含まれる。これら人類共通の財産とも言うべき学術標本資料について、散逸・劣化の心配ない環境での収蔵と、一元的・体系的な登録・管理を行う。

2) 学術標本資料を使った学内外における知的生産の支援

最近、火星から降ってきた隕石中に生命の痕跡らしきものが発見され、話題になった。また、映画「ジュラシック・パーク」でやや誇張して取り上げられたように、化石からDNAをとりだすこともできるようになった。このように学術標本資料からは収集された当時には思いもよらなかった発見が次々と生まれている。そこで、新しい学術情報を引出すための理論と技術を開発し、学術標本資料を知的生産のための無尽蔵の「学術資源」として活用する。

3) 京都大学の知的生産の社会への公開、世界へ向けた情報発信

霊長類学をはじめとする、学術標本資料を使って行なわれた、京都大学の特色ある研究の最新の成果をわかりやすい形で展示し、社会に対して大学の活動を公開する窓口となる。また、所蔵標本資料のデータベースやそれを使った研究・教育成果など京都大学の知的生産の成果を世界に発信する窓口としての役割を果たす。

4) 生涯学習の支援

学芸員の養成・再教育を行い、全国の地方博物館においても高度の学術標本管理や地域住民に高水準の生涯学習の機会を提供できるように支援する。館自体も、豊富な標本資料を教材として生涯学習プログラムを推進する。実施にあたっては、児童から高齢者までの広い年齢層、また障害をもつ人でも理解できるように、きめ細かく配慮する。

(2) 組織・教官

上に述べたような研究・教育上の、あるいは、社会的・国際的な役割を果たすために、京都大学総合博物館には館長のもとに以下のような3部門が設置されて活動を開始している。

館長 河野 昭（理学研究科教授）

館長の研究テーマ：

- 1 第三紀要素植物群の分子系統学的研究
- 2 植物集団の動態と分化に関する研究

資料基礎調査系

一次資料は、限定された目的のために収集されたものであるが、研究の進展とともに多様な潜在的付加価値を持つことが再認識されている。このような一次資料を、恒常的に利用できる状態に保つためのキュラトリアル・ワークに関する理論的研究と技術開発を行う。そして、最適の素材を的確かつ迅速に選定・提供することにより、多分野における基礎研究・先端研究・教育を支援する。一次資料全般の予防保存のための技術開発など、博物学基礎論の研究を推進する。また、研究に必要な新たな一次資料の収集を企画、推進する。

所属教官と研究テーマ：

山中 一郎教授

- ①先史考古学の方法の研究
- ②石器型式学から道具としての石器の理解

吉川真司助教授

- ①日本古代官僚制の研究
- ②日本前近代朝廷文書の研究
- ③日本古代寺院と寺領荘園の研究

佐藤 廉也助手

- ① 温潤熱帯林における焼畑農耕の技術と生業経済
- ② 東北アフリカにおけるマイノリティーの社会経済変化

資料開発系

新しい観察技術・測定技術の進歩により、保存資料から従来考えられなかった新情報がとりだされるようになった。たとえば、動物・植物・化石標本などかつては形態の比較用に収集された標本も、含有するDNAの分析が可能となるに伴い分類記載からバイオテクノロジーの分野までの研究素材として新しい存在価値を主張しはじめている。このような一次資料のもつ新たな情報を抽出する理論と方法を研究し、先端的研究の支援の体制を確立する。また、先端技術分野で利用できる博物資料は、殆どの場合風化・劣化なく保存されたものに限られる。そこで、博物資源全体の長期的保全のための理論と技術の開発という未知の領域の研究を推進する。これらを実践して文化史・自然史等の先端的研究を支援する。

所属教官と研究テーマ：

中坊徹次教授

- ①インド・太平洋域における海産魚類の分類
- ②魚類各分類群間の系統類縁関係

永益英敏助教授

- ①アジア熱帯地域における生物多様性に関する研究
- ②植物の実生段階にみられる形態の多様性に関する研究

本川雅治助手

- ①日本産小型哺乳類の分類学的研究
- ②哺乳類の成長および形態変異に関する研究

情報発信系

一次資料の保管・管理とともに、その情報をデータベース化し、利用者に提供する。また一次資料を使った研究・教育成果を広く内外に発信する。そのために、マルチメディアの活用を含め情報の効果的発信システムの研究開発を行う。この際、高性能のハードウェアの完備だけでなく、高度の内容の情報了他大学や国立研究機関と交換することが可能なネットワークの構築をめざす。さらに、世界の著名な博物館・研究機関とのネットワークづくりについても、準備・協議体制を確立する。また、「実験展示」「専修コース」「公開講座」等を積極的・機動的に行うことによって博物館が所蔵する学術資料、それにもとづく研究を広く社会に公表するとともに、学芸員の再教育などに活用し、地方博物館においても地域住民に高水準の生涯学習の機会が提供できるように支援する。

所属教官と研究テーマ：

大野照文教授

- ①京大総博における情報発信システムの開発
- ②二枚貝と藻類の共生関係の歴史の解明
- ③多細胞動物の初期進化と当時の地球環境の関係の研究

城下莊平助教授

- ①知識工学を応用した博物館データベースの構築
- ②日本の近代産業技術発展過程で果たした教育用模型の役割

角谷岳彦助手

- ①野生の訪花昆虫に関する送粉生態学的研究
- ②施設栽培における送粉者利用に関する研究
- ③昆虫・植物標本に関するデータベースの構築

IV 収蔵予定標本資料

新しい総合博物館には、京都大学に所蔵されている文化史・自然史・技術史資料の大部分が収蔵される予定である。その主なものを以下に紹介する。

◇文化史関係資料

【考古資料】

1) 国定指定のもの

- ・京都市西野山古墳出土品（金装大刀残闕 1口，附金鉞一括，金鉞平脱双鳳文 1面，その他 6点）計9点

2) 重要文化財指定のもの

- ・兵庫県宝塚市小浜北米谷古墓出土品（蔵骨器1個，石櫃 1個）9点
- ・奈良県田原本町唐古遺跡出土品（壺形土器 34個，甕形土器 5個，鉢形土器 3個，高杯形土器 2個，水差形土器 1個，蓋形土器10個，土器片 一括，石器46個，骨角牙器 7個，土製品 10個，木製黒漆塗調残闕 1個）計120点
- ・京都府城陽市久津川車塚古墳出土長持形石棺 1基
- ・京都府山城町椿井大塚山古墳出土品（三角縁神獸鏡 36面，ほか）一括

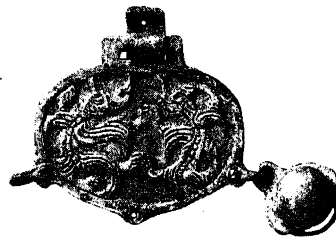
3) その他

日本縄文・弥生・古墳各時代および歴史時代遺物のほか，中国・朝鮮・中央アジア・インド・西アジア・エジプト・ヨーロッパ・アメリカ大陸の世界各地域から将来，蒐集された旧石器時代以来の各種遺物，総数約20万点におよぶ。その蒐集は欧米・アジア諸国に著聞しており，外国有名機関・個人からの寄贈品も少なくなく，比較考古学の研究資料としてわが国第一級のものである。

【歴史資料】

1) 重要文化財指定のもの

- ・勸修寺家文書紙本墨書大御記（白筆本・古写本） 6巻
- ・勸修寺家文書紙本墨書永昌記 6巻
- ・教王護国寺文書（古文書 254巻，同 27帖，莊園絵図等 6幅）
- ・過所船旗 1旒（文永9年2月 日，三鱗紋）



金銅製龍文帯金具 穀塚古墳

- ・祭家文書 108通
- ・公家松扇 2握

2) 重要文化財に準ずる価値をもつもの

- ・成吉思汗聖旨牌、敦煌出土伝名経、トルファン出土回鶻文古写経
- ・マリア十五玄義図、晋明国師自贊頂相、伝大友宗麟ローマ字紋章付鞍
- ・建内記（白筆本）、三長記（三条実仲筆）、弘安四年壬生官務家日記抄
- ・公家文書（勸修寺・中印・壬生・平松など）
- ・武家文書（駿河伊達・和泉淡輪・常陸畑田など中世武士団）
- ・寺社家文書（東大寺・法華堂・興福寺・乗院・葛川明王院・山城地藏院・春日大社大東家・松尾月読社・伊勢神宮御師米田家）

3) その他

近世の諸藩記録、朝鮮・琉球関係史料、大日本史編纂記録、近代の外交官吉田清成文書などのほか、町方・村方・鉾山・漁村等、各種の文書・記録の原本約5万点と影写本、謄写本、写真本など1万点、器物約7,000点など、その系統的かつ計画的な蒐集は、標本資料として他に類を見ず、史料学研究資料として不可欠のものである。また、別に約10,000点の東洋史関係の文書・拓本等があり、東アジアにおける文書様式の系統的研究資料となっている。

【地図資料】

1) わが国には類例の少ないもの

- ・イタリア製16世紀古地球儀、羊皮紙製ポルトラノ海図（15世紀地中海東部の海図）

2) 重要な資料

- ・近世日本製古地球儀、清代十三排図・私製図、李朝絵図屏風（平城市街図）など。

3) その他

日本における地図作成の発達を系統的に知りうる古地図約480点、中国・朝鮮の古地図約50点、また2万分の1地形図をふくむ明治以降の地形図・地質図・海図等約40,000点は、国会図書館と並ぶ我が国最大のコレクションであり、歴史地理学の資料としてきわめて貴重である。

【民族資料】

ミクロネシア・西アジア・サハリン・台湾等から将来された多数の民族品。とりわけ、ミクロネシア関係の民族資料は、第一次大戦後日本への委任統治領編入時に一括将来されたもので貴重である。

【美術資料等】

大英博物館・ベルリン国立博物館所蔵の敦煌その他の絵画模写本、インド石窟寺院浮彫拓本、チベット・タンカ、曼陀羅、奈良絵本、慶陵壁画など、学術的に貴重

な資料を多数収蔵し、美術史学・比較芸術学の研究資料となっている。

◇自然史関係資料

総計200万点近い資料は、現在のところ理学部、農学部、総合人間学部、大学院人間・環境学研究科、薬学部、霊長類研究所、生態学研究センター、東南アジア研究センター、アフリカ地域研究センターなどに所蔵されている。総合博物館の新しい建物が完成した暁にはその多くのものが移管・保存される予定である。

【動物学関係資料】

清野コレクション：故清野謙次博士が大正8年ごろから昭和15年ごろまでに全国各地から収集した本邦古代人骨標本（約1,400体）（動物学教室所蔵）。

イラク人骨コレクション：昭和48年以降行われてきたイラク共和国総合学術調査で発掘された先史時代から現代にわたる出土人骨。（約200個体）。

ネズミ類標本：昭和40年代に各種ネズミ類の頭骨成長の研究に用いられた頭骨標本（約1,400個）とドブネズミの体毛色遺伝の研究に使われた仮剝製標本（約1,100体）がある。

霊長類資料：霊長類研究所において作製・収集された骨格標本は、現在サル類の種数のほぼ半分に相当する90種類、約3,500点に達している。いわゆるワシントン条約の規制により、収集が著しく困難になった現状では、これらの標本は研究の基礎資料としてきわめて重要なものである。

魚類・両生類・爬虫類標本：理学部動物学教室、人間・環境学研究科、農学部旧水産学教室で過去50年にわたって収集された2,000種、20万点の標本がある。これらの中には多くのタイプ標本が含まれる。

【植物学関係資料】

フォーリーコレクション：U. Faurie の採集品。日本全域のみならずハワイ群島などの貴重な標本と、多くの副基準標本をふくんでいる。標本点数は約6万点。（内シダおよび種子植物のさく葉標本が約30,000点）。また小泉源一採集標本（約25,000点）、田代善太郎採集品および収集標本（約10万点）や台湾と朝鮮半島の大井次三郎・田川基二採集標本があり、東アジア地域の植物の研究に欠くことの出来ない存在となっている。さらに昭和27年以降行われてきた海外学術調査によって得られたヒマラヤ、東南アジア、太平洋地域の標本資料は極めて多数にのぼり、京都大学理学部植物標本室コレクションの一つの特色ともなっている。

植物病害標本：さく葉ポケットとして約19,000点があり、採集地は本州、四国、九州、北海道、琉球諸島、台湾、韓国、中国（東北部）にわたる。

硬質菌類標本：乾燥標本として約6千箱があり、関西地区で採集されたものが多いが、サハリン、台湾、中国（東北部）等海外で採集されたものも含まれる。日本

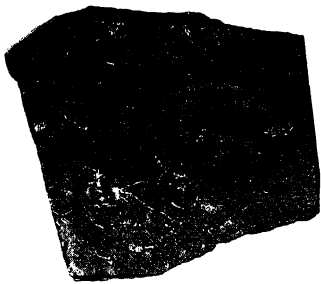
では唯一の硬質菌類のまとまったコレクションである。

【地質学・鉱物学・古生物学関係資料】

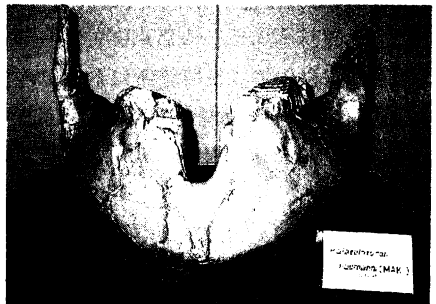
日本・東アジア長鼻類化石：基準的な標本約80点、破片多数、レプリカ約50点からなる。日本の更新世旧象として最も著名なナウマン象の完模式標本（下顎、臼歯4本、切歯〔きば〕など）をはじめ、世界各地域の長鼻類化石標本が集められており、長鼻類の分類・進化系統の研究の上で世界的に重要なコレクションとなっている。

ヒマラヤ前縁地帯中・古生界標本並びにシワリク統化石：昭和44年以降、ヒマラヤ前縁地帯調査隊が採集した古生代と中生代の境界付近の化石と堆積岩の資料（約8,200点）と昭和46年以降のインド、アフガニスタン、イラン、トルコでの学術調査において、収集されたゾウ、ワニ、カメ、カバ、ウマなどの化石（約300点）。

日本列島の新第三紀貝化石：地質学鉱物学教室創設以来、研究のために収集した資料約2,500点で、多数の模式（基準）標本を含む。



最古の多細胞動物化石の一つアノマロカリスの触角(全長8.5cm)(地質学鉱物学教室所蔵)



ナウマン象のタイプ標本
(地質学鉱物学教室所蔵)

【薬学関係資料】

和漢薬標本：中国本土や東南アジアの生薬（約6,000点）。また、薬用植物さく葉標本の一部（約500点）も中国、東南アジア産である。これらの中には当該地の医療構造の変容により、現在では入手不可能となっているものもあり、今後も薬学研究の基礎資料として不可欠なものが含まれている。

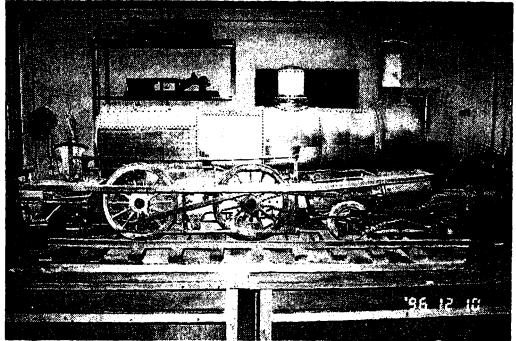
生薬標本：1949年以降の中国生薬がそろっている例は他にない。他にもヨーロッパ生薬280点、アメリカ生薬216点がある。これらは1950年代のまとまった資料で、全国的にもこれを所持している大学は数ヶ所にすぎない。

【技術史関係資料】

現在のところ工学部、農学部、総合人間学部などに3,000点以上の資料が所蔵されている。総合博物館の新しい建物が完成した暁にはその多くのものが移管・保存される予定である。

【機械工学、機械物理学、精密工学関係資料】

京都帝国大学が1897(明治30)年に創立された当時で購入された教育用模型が保存されている。1890年代に作られた木製のクランク機構模型、全長2メートルを超える蒸気機関車模型、台車模型、船舶用蒸気機関模型、ボイラー模型、転がし模型などが、100年を経た今日でも、ほぼ完璧に保存されている。



木製蒸気機関車模型(工学部所蔵)

また、それらの木製模型と同年代に製作された金属製の機械メカニズム模型も多数保存され、大半のものは現在でも十分可動である。これらは、等速の回転運動を不規則な回転運動に変える機械模型や、互いに方向の異なる回転軸が機械機構的に巧妙に連結されている機械模型など、単に機械メカニズムの理解に有効であるだけでなく、知的な好奇心をかきたてる要素も併せ持った有用な教育用模型である。複雑な機械的運動でも途中の過程を見ることのないまま電子技術で容易に実現できる今日こそ、これらの模型を見て、自分で動かしてみても原点から機械の構造を理解することは有意義なことである。

これら1890年代の木製模型や金属製機械メカニズム模型は他大学にはほとんど現存していないと考えられる珍しいものであるばかりでなく、機械科発足当時の教育状況を知るうえでも貴重な資料となっている。

今日の日本の機械工業の隆盛の礎となってきた工作機械の原器であるジグボーラー、長さの原器である万能測長器なども保管されている。

【工業化学関係資料】

第二次大戦直前から終戦時までにかけて、世界的にも早い時期に製造に成功した合成石油試料や合成に用いられた触媒などが、300～500ccの試薬瓶約20本に保存されている。この中には、昭和15年に京都御所で天覧に供せられた合成石油も含まれている。製造に用いられた各種装置設計図の青写真(B4型封筒で約20袋)や実験装置などの写真、ガラス写真乾板(ガラス乾板は13cm×18cm 10枚入で6箱)なども保存されている。さらに、実験記録などの文書記録もほぼ完全な形で保存されている。

【建築工学関係資料】

日野、法界寺阿弥陀堂模型は、国宝建造物の大規模(縮尺1/10)かつ精巧な模型

である。また、帝国ホテル模型は、近代建築において著名な建築家F.L.ライトの傑作の模型で、一部が復元されて明治村に残っているものの、建築そのものは戦後撤去されて現存せず全貌を知ることができる唯一の資料である。現在、国の内外から展示借り出しの希望が相次いでいる貴重な模型である。

三層宝塔（浄瑠璃寺）、枢密院鉄筋模型、長保寺大門などの精巧な模型は建築様式を研究する上で重要である。

【農学部関係資料】

農業工学科で開発された世界で初めての農業用ロボットほか保管されている。

【附属演習林関係資料】

芦生演習林に近年完成した「斧蛇資料館」には地形図や実習の日記、写真などが保管され、一般に公開されている。また、林業関係の歴史的道具や写真、海外の旧演習林の地形図など、現在では貴重な資料が残されている。

【総合人間学部関係資料】

舎密局以来の物理実験機器が多数保存されており、明治期だけで350点にもものほる。これだけ多数の機器がまとめて保存されているのは四高と三高のみであり、三高コレクションは物理学史の資料であるとともに貴重な文化財となっている。

三高実験機器コレクションのうち明治19年以前の方は75点現存し、明治初期の物理教育を探る貴重な歴史資料となっている。ほとんど物理教育用器械であるが、一部医学用も混じっている。イギリスのNegretti & Zambra製のように高価な欧米製器械も見られ、当時から実験機器の充実に力を入れていたことがうかがえる。

V 総合博物館の活動

【企画展示】

総合博物館の前身である旧文学部博物館では以下のような企画展示が行われた。

昭和62年11月1日～12月19日	「日本の中の京都」
昭和63年4月11日～6月11日	「地図に見る東西交流」ほか
昭和63年10月24日～12月3日	「原敬と明治の元勳たち」ほか
平成元年4月10日～6月10日	「椿井大塚山と三角縁神獸鏡」ほか
平成元年10月23日～12月9日	「近世の肖像画」ほか
平成2年4月10日～6月2日	「中国石刻拓本展」
平成2年10月19日～12月8日	「自然史研究へのいざない」
平成3年4月10日～6月8日	「先史時代の北白川」
平成3年10月21日～12月7日	「公家と儀式」
平成4年7月13日～6月13日	「近世の地図と測量術」

平成4年10月20日～12月12日	「古文書の魅力」
平成5年4月20日～6月19日	「紫金山古墳と石山古墳」
平成5年10月26日～12月18日	「伊勢神官文書の世界」
平成6年4月12日～5月28日	「三都の古地図 一京・江戸・大坂一」
平成6年6月14日～7月16日	「屏風絵展」
平成6年9月27日～11月5日	「尊攘派の群像」
平成7年3月8日～3月24日	「ザンクト・ガレン修道院の文化」
平成7年5月9日～6月24日	「旧石器人のアトリエ」
平成7年10月24日～12月9日	「外科書の世界」
平成8年4月23日～6月1日	「江戸期の京画壇」
平成8年10月29日～12月7日	「荘園を読む・歩く」

【出版物】

旧文学部博物館では以下のような出版物が発行された。

『京都大学文学部博物館図録』（昭和62年11月1日刊；平成6年3月31日再刊）

『椿井大塚山と三角縁神獣鏡』（平成元年4月10日刊）

『日本肖像画図録』（平成3年4月10日刊）

『先史時代の北白川』（平成3年4月10日刊）

『公家と儀式』（平成3年10月17日刊）

『紫金山と石山古墳』（平成5年4月19日刊）

『荘園を読む・歩く』（平成8年10月29日刊）

博物館古文書シリーズ

- (1) 『長講堂目録と島田家文書』
- (2) 『若狭秦家文書』
- (3) 『細川頼之と西山地蔵院文書』
- (4) 『勸修寺家本職掌部類』
- (5) 『駿河伊達家文書』
- (6) 『東大寺文書』
- (7) 『伊勢御師と来田文書』
- (8) 『大山崎宝積寺文書』
- (9) 『浄土宗西山派と三鈷寺文書』
- (10) 『葛川明王院文書』
- (11) 『永昌記紙背文書』
- (12) 『伊勢松木文書』

【公開講座の実績】

日文学部博物館において行われた公開講座

- | | | |
|------|--------------------|--------------|
| 第1回 | 昭和62年11月21日～12月12日 | 考古学と古代文化の様相 |
| 第2回 | 昭和63年2月6日～2月27日 | 古文書セミナー |
| 第3回 | 昭和63年5月14日～6月4日 | 地図に見る東西交流 |
| 第4回 | 昭和63年11月5日～11月26日 | 古文書セミナーⅡ |
| 第5回 | 平成元年5月13日～6月3日 | 古墳と鏡 |
| 第6回 | 平成元年11月11日～12月9日 | 古文書セミナーⅢ |
| 第7回 | 平成2年4月26日～5月26日 | 中国の石刻史料 |
| 第8回 | 平成3年4月27日～6月8日 | 土器と石器と人間と |
| 第9回 | 平成3年10月26日～12月7日 | 古文書セミナーⅣ |
| 第10回 | 平成4年5月9日～5月30日 | 日本地図史への招待 |
| 第11回 | 平成4年10月31日～11月28日 | 古文書セミナーⅤ |
| 第12回 | 平成5年5月15日～6月5日 | 古墳の発掘から歴史を |
| 第13回 | 平成5年10月30日～11月27日 | 古文書セミナーⅥ |
| 第14回 | 平成6年4月16日～5月21日 | 日本都市図への招待 |
| 第15回 | 平成6年10月1日～10月29日 | 幕末・維新と京都 |
| 第16回 | 平成7年5月27日～6月17日 | 2万年前の石器製作跡 |
| 第17回 | 平成7年11月4日～12月2日 | 日本近世の医学史と外科書 |
| 第18回 | 平成8年4月23日～6月1日 | 江戸期の京画壇 |
| 第19回 | 平成8年10月29日～12月7日 | 荘園と歴史的景観 |

総合博物館において行なわれた公開講座

- | | | |
|-----|-----------------|-----------------|
| 第1回 | 平成9年5月10日～5月31日 | 博物学の展望—21世紀へ向けて |
|-----|-----------------|-----------------|

7章 国際交流

I 概 要

本学における国際交流について、その推移を顧みるとともに現状と展望及び検討すべき課題を明らかにして今後の国際交流の発展に資するために、国際交流委員会の手により、『京都大学における国際交流』が昭和60年（1985）（以下「第1号」という。）に発行され、平成2年（1990）に第2号が、平成7年（1995）に第3号がそれぞれ発行された。第1号の「まえがき」は、「学術は本来国際的であり、また、学術の国際的な交流は、今日の学術の進展の重要な要件であることはいうまでもない。」との言葉で始められており、第2号の「まえがき」は、これをうけて「いまや国際社会のボーダーレス化さえいきりにいわれるようになった現在では、学術の国際的交流のもつ意味は一段とその重要性を増すようになり、とりわけ学問の府である大学にとってはその重みはひとしお大きいものがある。」と述べている。第3号の「まえがき」では、「世界の情勢では冷戦が終わり、世界の国々の間の友好関係がますます強まり、これに加えて、グローバルな情報通信のインフラストラクチャが地球を全面的に覆いつつある現在、大学間の学術交流がいよいよ重要性を増してきている。」と記述している。そして、同書には、今後の本学における国際交流の果たすべき役割について学内外の御理解をいただく上で資することがあればとの期待が込められている。

本学における国際的な人物交流に関し、昭和60年（1985）と平成7年（1995）とを比較してみると、例えば、本学諸部局での共同研究等のために1年間に受け入れた外国人研究者の数は、628名が1,034名に、外国人留学生の受入れ数は、年間426名から921名に、また、本学教員の海外渡航の状況を見ると、年間1,348件から2,966件へといずれもほぼ倍増している。

本学が初めて学術交流協定を締結した外国の大学は、昭和54年（1979）のバリ第7大学であるが、その後本学との協定締結希望が多くなり、協定を締結した外国の大学は、平成9年（1997）5月現在、17か国29大学2大学群である。

その他国際交流に関する主な事項について、第1号発行時の昭和60年（1985）以降に限ってしてみると、国際交流に特有の制度ではないが、京都大学名誉博士称号授与の制度の創設（昭和62年（1987））を挙げることができる。名誉博士の称号の授与は、「本学における学術研究に寄与した功績が特に顕著であると認められる研究者に授与するもの」とされているが、これまでこの称号を授与された7名の学者

は、いずれも本学の学術研究に貢献するところが大きであった外国人研究者である。

また、人物交流の面だけではなく、国際交流の円滑な実施を可能ならしめる機構や施設の面においては、満足すべき状態に達しているとはいえないが、各方面の理解と支援を得てかなりの進展がみられた。その第一の例は、外国人留学生に対する日本語・日本文化等の教育及び修学・生活指導助言などを行う学内共同教育研究施設としての留学生センターの設置である。同センターは、昭和63年（1988）に当面の学内措置として設けられた国際交流センターに代わって、平成2年（1990）、正式に本学の施設として設置が認められたものである。平成9年4月現在、教授3名、助教授4名の教官で構成されている。これと同時に学生部に留学生課が設置され、留学生に関する事務部門の拡充がみられることとなった。

また、本学本部地区から北東約4 kmの修学院の地に既設の国際交流会館（昭和57年（1982）開設）に加えて、昭和62年（1987）には、宇治市の本学宇治構内に隣接した地に国際交流会館宇治分館が新設され、それぞれ外国人研究者や留学生の宿泊施設の拡充が図られた。

さらに、留学生専門教育教官は、昭和59年（1984）以降、外国人留学生の受入れ数の増加に対応して増員され、平成9年（1997）4月現在では、工学部6名、経済学部・農学部各2名、文学部・法学部・理学部・医学部各1名計13名の専任教官が、留学生のために専門の学習について指導助言を行うとともに、生活上の諸問題についての相談に当たっている。

II 国際交流委員会の歩み

1. 京都大学国際交流委員会の設置と構成

京都大学国際交流委員会は、昭和52年（1977）に設置され、本学の国際交流に関する基本方針の立案並びに関連する諸問題の検討を行う委員会として活動を行っている。また、いくつかの具体的事項に関しては、その詳細な検討や活動の展開のために、国際交流委員会の内部に次の小委員会が設置されている。

(1) 企画小委員会（平成6年（1994）5月設置）

大学間学術交流協定校に関する国際交流事業（各部局で行われる事業を除く。）の企画、及び国際交流諸事業の実施に関するコンサルティングを担当する目的で設置され、国際交流委員会委員長、副委員長、A、B、C・F各小委員会委員長、及び学生部長で構成される。

(2) A小委員会（昭和52年（1977）9月設置）

京都大学英文一覧の編集と、それに用いる用語の統一など、関連する諸方針の審議決定を担当している。

(3) B小委員会(昭和52年(1977)9月設置)

大学間学術交流の方針と制度, 人物交流に関する制度的事項, 及び外国の大学等から寄せられる本学との学術交流に関する提案の処理などについて検討を行う。また, 本学と外国の大学との間で学術交流のために交換される覚書について, 標準的な内容の検討や改正案の作成も担当している。

(4) C・F小委員会(昭和53年(1978)11月設置のC小委員会と昭和63年(1988)1月設置のF小委員会を平成5年(1993)11月に統合)

留学生に関する諸問題を中心として学生の国際交流全般について審議すると共に, 本学学生の海外留学の方法など, 海外での教育プログラムについて検討を行う。

(5) D小委員会(昭和56年(1981)9月設置)

国際交流会館及び国際交流会館委員会が設置されたことに伴い, その任務を一応終了したものとして昭和62年(1987)5月に廃止された。

(6) E小委員会(昭和61年(1986)9月設置)

京都大学国際交流センター構想をとりまとめたこと及び同センターを本学の学内措置による組織とすることが大学の方針として決定されたことにしたが, その任務を一応終了したものとして昭和63年(1988)2月に廃止された。

2. 京都大学英文一覧

学術の国際交流の推進を図るための基礎資料として, 本学の組織, 各部局の研究・教育並びにそれらに関連した施設及びサービスの現状を英語で記述した「京都大学英文一覧」を刊行している。

第1版(1978/1979)は昭和53年(1978)に刊行され, その後, 隔年に改訂新版の編集・発行が行われており, 現在, 第10版(1996/1997)を数えている。第10版では, A4版414ページの大冊となり, 人名索引及び事項索引をそなえ, 要所にカラー写真を挿入して, 内容理解のための充実の度合を高めている。

なお, 隔年毎に作成の英文一覧の補遺的なものとして, 英文概要が毎年刊行されている。

3. 国際交流機構の構想

本学の国際交流を発展させるための中心的な機構として, 学内共同利用的な機関たる「国際交流機構」の設置構想が昭和53年(1978)5月, 国際交流委員会から総長に建議された。この構想には, (1)教官定員を持つ研究部の設置 (2)国際交流関係業務に携わる事務機構の統合 (3)国際交流のための施設の充実などが盛り込まれている。

このうち, 外国人研究者及び外国人留学生のための宿泊施設については, 前述の

ように京都大学国際交流会館が昭和57年（1982）に修学院の地に完成し、さらに昭和62年（1987）には宇治地区の諸研究所で研究又は勉学を行う外国人研究者等のために修学院の本館とは別に宇治分館が完成して、構想の一部の実現をみた。また、平成8年度の概算要求において、宇治グラウンドに新たに国際交流会館の設置が認められた。これら施設のみでは収容能力が増加する入居希望者の需要に追いつかない状況であるなど問題は残っているが、大きな一歩を踏み出したものといえよう。

昭和63年（1988）12月には、学内措置として国際交流センターが設置されたが、「国際交流機構」構想にいう研究部の設置等の根本問題を解消するには至らなかった。その後、平成2年度（1990）において「留学生センター」の設置が認められ、第4章で述べられている京都大学留学生センターが平成2年（1990）6月に設立された。

「国際交流機構」構想で提言されたもののうち、まだ実現されていないいくつかの事項は、その後の経験を通して新たに目標として意識されるようになったいくつかの事項とともに、国際交流委員会において今後とも粘り強く実現を追求して行くべき課題として受け継がれることが期待される所である。

Ⅲ 大学間学術交流協定

本学で大学間学術交流協定が最初に締結されたのは昭和54年（1979）フランス・パリ第7大学との間においてであるが、その後の経験を通して、現在は、大学間の学術交流の基本的な枠組みをつくるための文書として「学術交流に関する一般的覚書」を交換する方式をとっている。大学間学術交流協定を締結するに当たっての基本的な考え方として、国際交流委員会から総長に答申（昭和63年（1988）11月25日）した趣旨は次のとおりである。

「本学が外国その他の学術研究機関と作成する学術交流に関する覚書は、そのま



までは権利義務が発生しない(self-executingではない) 一般的協定である。覚書に書かれている諸活動については、それぞれのプロジェクトに関して個別的な協議を経たうえで初めて権利義務が発生する。そのような協議は、関係各部局の責任で行われる。これらの基本的な考え方を明確にするため、覚書の標準的な文案を改める。」

覚書交換の手続きについては、先方大学からの申込み、又は学内からの要望等に基づき、国際交流委員会での検討・承認の後、総長に建議される。覚書交換の審議においては、学術的レベルが非常に高くその国の代表的な総合大学の場合は当然覚書交換を行うものとし、それ以外の場合でも特に考慮すべき本学との関係、分野が限られているが優れた大学であること、発展途上国の代表的な大学であること、地域研究の観点等、いろいろな観点から覚書交換の是非につき検討が行われる。また、原則として複数の部局が関心を示すことが条件となる。

なお、覚書の主な内容は、①学術資料、刊行物及び情報の交換 ②教員又は研究者の交流 ③学生の交流 ④共同研究及び研究集会の実施を奨励することとしている。

1997年5月現在までに本学と覚書交換等により大学間学術交流協定を締結した外国の大学は、次のとおり、17か国29大学2大学群である。(()内は、協定締結年) 大韓民国慶北大学校(1984) 国立ソウル大学校(1991) 中華人民共和国西北大学(1980) 武漢大学(1980) 北京大学(1983) タイ王国カセサート大学(1984) カナダトロント大学(1991) ケベック州大学学長校長協議会(1994) アメリカ合衆国ウエイン州立大学(1985) スタンフォード大学(1989) カリフォルニア大学(1990) ポリテクニク大学(1990) ブラウン大学(1992) メキシコ合衆国グアダハラ大学(1983) オーストラリアクイーンズランド大学(1981) ニューゼalandオークランド大学(1997) フランス共和国パリ第7大学(1979) ストラスブール第1・第2・第3大学(1996) ドイツ連邦共和国ベルリン自由大学(1984) ミュンヘン大学(1989) ボン大学(1990) ハイデルベルク大学(1990) 連合王国サセックス大学(1989) オックスフォード大学(1991) スイス連邦スイス連邦工科大学(1989) イタリア共和国シエナ大学(1989) ポローニャ大学(1995) ロシア連邦モスクワ大学(1987) チェコ共和国カレル大学(1990) オーストリア共和国ウィーン大学(1993) スウェーデン王国ウプサラ大学(1997)

これらの大学間学術交流のほかに、1997年5月現在、次の各部局においても学術交流協定の締結又は覚書の交換がなされており、活発な学術交流が展開されている。(()内は、協定等締結件数)

文学部(2) 教育学部(2) 法学部(1) 経済学部(8) 理学部(2) 医学部(5) 薬学部(2) 工学部(185) 農学部(8) 大学院人間・環境学研究

科(12) 化学研究所(12) 人文科学研究所(1) 胸部疾患研究所(1) エネルギー理工学研究所(6) 木質科学研究所(1) 防災研究所(9) 基礎物理学研究所(1) 経済研究所(1) 数理解析研究所(1) 原子力実験所(8) 霊長類研究所(2) 東南アジア研究センター(1) 生体医療工学研究センター(1) 生態学研究センター(2) 計274件

IV 京都大学後援会

本学は、昭和42年(1967)6月に創立70周年を迎え、これを記念する多彩な事業を行うこととなり、卒業生等より広く寄付金を募った。記念式典の挙行、年史の刊行、同窓会館(京大会館)の建設などに加えて「奨学金の設定」が計画され、「京都大学と海外の学界との交流を促進し、同大学の学術活動の発展に必要な援助を行う」ことを目的とする財団法人京都大学創立七十周年記念後援会が昭和49年(1974)6月に設立され、同後援会を通じて本学の国際交流活動を支える援助が行われてきた。同後援会は、昭和63年(1988)8月に財団法人京都大学後援会に名称を変更し、その目的を「京都大学における国際交流、教育・学術研究活動、教育研究施設の拡充整備等に必要な援助を行い、もって我が国の教育、学術、文化の発展に寄与する」ことに改められた。

国際交流活動に関する財団法人京都大学後援会の助成の種類と規模は、次のとおりである。

第1類第1種 本学教官等の海外派遣に対する助成

一 一般 期間1ヵ月(約12名)、期間6ヵ月及び3ヵ月については当分の間助成を休止している

若手研究者 長期派遣 期間10ヵ月(約3名)
国際研究集会 約20名

第1類第2種 海外からの学者招へいに対する助成

一 一般 期間1ヵ月以内(約8名)

若手研究者 期間10ヵ月(約3名)

第1類第3種 京都大学国際交流会館の運営に対する助成

第1類第4種 その他(主として行政目的の渡航、協定校との交流に対する助成)

第1類第1種、第2種は毎年12月頃に公募され、翌年2月頃に、部局長等により構成される「選考会議」を経て助成事業検討委員会において候補者の選考が行われる。

V 人物交流

本学における外国人研究者の受入れと本学の教員の海外派遣のそれぞれについての主な制度と現況は、次のとおりである。

1. 外国人研究者の受入制度（外国人研究者の受入れ状況は別表1のとおり。）

(1) 外国人教師

受入れ制度により、狭義の「外国人教師」、「外国人特別招へい教授」及び「日英共同による英国の大学教授等の招へいによる外国人教師」の三種類に分けることができる。

①「外国人教師」とは、国立大学で外国語又は専門教育科目を担当させるために高度の専門的学識又は技能を有する外国人を常勤の教師として雇用する者をいう。雇用契約の期間は1年である。

なお、外国人講師すなわち国立学校で外国人教師に準ずる職務に従事する非常勤の外国人の教師は、昭和60年度（1985）から非常勤講師として任用されることとなった。

②「外国人特別招へい教授」とは、極めて顕著な業績を有する外国人研究者を大学院・学部の研究指導・教育のために招へいするものであり、大学と協議の上、関係専門分野の調査研究、他大学等での活動を行うこともできる。招へい期間は、3ヵ月以上1年以内である。

③「日英共同による英国の大学教授等の招へいによる外国人教師」とは、日英両国の教育・研究の充実・発展と相互理解に資する目的で、英国の大学教授等を招へいするものである。招へい期間は、3ヵ月以上1年以内である。

(2) 外国人研究員

国立大学共同利用機関や国立大学附置の共同利用研究所等において、我が国における学術研究を推進するために共同研究に参画させる目的で招へいする研究者で、勤務の契約により常勤の研究員として雇用する外国人の研究者をいう。外国人研究員は、甲種又は乙種の2種とし、甲種は「極めて顕著な研究業績を有する者」に、乙種はその他の者にそれぞれ適用されている。招へい期間は、原則として1年以内であるが、概ね3ヵ月以上が望ましいとされている。

(客員教授)

上述の(1)又は(2)の外国人研究者で、招へい期間が引き続き3か月以上であり、かつ、本学教授と同等の資格があるものと認められる者には、当該部局の教授会等の議に基づき客員教授の称号を付与している。

(外国人客員部門・研究領域)

特定の研究を推進するため、「外国人研究員」に担当させる研究部門又は研究領域で、本学には、現在17の外国人客員研究部門・研究領域がある。外国人客員研究部門・研究領域は、他の研究部門と同様に研究費が積算されるので、外国人研究員等を客員として招へいする場合に比し、遙かに大きな機能を果たしている。

(3) 教員としての外国人の任用

「国立又は公立の大学における外国人教員の任用等に関する特別措置法」が昭和57年（1982）に施行されたが、この法律の概要は次のとおりである。

- ①国立又は公立の大学で、外国人を教授、助教授又は講師に任用できること
- ②任用されたこれらの教員は教授会等、大学の運営に関与する機関の構成員となり、議決に加わることができること
- ③外国人教員の任期は、大学が定めること
- ④国立大学共同利用機関についても、同様の扱いとすること
- ⑤従来の外国人教師の制度は存続すること。

本学では、この法律に基づいて昭和58年（1983）に教員の任期に関する規程を定め、外国人教員の任期は3年（再任を可とする。）とするが、部局ごとに評議会の議を経て別に定めることもできることとした。本学ではこれによって他の国立大学等に先がけて外国人教員を採用し、現在では6部局で助教授等として12名が任用されている。

(4) 中国政府派遣研究員

国立大学等で行われる研究に中国の研究員を参加させ、当該研究員の研究能力の向上と国立大学等における学術の発展を図ることを目的とし、日中両国政府間の協定に基づき、我が国文部省及び中国国家教育委員会を窓口として、我が国の国立大学等に中国政府派遣研究員として受け入れる制度である。受け入れ期間は、原則として2年以内であり、渡航費、滞在費は、中国政府が負担し、我が国は、研究費を負担している。

(5) 科学研究費補助金（「3. 海外派遣の制度」参照）

国際学術交流関係として、「国際学術研究」という事業種目があり、これには「学術調査」、「がん特別調査」、「共同研究」、「大学間協力研究」の4つの区分があり、研究経費は外国旅費（派遣・招へい）に重点が置かれている。

(6) 国際シンポジウム（一般・COE）

一般：本事業は、大学等が特色ある研究テーマについて、世界の第一線級の研究者の参加を得て、研究情報の交換と研究者の交流を図り、研究水準の向上と学術国際交流に寄与することを目的としている。

COE：本事業は、中核的研究機関支援プログラムの一環として、大学共同利用機関、共同利用の大学附置研究所及び全国共同利用研究施設等を対象として、

これらCOEとして発展すべき研究機関のもつ優れた研究のポテンシャルを中心に学術情報を世界に発信するとともに、世界の第一線級の研究者との最先端の研究情報を交換しながら、独創的な発想の接触・交換を図り、開かれた研究環境を醸成していくことを目的としている。

主な対象となる経費は、外国人招待講演者の旅費及び滞在費等である。

(7) 日本学術振興会による招へい事業

日本学術振興会による主な招へい事業の概略は、次のとおりである。

① 外国人招へい研究者

短期招へいと長期招へいの2種類がある。短期招へい研究者は、優れた研究業績を有する上級研究者で、我が国の研究者との討議、意見交換、講演等を通じて、関係分野の研究の進展に大きな寄与が期待される者である。長期招へい研究者は、中堅若しくは若手の優れた研究者で、我が国に長期間滞在して、我が国の研究者と特定の研究課題について共同研究を行うことを目的とする者である。

② 外国人特別研究員

博士号取得直後の外国人若手研究者を我が国に招へいするため昭和63年度(1988)に創設された制度であり、これまで対象国は限定されていたが(平成5年度28か国)平成6年度から我が国と国交のある国全てが対象国とされ、採用人数の拡充も図られている。

③ 国際研究集会の開催助成

各国の研究者の参加を得て、特定の研究課題について国内で開催する小規模の国際研究集会に対して、その経費の一部(招へい外国人の旅費、会議費等)を助成する事業である。

④ 発展途上国との学術交流

発展途上国との間で、相手国の研究者の受入れと、我が国の研究者の派遣による交流、共同研究、セミナー及び学術情報交換を行う事業であり、(1)東南アジア等との学術交流、(2)発展途上国の研究者養成への協力に大別され、(1)は更に、(ア)拠点大学方式による交流、(イ)論文博士号取得希望者への支援、(ウ)一般交流方式による交流に区分される。

(ア)の拠点大学方式による交流は、本学では、工学部が「総合工学」の分野でマレーシア・マラヤ大学及び国立シンガポール大学を相手国拠点大学として、また、東南アジア研究センターが「日・タイ研究」の分野でタイ・タマサート大学を相手国拠点大学として、更に、木質科学研究所が「木質科学」の交流分野でインドネシア科学院応用物理学研究所を相手国拠点大学としてそれぞれ学術交流を行っている。

(イ)の論文博士号取得希望者への支援は、インドネシア、フィリピン、シンガポール、タイ、マレーシア、中国及び韓国の研究者が我が国の大学において論文博士の学位を取得することを援助する事業である。

(8) 外国人受託研修員（国際協力事業団（JICA）が招致する研修員）の受入れ

JICAが、発展途上国から招致する研修員に対し、国立大学等において研修の機会を与え、その能力の一層の向上を図ることに協力するものである。平成8年度には、10ヶ国から15名の研修員を1ヵ月から6ヵ月の研修期間で受け入れている。

(9) 国連大学派遣研究員

国連大学研究・研修センター「高等研究所」が課題とする研究テーマに関して、主として途上国・途上地域の若手研究者を受け入れ、当該事業に対する支援・協力を図っている。平成8年度には、経済研究所において、1名の研究員を受け入れている。

(10) ユネスコ微生物学国際大学院研修講座研修生

国際連合教育科学文化機関の国際大学院研修講座計画に協力して、アジア地域のユネスコ加盟国の科学者、特に大学の教員又は研究者を研究コースとして受け入れている。平成8年度は、4ヶ国から5名の研修生を受け入れている。

(11) 中国医学研修生

中国の保健医療に従事する人材の育成に資するため、財団法人日中医学協会が中国から招致する研修生を受け入れている。平成8年度には、6名の研修生が本学において研修の機会を得ている。

(12) 京都大学後援会

前述Ⅳ参照。

2. 京都大学招へい外国人学者等受入れ要項

前述の外国人研究者の受入制度により来日し、本学で研究等を行っている外国人研究者の位置付けあるいは身分に関連して、本学では「京都大学招へい外国人学者等受入れ要項」（昭和52年（1977）制定）により、外国人研究者等の受入れ体制を整備し、本学における位置付けを明確にするとともに、受入れ手続きについての基準を定めた。

同要項では、外国人研究者を次の2種類に分類し、本学の客員（Guest）として位置付けている。

① 招へい外国人学者

前述の外国人教師又は外国人研究者のような契約によらずに受け入れる外国人の研究者で、本学の講師と同等以上の資格があり、原則として1ヵ月以上、研究・教育を行う者を受入れ部局の教授会等の議に基づき、招へい外国人学者として

受け入れる。

(2) 京都大学招へい教授

招へい外国入学者のうち受入れ期間が3ヵ月以上で、本学教授と同等以上の資格があると認められる者については、当該教授会等の議に基づき「京都大学招へい教授」の名称を付与することができる。

(3) 外国人共同研究者

日本学術振興会の国際交流事業、日本国際教育協会の帰国外国人留学生短期研究制度、京都大学後援会の国際交流の促進に対する助成事業、文部省科学研究費補助金により招へいされる外国人研究者及び各種の国際交流事業等により招へいされる外国人研究者は、招へい外国入学者として受け入れる場合を除いて、外国人共同研究者として受け入れる。

この要項の制定に伴い、本学の外国人研究者は、(1)勤務の契約による者、(2)この要項による者、(3)研修規程による者、(4)一時訪問者、のいずれかとして受け入れられることとなった。

外国人研究者の受入れ制度と本学での位置付けを名称で対応すると次のとおりである。

制 度	名 称
外国人教師	外国人教師
外国人特別招へい教授	〃
日英共同による英国からの招へい教授	〃
外国人教員としての任用	教授、助教授等（一般職の国家公務員）
外国人研究員	外国人研究員
学術国際交流推進のための外国人研究者	招へい外国入学者
中国政府派遣研究員	招へい外国入学者又は外国人共同研究者
文部省科学研究費補助金	〃
日本学術振興会	〃
京都大学後援会	〃
各種の国際交流事業等	〃
国際協力事業団が招致する研修員	外国人受託研修員

3. 海外派遣の制度

本学の教員が海外に渡航するために利用できる制度には多くの種類がある。これらの制度を所掌する機関は、文部省、日本学術振興会、国際交流基金等が主なものであり、また、別に京都大学後援会がある。以上の他にも民間の財団等による数種

の助成制度がある。外国の機関によるものとしては、フルブライト（アメリカ合衆国）、ブリティッシュ・カウンシル（イギリス）、フンボルト（ドイツ）等がある。

なお、本学における海外渡航件数は別表2のとおりである。

(1) 文 部 省

① 在外研究員

以下の5種類があり、派遣旅費、派遣期間がそれぞれ異なっている。

長 期 甲 種 渡航費、滞在費が文部省から支給される。
原則として派遣期間は6ヵ月以上10ヵ月以内
出国時に50歳以下の教官

長 期 乙 種 渡航費は文部省から支給される。
滞在費は外国の政府等の保証のあるもの
原則として派遣期間は6ヵ月以上24ヵ月以内
出国時に50歳以下の教官

長期乙種留学生 長期乙種と同様

若 手 研 究 者 長期甲種と同じ。
ただし、出国時に35歳以下の助教授、講師、助手
原則として派遣期間は6ヵ月以上12ヵ月以内

短 期 渡航費、滞在費とも文部省から支給される。
原則として派遣期間は2ヵ月以内
出国時に55歳以下の教官

② 国際研究集会派遣研究員

会議開催地への渡航費及び会議開催期間の滞在費が支給される。

③ 科学研究費補助金による国際学術研究

以下の4つの区分があり、外国旅費（招へいを含む）を主として、国内旅費、設備備品費、調査研究諸費が支給される。

- 学 術 調 査—研究の内容、対象及び方法上、国外における調査研究、資料収集が必要な研究計画
- が ん 特 別 調 査—「対がん10ヵ年総合戦略」の重点研究課題に従って諸外国との交流・協力を図る研究計画及び世界各地にみられるがんの特性についての基礎的調査を行う研究計画
- 共 同 研 究—国内の研究者グループと国外の研究者グループが一定期間、国内外において共同で研究・実験等を行う研究計画
- 大学間協力研究—我が国の大学が外国の大学との協定等に基づき、両者

が対等の立場で適切に役割等を分担することを原則として、一定期間、組織的に行う研究計画（大学長が認めたもの）

(2) 日本学術振興会

① 海外特別研究員

30歳以下の研究者を対象とする。（常勤的な職に就いているか否かは問わない。）

期間は、2年間。渡航費、滞在費及び研究費が支給される。

② 二国間学術交流

1) 研究者交流（特定国派遣研究者事業）

イギリス、ドイツ、フランス、カナダ、中国等研究者交流協定のある国への派遣で、期間及び経費支給等はそれぞれの国ごとに定められている。

2) 共同研究・セミナー

日米科学協力事業、日仏、日独、日英、日韓の各研究協力事業等がある。

3) 重点研究国際協力事業

我が国において重点的に推進されている研究について、その中心となる研究組織が外国の同種の研究組織と協力交流を発展させるために相手国の学術振興機関との共同研究を支援する事業で、公募は行っていない。

なお、本学では数理解析研究所が英国のケンブリッジ大学ニュートン数学研究所と共同研究を実施している。

(3) 国際交流基金

我が国と諸外国との相互理解及び友好親善を促進するための文化交流事業の一環として国際会議出席者の短期派遣並びに学者、研究者及び芸術家の長期派遣事業がある。

(4) 国際協力事業団（JICA）

発展途上国の要請を受けて、個別にあるいはプロジェクト方式の協力による日本人専門家の派遣事業がある。

(5) 京都大学後援会

前述Ⅳを参照。

Ⅵ 学生交流

1. 外国人留学生の受入れ

本学が受け入れている外国人留学生は、次の3種類である。

(1) 学部留学生

正規の学部学生として入学する外国人留学生で、国費留学生と私費留学生(政府派遣留学生を含む)からなる。

(2) 研究留学生

大学院レベルの勉学を目的とする留学生で、正規の大学院学生として大学院修士課程或いは博士後期課程に入学する留学生と、研究生或いは研修員等の身分で研究に従事する留学生があり、それぞれ国費留学生と私費留学生(政府派遣留学生を含む)からなる。

(3) 日本語・日本文化研修留学生

外国の大学の主として学部学生(3年次又は4年次)で、日本語・日本文化などの学習を目的とする国費留学生。研修期間は1カ年。

以下、本学における留学生受入れの近況について述べる。

昭和37年(1962)の外国人留学生数は129名(うち国費留学生25名)であったが、その後の受入れ数は増加し、平成8年(1996)5月1日現在では968名(うち国費留学生343名)に達している。(別表3、4参照)

外国人留学生の受入れ方法は一様ではなく、国費留学生については、一般的には特別選考により受け入れており、私費留学生については、学部・研究科によって特別選考を行う場合と、日本人と同一の試験を課す場合とがある。

本学における過去5年間の留学生数を日本全体のそれとの関係で比べてみると、次のような特徴が読みとれる。

①国費留学生の受入れ数は、全国約15%、本学約35%とその比率が高く、私費留学生は、全国約85%、本学約65%となっており、私費留学生は、国費留学生の約1.8倍である。②研究留学生(約88%)の数が圧倒的に多く、学部留学生の約9倍近くに及ぶ。③学位取得を目的とする留学生(大学院学生)は、学位取得を目的としない研究生・研修員等の約2倍である。

また、留学生の出身地には、次のような特徴がある。(別表3参照)

①地域別では、アジアからの留学生が80%と圧倒的に多いが、全国と比べると10%程度低くなっている。国別では、中国、韓国、台湾、インドネシア、タイの順となる。②ヨーロッパからの留学生の割合は7.2%で、全国分布よりやや多く、アジアに次いで第2位である。第3位は中南米の3.9%である。③過去5年間(平成4年(1992)～平成8年(1996))の国別平均では、中国、韓国、台湾、インドネシア、イ、アメリカ、マレーシア、ドイツの順である。平成8年(1996)5月1日現在では中国からの留学生が369名で最も多い。

部局別の過去5年間の平均受入数は、工学部(260名)、経済学部(124名)、農学部(120名)、文学部(70名)、医学部(69名)、理学部(58名)、法学部(53名)の

順である。研究所等では留学生センターの39名が最も多い。

2. 短期留学生の受入れについて

我が国において、留学生交流の新たなニーズとして、外国の大学に在籍しながら1学年以内の短期間日本の大学に留学するという、いわゆる短期留学による交流が活発化してきており、本学においてもこの方式による留学生交流を進める必要性から、受入れ体制の整備に努めているところである。

この短期留学生は、本学と諸外国との大学間交流協定（部局間協定を含む）に基づく私費留学生である。そのため、文部省の支援事業として財団法人日本国際教育協会がこれらの留学生のために奨学金制度を平成6年度に創設した。本学においては、平成9年10月から、短期留学生を受け入れる全学規模での国際教育プログラムを開始する。これは平成7年12月に発足した京都大学国際教育プログラム準備委員会が総括・準備してきたプログラムで、全学の教官が英語で講義する16科目を留学生センターが実施部局となって全学共通科目として提供し、学生交流協定を結んだ海外の大学からの20名程度の学生に受講させるとともに、ほぼ同数の正規学部学生にも履修を認めるものである。内外の学生達は修業年数が不利にならぬように自国の大学での単位互換を原則とするこのプログラムに参加することにより、日本の文化・社会や21世紀にかけての地球規模の課題について共に学び、相互の交流を通じて互いの国際性を涵養する機会と場所にして欲しいという狙いを持つものである。初年度にこのプログラムに参加する外国人学生の選考はすでに終了し、ウィーン大学、ライデン大学、ユトレヒト大学、ソウル大学校、ローザンヌ大学、ストックホルム大学、ウブサラ大学、サセックス大学、ハイデルベルク大学、ストラスブール第3大学、トロント大学、オークランド大学から計23名を受け入れる予定である。

3. 学生の海外留学

外国に留学する本学学生数は、平成7年度（1995）は87名である。留学は、学生国際交流制度及びアジア諸国等派遣留学生制度などによっている。

本学学生の海外派遣の最近の傾向は次のとおりである。

①留学する学生は、学部学生は少なく、大学院学生が大部分である。②学部別では、文学部、教育学部、医学部等で、地域別では、ヨーロッパ、北米、アジアの順である。③自費で外国に留学する学生が過半数を占める。

日本政府の日本人学生の海外留学に対する援助には、文部省が平成8年度（1996）から始めた短期留学推進制度がある。これは日本の国立大学と外国の大学との間に結ばれた学生交流協定によって留学する日本人学生に、往復旅費と1年以内の奨学金が支給されるもので、応募資格は学部学生及び大学院学生である。本学では平成

8年度（1996）に6名、9年度に5名がそれぞれ本制度に採用となった。

4. 留学生専門教育教官

外国人留学生受入れの増加に伴って、受入れ体制や学習上並びに生活上の諸条件の向上を図るため、昭和59年（1984）以来段階的に、留学生の多い学部に対し、特に留学生のための「専門教育教官」が配置されてきている。現在の配置状況は、工学部5人、経済学部及び農学部各2人、文学部、法学部、理学部及び医学部各1人である。

5. 留学生のための諸事業

(1) 日本語教育

外国人留学生のための日本語教育は、主として留学生センターで行われている。また、総合人間学部においては正規授業科目として「日本語」Ⅰ及びⅡ（各週2時間、通年4単位）を開講している。

(2) 見学旅行

大学の教育計画に基づく教育活動の一環として、外国人留学生を対象に、学内での教育に加えて日本国内を实地に見学する旅行であり、教職員の引率で1泊又は2泊の旅行を年平均5～6回実施している。

(3) 留学生パーティ

外国人留学生のためのパーティとして、新入生歓迎会等を実施している。

(4) 『GUIDE BOOK FOR FOREIGN STUDENTS』の刊行

本学に在学する留学生の勉学と生活の案内書として、小冊子を毎年発行している。内容は本学の歴史、各学部・研究所等の構成、図書館の利用案内等学習指針に関する記述の他に、宿舎、保健、生協、出入国管理・外国人登録に関する諸規則、各種奨学金等生活設計に関する記述からなっている。

(5) 『京都大学通信』の発行

国費外国人留学生制度が設けられた昭和29年（1954）以降だけでも、本学で勉学し、帰国後の連絡先の明確な留学生は約2,400名に達する。これらの留学生は、帰国後、指導教官等との個人的な連絡をとっていたのみであったが、国際交流委員会C小委員会でこの問題を検討した結果、帰国留学生名簿の整備を行い、大学や留学生の現状を記載した『京都大学通信』を発刊して、本学と帰国した留学生との連絡を密にすることを図った。第1号が昭和59年（1984）10月に発行され、現在は留学生センターにより、第14号まで発行されており、大きな反響がある。

6. その他

(1) 奨学金

平成8年度に留学生課で取り扱った外国人留学生のための民間奨学団体等奨学

金は、次の佐野奨学金制度を含めて約50団体である。奨学金月額、3万円～20万円程度であり、採用人員は若干名のものが多い。このうち、日本国際教育協会の学習奨励費（一般奨励費及び平和友好特別奨励費）は、近年、採用枠が拡大されている。これら50団体の奨学金を受けている本学留学生は平成8年度で約270名であり、これは私費留学生の約43%にあたる。

(2) 佐野奨学金制度

佐野奨学金は、医学部卒業生佐野猶則博士からの寄付金を基に、昭和54年(1979)5月に発足した。この奨学金は本学に学ぶ東南アジアからの留学生を主たる対象とし、奨学援助を通じて国際友好を深めるために設けられ、奨学金の交付と、医療費の貸与などに当てられており、学生部に佐野奨学金運営委員会を設置して運営に当たっている。

(3) 宿 舎

平成8年5月1日現在で、「留学」の在留資格を有する留学生の宿舍状況をみると、本学国際交流会館に84名、他大学設置の留学生宿舍に18名、公益法人等宿舍に135名、本学学生寮に51名、その他民間下宿・アパート等に666名が同居しており、約70%が民間下宿・アパート等に入居している。

(4) 医 療

我が国に1年以上滞在予定の留学生は、国民健康保険に加入することとなっている。また、「留学」の在留資格を有する留学生は、日本国際教育協会の外国人留学生医療費補助制度により、医療機関に支払った医療費（健康保険法の適用を受け得る療養に要した経費）の80%の補助を同協会から受けることができる。

(5) 地域交流

京都地域における外国人留学生の受入れ及び外国人留学生と地域社会との交流活動の推進を図るための諸方策について協議するため、平成2年5月、京都地域の大学、短期大学、大阪入国管理局、地方公共団体、経済団体、国際交流団体等39団体を構成員として、京都地域留学生交流推進協議会が設立された。議長は、京都大学総長が就任し、広報誌「留学生交流 きょうと」を発行している。また、これらの関係機関が開催する各種行事、事業には多くの外国人留学生が参加している。

Ⅶ 名誉博士の称号授与

「京都大学名誉博士称号授与規程」が昭和62年(1987)2月24日に制定され、本学における学術研究に寄与した功績が特に顕著であると認められ、かつ、国外における研究成果が特に顕著な研究者に対して名誉博士の称号を授与するもので、年に

1-2名が予定されており、本学の国際学術交流の一層の進展に資するものと期待されている。

これまでの授与は、次のとおりである。

名誉理学博士（平成元年（1989）3月27日贈呈）

イスラエル・モイセーヴィチ・ゲルファント氏（数学者）

（ソ連科学アカデミー会員・モスクワ大学教授）

名誉工学博士（平成元年（1989）5月10日贈呈）

ジョージ・ガーフィールド・ホール氏（理論化学者）

（国際量子分子科学アカデミー会員・元本学工学部教授）

名誉医学博士（平成2年（1990）3月12日贈呈）

ハンス・ノイラート氏（生物物理化学者）

（米国科学アカデミー会員・ワシントン大学名誉教授）

名誉工学博士（平成2年（1990）9月10日贈呈）

ルドルフ・エミール・カルマン氏（システム理論学者）

（米国フロリダ大学大学院教授・スイス連邦工科大学教授）

名誉農学博士（平成4年（1992）12月7日贈呈）

ターゲ・リカルド・エリクソン氏（植物生理学者）

（スウェーデン王立アカデミー会員・ウプサラ大学名誉教授）

名誉医学博士（平成7年（1995）1月17日贈呈）

クリスチャン・シュトレッファー氏（医学放射線生物学者）

（ドイツ連邦共和国エッセン大学教授）

名誉工学博士（平成7年（1995）12月12日贈呈）

ロバート・バイロン・バード氏（化学工学者）

（米国科学アカデミー会員・ウイスコンシン大学バイラス名誉教授）



Ⅷ 京都大学国際交流会館

1. 沿革

昭和52年（1977年）7月、国際交流委員会の発足とともに、同委員会において本学のみならず、京都府、滋賀県、奈良県に所在する国立大学、文部省及び文化庁の所轄機関を訪れる外国人研究者及び外国人留学生を対象とする宿泊施設の具体的な建設計画について検討された結果、昭和55年度（1980年）及び同56年度（1981年）の予算で、京都市左京区山端（修学院）の本学用地に、鉄筋コンクリート造5階建、延床面積6,800㎡規模の京都大学国際交流会館の建設が認められた。

その後、着工に先立って関係者により建設用地の周辺居住者への国際交流会館に対する理解を得る努力が続けられ、昭和56年（1981年）4月起工式の挙行、同年5月着工の運びとなり、昭和57年（1982年）3月完成し、同年8月7日に文部大臣を迎え開館の式典が挙行された。

しかし、その後、来日する外国人研究者及び外国人留学生は、年々増加の一途を辿り、本学における受入れも急激に拡大し、これに伴い、こうした研究者・留学生の宿舎問題を解決し、かつ、安定した研究・勉学のできる環境を整備することが緊要な課題となった。このため国際交流会館委員会において第二の国際交流会館の建設計画が検討され、結果、本部地区構内から離れた宇治地区構内で研究・勉学する外国人研究者及び外国人留学生の便宜を図るため、昭和61年度（1986年）及び同62年度（1987年）の予算で、宇治地区構内に隣接する用地に、鉄筋コンクリート4階建、延床面積1,462㎡規模の京都大学国際交流会館宇治分館の建設が認められた。宇治分館は、昭和61年（1986年）3月着工、同年10月完成し、昭和62年（1987年）1月16日、総長はじめ関係者出席のもとに開館の式典が挙行された。

これら二つの国際交流会館の施設の概要は、次のとおりである。

施設	区分	家族室	夫婦室	単身室	計	総計
修学院本館 (Shugakuin International House)	研究者用	11	24	22	57	133
	留学生用	10	21	45	76	
宇治分館 (Uji International House)	研究者用	1	8	4	13	26
	留学生用	1	6	6	13	
計	研究者用	12	32	26	70	159
	留学生用	11	27	51	89	

* 共用施設として、修学院本館には、会議室、図書室、談話室、和室、ロビー、シャワー室、洗濯室、自炊室があり、宇治分館には、談話コーナー、洗濯室等がある。

2. 運営と現状

国際交流会館建設に先立ち、国際交流委員会は国際交流会館の在り方に関する基本理念の審議等を行うと共に、昭和56年（1981）にD小委員会を設置し、会館の管理運営の具体策について検討した。検討の結果に基づき、現在、国際交流会館は下記のように運営されている。

(1) 会館の在り方

会館は、単なる外国人のための宿泊施設としてではなく、これを中心として居住者、大学関係者及び市民の三者が相互交流を行う場として活用されるよう配慮する。

(2) 会館の管理運営組織

総長が館長となり、昭和57年（1982年）に設置された国際交流会館委員会が管理運営の主要を審議し、実務は庶務部国際交流課がその任に当たる。

(3) 会館主事

総長が本学教職員の中から主事を任命する。主事は、会館で居住者と起居を共にしながらハウスマネージャーとして居住者の生活相談に当たり、また居住者間の相互理解を深めるための各種行事等に参画する。

なお、修学院本館には主事に加えて、主事を助けて種々の相談に応じる主事補佐及び居住者の医療面の管理、相談に応じるため医療主事が配置されている。

(4) 入居期間

外国人留学生に関しては、在学学生数が900名を超え、これらのうちの入居希望者数と会館の収容居室数との差が極めて大きい実状に鑑み、会館入居に当たっては、来日が初めての学生が日本での生活に順応するためのオリエンテーションの場として利用することとし、入居期間は1年として延長を認めないこととした。他方、研究者の入居に関しては1か月以上1年以内を原則としている。

(5) 入居選考

外国人留学生に関し、国費留学生と私費留学生は原則として同じ扱いとし、入居者は国際交流会館連絡小委員会で選考されるが、同一国籍の留学生の入居数は、原則として留学生用居室の10分の1の数を超えないこととしている。

(6) 会館規程等

会館規程、同使用細則及び入居手続きその他の会館利用案内については、入居手引を作成し、入居者に配布している。

修学院本館の会館業務は、昭和57年（1982）9月から開始し、同年10月初旬には約30か国、総数約100名が会館で生活することとなった。また、宇治分館の会館業務は、昭和62年（1987）1月から開始し、同年2月には全居室数の約半数の入居となった。これを契機として、会館は国際交流の場として活用され、修学院本館の談

話室（宇治分館ではロビー）は居住者が自国を紹介する場として、また、会館内では会館周辺在住のボランティアの指導による日本文化、特に華道、茶道の研修の場として利用されている。一方、ボランティアの好意による日本語及び日本料理の講習、着物の着付け、バザー、無料理髪等も行われており、これらの長年にわたるボランティア活動に対し、平成7年（1995）5月、館長（総長）から個人9名及び3団体に感謝状が授与された。その他定期的な懇親会も開かれて居住者間のみならず周辺在住者との国際交流の実もあがっている。

これらの諸活動を育成し助成する際に問題となるのは財政面での困難性であるが、これの打開の一助として国際交流委員会の発議により“京都大学国際交流会館後援会”を組織し、本学教職員に会員としての人会を依頼することになった。現在ではその会員数も600名を超え、この支援により各種の催し、映写会などが定期的に企画実施されている。さらに昭和61年度（1986）から、京都大学後援会の助成も実現し、宇治分館の開館と併せて事業の内容も一層充実したものとなるよう計画・実施されている。

また、国際交流会館を中心とした活動については昭和58年（1983）から刊行の“国際交流会館ニュース”が現在第32号となり、学内外の関係者に配布されている。

別表1 外国人研究者年度別受入数（過去5年間）

区分 年度	外国人教員 (講師以上)	外国人 教 師	外国人 講 師	外国人 研究員	招へい外 国人学者	外国人共 同研究者	外国人受 託研修員	計
平成4年 (1992)	6	12	21	65	(14) 268	(2) 167	23	(16) 562
平成5年 (1993)	7	12	25	69	(14) 262	(2) 215	25	(16) 615
平成6年 (1994)	11	11	38	63	(11) 203	(3) 241	20	(14) 587
平成7年 (1995)	12	10	38	78	(8) 269	(2) 265	19	(10) 691
平成8年 (1996)	13	10	41	83	(7) 294	(2) 239	15	(9) 695

(注) () は京都大学後援会助成金による受入れ者数で、内数。

別表2 海外派遣制度別渡航件数

種 別	年 度	昭和62年 (1987)	平成4年 (1992)	平成5年 (1993)	平成6年 (1994)	平成7年 (1995)
1. 文 部 省 事 業		177	341	382	497	593
(1) 在 外 研 究 員		27	38	50	39	98
(2) 国際研究集会派遣研究員		32	36	49	37	44
(3) 科学研究費補助金による派遣		103	250	260	416	421
(4) その他事業による派遣		15	17	23	5	30
2. その他政府関係の派遣		200	173	207	197	222
(1) 文 部 省 以 外 の 省 庁		3	6	8	3	7
(2) 日 本 学 術 会 議		1	2	1	3	4
(3) 日 本 学 術 振 興 会		136	130	137	127	157
(4) 国際協力事業団		50	30	53	43	45
(5) 国際交流基金		5	4	7	0	7
(6) そ の 他		5	1	1	21	2
3. その他国内の資金による派遣		564	989	980	988	1,083
(1) 京 都 大 学 後 援 会		32	29	34	47	31
(2) そ の 他		532	960	946	941	1,052
4. 外国政府等受入れ側支弁による渡航		327	200	241	309	292
5. 私 費 に よ る 渡 航		712	543	605	519	776
合 計		1,980	2,246	2,415	2,510	2,966

(注)教員のみを対象とし、かつ私事渡航は除く。

3-(2)の「その他」は、委任経理金、公益法人その他の公共的機関等によるもの。

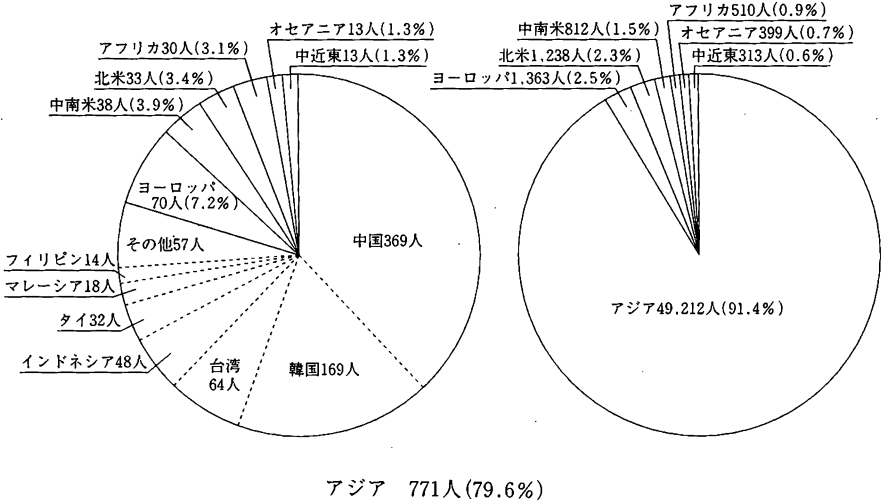
昭和62年は、年度内出発者のみで、平成4年以降は、前年度からの継続者を含む。

別表 3

留学生地域別分布

京都大学 (968人)
(平成 8 年(1996) 5 月 1 日現在)

全 国 (53,847人)
(平成 7 年(1995) 5 月 1 日現在)



別表4 部局別留学生数（過去5年間）（各年度5月1日現在）

部局名	年度 平成4年 (1992)	平成5年 (1993)	平成6年 (1994)	平成7年 (1995)	平成8年 (1996)
総合人間学部	—	14	14	22	19
文学部	77	68	61	72	73
教育学部	17	13	16	19	22
法学部	47	50	54	60	56
経済学部	97	114	114	139	158
理学部	53	59	59	59	62
医学部	66	64	69	73	75
薬学部	15	19	19	16	12
工学部	239	299	254	245	265
農学部	108	124	124	118	124
教養部	20	—	—	—	—
人間・環境学研究科	3	12	25	30	38
エネルギー科学研究科	—	—	—	—	4
化学研究所	4	6	5	2	4
人文科学研究所	6	7	6	8	4
胸部疾患研究所	3	4	3	3	0
原子エネルギー研究所	2	3	0	0	—
木質科学研究所	3	4	2	0	1
食糧科学研究所	5	1	2	0	2
防災研究所	6	4	2	3	2
基礎物理学研究所	0	0	0	1	1
ウイルス研究所	2	1	0	0	3
経済研究所	7	13	8	3	5
数理解析研究所	0	0	2	1	1
原子炉実験所	1	2	0	0	0
霊長類研究所	0	2	2	0	0
東南アジア研究センター	1	1	0	2	1
放射線生物研究センター	1	1	2	1	0
生体医療工学研究センター	0	1	2	1	2
超高層電波研究センター	0	1	1	0	0
環境保全センター	1	1	0	0	0
留学生センター	24	47	46	43	34
合計	808	935	892	921	968

8章 学術情報ネットワーク機構

学術情報ネットワーク機構は、研究・教育に欠かせない基盤（インフラ）であるマルチメディアネットワークを京都大学全体に建設し、維持、管理、改善することを任務とする組織である。

昭和62年（1987）4月、「京都大学統合情報通信システム（KUINS: Kyoto University Integrated information Network System）建設本部」が大型計算機センターを母体として開設され、第一期計画の建設が開始された。KUINSの目的は、本学構成員のすべてに対して、研究・教育・事務活動における情報資源の相互利用・統合的処理を行うための基盤となる学内ネットワークを整備すると共に、学術情報ネットワークを中心とする全国網にも接続することであった。

この計画に沿って、吉田・宇治・熊取・犬山その他のキャンパス内それぞれにおいて、基幹LAN（Local Area Network）の整備、デジタル交換機、キャンパス間を専用回線で接続するためパケット交換機などの整備が鋭意進められた。平成2年（1990）3月末に第一期計画は完了し、KUINSに接続された大型・中型コンピュータ、ワークステーション、パソコンなどは、キャンパス間相互だけでなく、学術情報ネットワークを介して全国の学術研究機関のコンピュータなどとの接続が可能となった。その結果、遠隔端末からの接続、ファイル転送、電子メール・ネットニュース・ファクシミリメールの送受信、各種データベースのオンライン検索などが利用可能となり、研究・教育・事務における情報システム化に貢献している。

KUINS第一期計画の完成を受けて、統合情報通信システム建設本部はその所期の目的を達成し、平成2年（1990）3月末に解散した。しかし、大学における複雑な学術情報ネットワークを維持・管理・拡充させるため、同年4月に「京都大学学術情報ネットワーク機構」が発足した。この機構は、研究開発部門と事務部門に分かれ、研究開発部門は、データベース担当、ネットワーク担当、学術資料情報担当の三担当から成っている。

データベース担当の主な範囲はつぎのとおりである。

- (1) 研究者の持つ学術情報のデータベース化に関する技術的援助・助言、
- (2) 国内外の商用データベース等の利用に関する仲介・相談など、
- (3) 各種データベースの共通アクセス方式及び統合的利用方式の開発、
- (4) オブジェクト指向データベース、マルチメディアデータベースなどの新しいデータベース方式の研究開発。

ネットワーク担当の主な範囲はつぎのとおりである。

- (1) KUINS システムの番号体系の整備, サブ LAN の整備に関する援助・助言,
- (2) OSI, ISDN に対する対応, 国内・国外接続の今後の展開に対する対応,
- (3) 高速・特殊データ通信のための技術的検討と研究開発,
- (4) マルチメディア通信に関する技術開発

学術資料情報担当の主な範囲はつぎのとおりである。

- (1) 全国図書館ネットワークの活用方式の検討,
- (2) 学術資料情報, グレイリテラチャの組織化に関する検討,
- (3) 図書資料情報の高次情報検索方式, クロスレファレンス方式の研究開発, 自然言語による自由なデータベースアクセス方式の研究開発,
- (4) 電子図書館システムの研究開発。

一方, 事務部門は,

- (1) 情報通信システムの総合計画と推進
- (2) 情報通信に関するユーザの窓口, 相談に対する助言や調査, 利用状況の把握
- (3) 情報通信に関する保守管理と運用
- (4) 情報通信に関する普及, 広報

などを担当する。

平成5年度補正予算により, KUINS の基幹ループ LAN を拡張・充実させた。基幹ループ LAN で相互接続されるサブ LAN に, イーサネット (伝送速度10Mbps) に加えて, FDDI (伝送速度100Mbps) も可能とし, 情報転送量の多い館内の通信や多くの利用者からアクセスされるコンピュータへの通信に用いられている。また, すべてのサブ LAN にルータが設置され, サブネット化を実現した。これにより, 規模の大きな吉田地区の混雑さを緩和するとともに, 障害の波及をできる限りサブ LAN に止めることができた。しかし, 接続されるコンピュータやパソコンは急激に増加し, 平成9年3月末には全学で約8千台になっている。

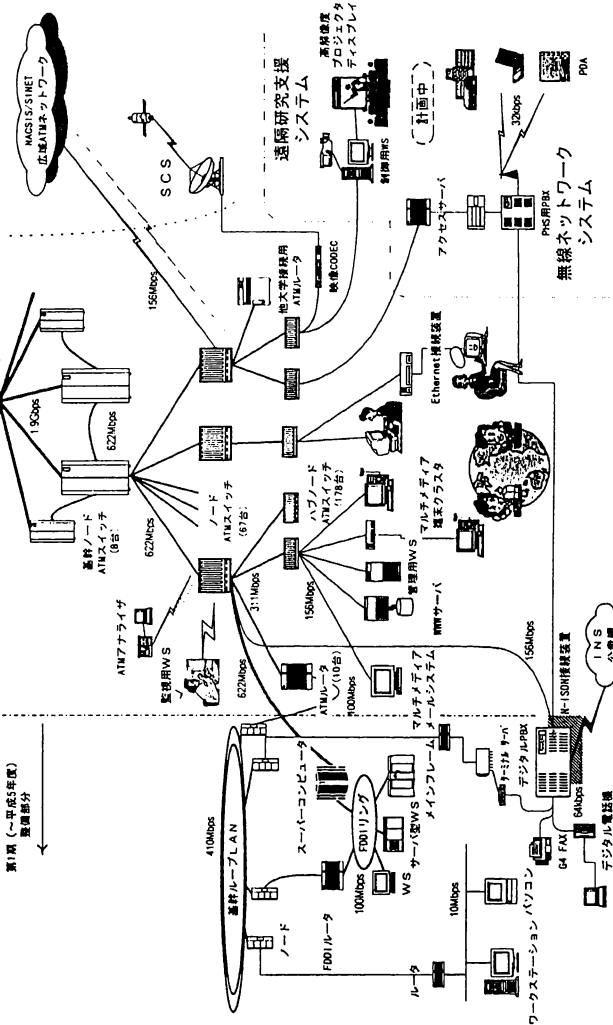
平成7年度の補正予算で ATM (非同期転送方式) 交換機から構成される超高速ネットワークを構築した。動画像や映像など超高速通信の必要性が増大するなか, コンピュータやワークステーションで百数十 Mbps 程度の通信が可能な国際標準の通信方式として ATM は極めて有効である。今後の研究・教育に不可欠な情報コンセントになると考え, 始どの研究室から100メートル以内に ATM ハブスイッチがあるように設計されている。さらに, 研究分野間の協力は多様になってきているので, どのような相手とも自由に接続され, かつ, 高速性が損なわれないように, 交換機を階層的に構成している。また, 接続経路に冗長性を持たせて, 過負荷時のバイパスや故障・停電などに対処できるようになっており, まさにインフラとして整備されている。一方, 第一期の LAN の後継設備として機能させることも今後検討

していかなければならない。

KUINS 第二期計画として、ATMの他に、大山、熊取、宇治の各地区及び病院構内にISDN 対応のデジタル交換機が設置された。今後は、ATMの特徴を活かした映像情報伝送システムの導入による遠隔講義・テレビ会議の実現、動いていても通信可能なパーソナルハンディフォーンシステム(PIHS)の設置などがあげられている。

KUINS 第2期計画 全体構想

超高速ネットワークシステム (平成7年度)



第1期 (平成5年度) 整備部分

超高速ネットワークシステム (平成7年度)

9章 学生生活

I 学生部

学生部の歴史は明治37年（1904）9月の学生監の設置に遡ることができる。その後、種々の変遷を経て本学が新制大学として再発足して間もない昭和24年（1949）8月に、ほぼ今日の学生部の原型が整うに至った。学生部の所管業務を簡単に要約すると以下のようになる。

本学には、その設置目的である教育・研究を直接担っている学部、研究科、研究所、センターなどの各部局があるが、学生部は、これら各部局と連絡・調整をしながら、各部局の業務以外の全学に共通した学生の大学生生活にかかわる領域を担当している。

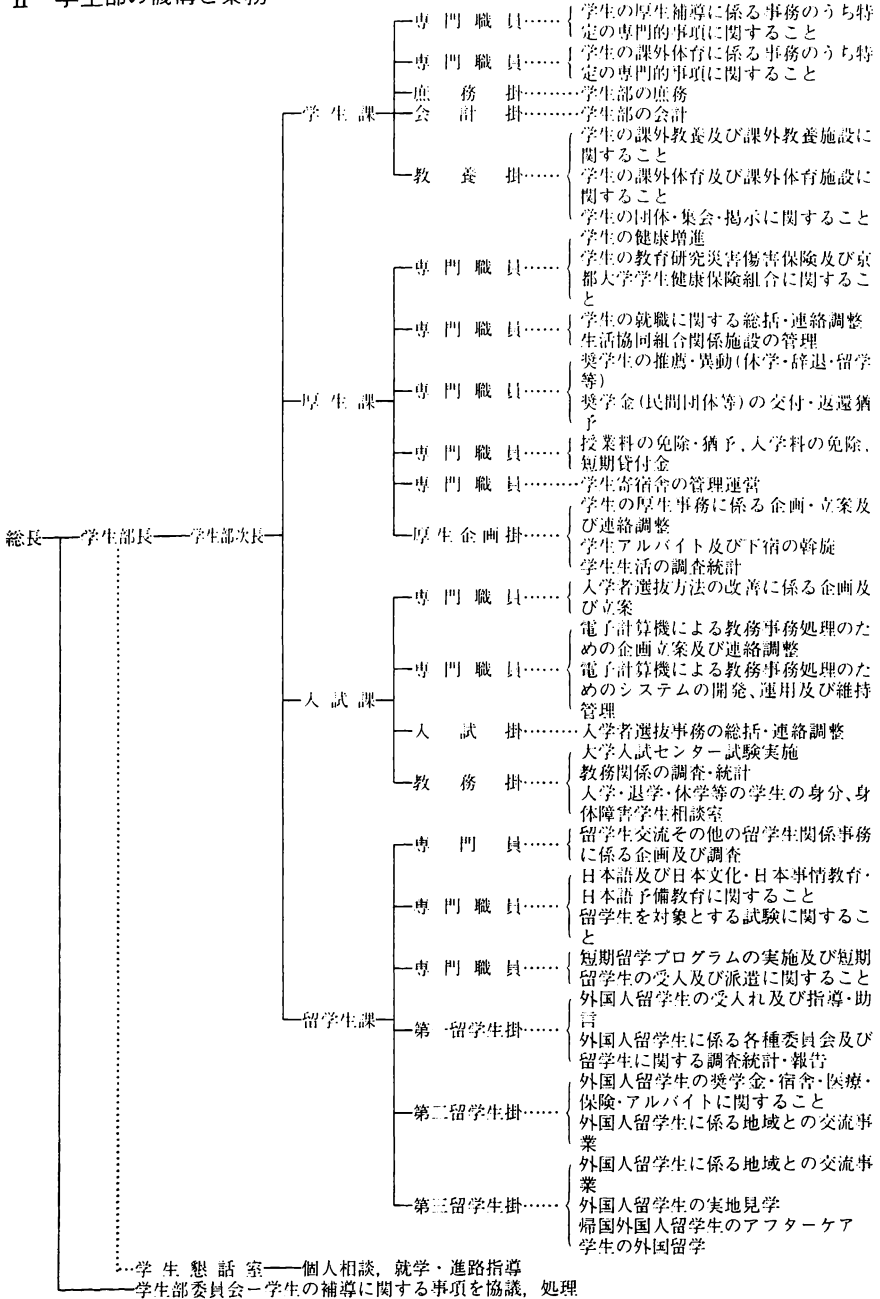
学生部と学生とのかかわりは、まず入学試験についての業務から始まる。そして、入学後、学生が大学生生活で直面する種々の経済上、健康上等の問題について学生懇話室や身体障害学生相談室などと連携を図りながら、相談に応じ、これを援助するために各種の福利・厚生補導業務を行っている。一方、学生が自主的に取り組む課外活動に対しても同様の業務を行うと同時に、建物面積延約43,000平方メートルに及ぶ各種の施設（学生寄宿舎、食堂・購買部（委託）、体育館等の体育関係施設、学生サークル室、山の家、海の家など）を備え、全学の利用に供している。

また、現在73カ国972人の外国人留学生を迎えており、留学生のためのいろいろのサービス業務を行っている。

以上のように、学生部の業務が、直接、学生の生活及び勉学上に影響を及ぼすため、教育的な配慮も必要であることから、本学では学生部の長には、教授が就任することになっており、現在、大学院農学研究科教授宮崎 昭が学生部長である。また、学生の補導に関する事項を協議処理する機関として各学部及び人間・環境学研究所、エネルギー科学研究科の教官で構成する学生部委員会が置かれている。



II 学生部の機構と業務



Ⅲ 入学試験

本学の学部入学生についての入学試験に関する業務は、各学部事務室と学生部入試課で行っている。また、大学院の入学試験業務は、各学部事務室が担当している。

入試課が担当する業務は、一つは国公立大学に共通する学部入学に必要な大学入試センター試験と本学独自の第2次学力試験に関するものであり、それが公正で円滑に行われるように、全学の入試業務の総括、連絡調整を行うものである。また、もう一つは入学後の学生の身分異動など教務関係についての総括的業務に関するものである。

1) 大学入試センター試験（入試課教務掛）

大学入試センター試験の実施に関し、受験案内の交付、試験場の設定など実施全般にわたる業務を行っている。

2) 第2次学力試験（入試課入試掛）

本学の第2次学力試験は、各学部の定めるところにより、各学部の責任において実施することとしている。一方、全学的に共通して定め、実施されるべき事項については、学部間の連絡調整を図り、これを決定する。このようにして決定された選抜方法、実施教科・科目、実施日程などの内容は、本学の「入学者選抜要項」（7月頃）・「募集要項」（12月頃）として公表している。なお、この問い合わせや交付請求には、主として各学部の教務掛が対応している。

3) 選抜方法の調査研究等（入試課専門職員）

本学によりふさわしい入試方法の改善のため、資料を収集し多様な選抜方法などについて調査研究をしている。また、本学の受験者について、その総数、入学定員に対する倍率、合格者数、その他を整理・公表している。

4) 教務関係事務（入試課教務掛）

学部・大学院学生の学籍の記録と入学、卒業、退学などの身分異動を処理し、その他教務事務について、各学部間の連絡調整を行っている。

5) 教務事務電算（入試課専門職員）

本学の教務事務電算化を円滑に推進するための企画、立案、調整及び効率的なシステムの開発、運用、維持管理に関することを行っている。

Ⅳ 学生生活

本学の学部学生の出身地と平均的な生活状況を紹介する。出身地については、現在、約13,750人の学生が、10学部に在籍しており、出身都道府県（出身高校所在地）は、北は北海道から南は沖縄県まで、全都道府県から入学者があり、これを全国8

地区に区分して、各々の地区の出身者別にみると、近畿地区の出身者が54%と最も多く、次に中部地区13%、関東地区11%の順となり、この3地区の出身者で京大在籍者の78%をしめている。ちなみに、京都府下の高校出身者は10%である。

京大生の平均的な生活状況については、学生部が昭和28年以降、学生生活実態調査を実施しており、平成7年度の調査結果に基づく概略は次のとおりである。

家庭は父母、兄弟姉妹1人の4大家族が多く、年収（平均値）は約1,170万円。職業はサラリーマンが80%。在籍者の約71%が下宿住いで、家庭からの仕送りは約10万円。本学を中心に約2 kmの範囲内に住み、部屋はマンション型式等で8畳間。部屋には、ラジカセ、CDプレーヤー、冷蔵庫、テレビ、炊飯器、クーラー、電話などを備えている。運転免許証を所持しており、通学は自転車かバイク。そして、50%の学生が定期的に毎月アルバイトを行い、75%近くが何らかのクラブ・サークルに加入している。

1. 経済生活

1) 授業料免除と徴収猶予・分納（厚生課専門職員）

経済的な理由や風水害などによる被災、その他定められた期限までに授業料の納付が困難である者は、家計事情や学業成績を資料として選考のうえ、授業料が免除又はその徴収が猶予・分納される制度がある。

2) 奨学金（厚生課専門職員）

学業成績や人物が優れ、かつ健康であって、経済的に困窮している者には、選考のうえ、奨学金が貸与又は給与される制度がある。

厚生課で取り扱っている奨学金には、以下に示すように日本育英会、地方公共団体によるものほか多くの民間育英団体の奨学金がある。

ア 日本育英会奨学金

日本育英会奨学金は無利子貸与の第一種、有利子貸与の第二種があり、学部学生及び修士課程学生に、第一種・第二種、博士（後期）課程学生に第一種奨学金が貸与される。

〈貸与月額、期間及び総額〉

平成9年度学部・大学院修士課程入学者並びに大学院博士（後期）課程進学・入学及び編入学者の奨学金の貸与月額、期間及び総額は、次表のとおりである。

種 別			月額・期間・総額	貸与期間	貸与月額 (正規の最短修業期間)		貸与総額
					始 期	終 期	
学 部	第 一 種 奨 学 生	自 宅 通 学 者	40,000	9.7	13.3	1,800	
		自 宅 外 通 学 者	46,000	9.7	13.3	2,070	
	第 二 種 奨 学 生	自 宅 通 学 者	40,000	9.7	13.3	1,800	
		自 宅 外 通 学 者	46,000	9.7	13.3	2,070	
大 学 院	修 士 課 程 奨 学 生	第 一 種	83,000	9.4	11.3	1,992	
		第 二 種	83,000	9.4	11.3	1,992	
	博 士 (後 期)	課 程 奨 学 生	115,000	9.4	12.3	4,140	

(注) 医学部・医学研究科は、本表の貸与終期・貸与総額に24か月分(学部)・12か月分(研究科)が加算される。

イ その他の奨学金

日本育英会奨学金以外に、厚生課で取り扱っている奨学金には、次のものがある。

〈地方公共団体の奨学金〉

(平成9年4月1日現在)

石 川 県	大 阪 府	岡 山 県	島 根 県
山 口 県	愛 媛 県	福 岡 県	佐 賀 県
長 崎 県	宮 崎 県	鹿 児 島 県	札 幌 市
千 歳 市	宇 都 宮 市	鱈 江 市	豊 田 市
伊 勢 市	尾 西 市	東 大 阪 市	北 九 州 市
田 川 市	山中町(石川県)	琴海町(長崎県)	吉松町(鹿児島県)

〈民間育英団体の奨学金〉

(平成9年4月1日現在)

あしなが育英会	石井記念証券研究振興財団	伊藤謝恩育英財団	井上育英会
浦上育英会	小原白梅育英基金	貝島育英会	檜山奨学財団
北澤育英会	木下記念事業団	加藤育英会	神崎製紙育英資金
木村奨学会	楠壁奨学基金	興英会	交通遺児育英会
鴻池奨学財団	小森記念財団	実吉奨学会	昭和教育振興財団
昭和報公会	重政教育財団	鈴木奨学会	清香奨学会
洗心育英会	曹洞宗育英会	竹中育英会	知恩会
中信育英会	電通育英会	戸田育英会	中村積善会
中山報恩会	南都育英会	西原育英文化事業団	日鉄鉱業奨学会
日本コカ-Colaボトラーズ育英会	日本証券奨学財団	原菊太郎基金	阪和育英会
馬場育英会	ふくしん育英会	フジクラ育英会	法華倶楽部四恩育英会

丸 和 育 英 会	三 木 記 念 会	三菱信託山室記念奨学財団	村 尾 育 英 会
森 下 育 英 会	森下仁丹奨学会	森安大学院奨学生奨学財団	山 岡 育 英 会
山 田 育 英 財 団	山 田 育 英 会	山下太郎顕彰育英会	吉 田 育 英 会

3) 学生援助金(厚生課専門職員)

学生援助金は、病気、不慮の事故、送金の延着などで、急な出費を必要とする場合に貸し付けを行うものである。この貸付金は、本学関係者の寄付により行っている。

4) アルバイト(厚生課厚生企画掛)

厚生企画掛で紹介するアルバイトは、主に、家庭教師・古くから伝承されている京都特有の祭礼行事に関わるもの限定して紹介している。

ア アルバイトの紹介

家庭教師は、平日の午後2時に求人内容を掲示し、午後2時40分に紹介している。祭礼などは、求人京都度、掲示し募集している。

〈祭礼アルバイト〉

いずれも京都ゆかりの行事に関わるもので、例年次の祭礼の行列員等を紹介している。

今宮神社 須賀神社 葵 祭 榎の宮神社 祇園祭
 日吉神社 吉田神社 時 代 祭 久我神社

イ アルバイト報酬

報酬は、京滋地区学生アルバイト・下宿対策協議会の協定料金により、概ね次表のとおり標準金額が定められている。

職 種	報 酬	適 用
家 庭 教 師	18,000～49,000円	月 額(週1～3回)
一 般 事 務	4,690～ 6,900円	日 額
軽 労 働	4,910～ 8,500円	日 額

2. 住 居

1) 下 宿(厚生課厚生企画掛)

厚生企画掛で紹介している下宿は、京滋地区学生アルバイト・下宿対策協議会の協定料金により、概ね4.5畳は16,200円まで、6畳は21,600円まで、8畳は25,900円までのものを扱っている。

斡旋は、厚生企画掛内の「下宿紹介カード」により閲覧・紹介している。

2) 学生寄宿舎 (厚生課専門職員)

本学には、吉田寮、熊野寮、女子寮及び室町寮の次の4寮がある。

学生寄宿舎の概要

寄宿舎名	所在地	収容人員	対象学生	建物構造	居室様式	附属施設	通学時間
吉田寮	京都市左京区 吉田近衛町	147名	本学学生 (本学に 学籍の ある者)	木造2階建 (3棟)	和式8畳~10畳 26室 (2人制) 和式6畳7.5 畳 (1人制)	図書室・舎友 室・娯楽室・ 応接室・茶室	徒歩約5分
熊野寮	京都市左京区 川端通丸太町 東入ル	422名	本学学生 (本学に 学籍の ある者)	鉄筋コンク リート4階 建 (3棟)	洋式30m284室 (4人制) 洋式15m243室 (2人制)	食堂・談話室 ・図書室・会 議室・委員会 室・音楽室・ 卓球室	徒歩約10分
女子寮	京都市左京区 田中関田町	35名	本学女子 学部学生	木造モルタル 塗2階建 (2棟)	洋式13m216室 (2人制) 洋式9m23室 (1人制)	静養室・応接 室・裁縫室・自 炊室・浴室・談 話室・委員会 室・図書室	徒歩約7分
室町寮	京都市上京区 室町通鞍馬口 下ル竹園町	19名	本学女子 学部学生	木造2階建 (1棟)	和式8畳1室 和式6畳6室 和式4畳12室 (いずれも1人 制)	談話室・自炊 室	市バス約20 分

※諸経費

寄宿料月額、吉田寮・女子寮・室町寮400円、熊野寮700円。

この他、光熱水料として平均月額3,000円程度の納付が必要で、各寮によって異なっている。

3. 保 健

1) 保健管理センター

保健管理センターは、学校教育法、結核予防法、学校保健法並びに京都大学学生健康診断規程などに基づいて、学生及び教職員に対して、定期並びに臨時健康診断を実施している。

2) 保健診療所

保健診療所では、学生及び教職員の傷病診療と健康相談・精神衛生相談を行って

いる。

3) 学生健康保険組合 (厚生課厚生企画掛)

昭和25年 (1950) に設立された健康保険組合制度は、学生の健康向上とけがをしたり、病気にかかったときの経済的援助を目的としている。組合費は、1年500円で4年分2,000円 (医学部学生は6年分3,000円) を入学時に一括して納入することが原則である。この保険は、けが・病気などのため、京大病院、胸部疾患研究所病院及び京大保健診療所に支払った治療費に対して、補助しており、掛金が安い割には払い戻し率が高い。

4) 学生教育研究災害傷害保険 (厚生課厚生企画掛)

災害傷害保険制度は、(財)内外学生センターが行っている事業で、学生が正課の授業中、本学行事中、本学施設内における休憩中、課外活動中、通学中及び学校施設等相互間の移動中などにおいて、不慮の災害・事故などにより身体に傷害を被った場合の救済措置として設けられたものである。保険は掛金が安い割に補償額が高く、平成8年度入学者では65.2%が加入している。

ア 保険料と保険期間

保険料区分 \ 保険期間	1年間	2年間	3年間	4年間	5年間	6年間
文科系学部	950円	1,700円	2,500円	3,200円		
理工系学部	1,200円	2,100円	3,050円	3,900円		5,400円
文科系大学院	950円	1,700円	2,500円		3,900円	
理工系大学院	1,200円	2,100円	3,050円	3,900円		

(保険期間は、所定の修業年限にあわせてます)

- 注) 文科系学部→総人(文系)、文、教育、法、経済の各学部
 理工系学部→総人(理系)、理、医、薬、工、農の各学部
 文科系大学院→文、教育、法、経済、人環(文系)の各大学院
 理工系大学院→理、医、薬、工、農、人環(理系)、エネ科の各大学院

イ 保険金の種類と金額

担保範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金
正課中、学校行事中	2,000万円	90万円 [㊦] 3,000万円	治療日数4日以上が 対象 6千円～30万円	1日につき 4,000円
上記以外で学校施設内にいる間	1,000万円	45万円～ 1,500万円	治療日数14日以上が 対象 3万円～30万円	1日につき 4,000円
学校施設外で大学に届け出た課外活動中	1,000万円	45万円～ 1,500万円	治療日数14日以上が 対象 3万円～30万円	1日につき 4,000円
通学中、施設間移動中	1,000万円	45万円～ 1,500万円	治療日数14日以上が 対象 3万円～30万円	1日につき 4,000円

4. 就 職 (厚生課専門職員)

就職担当専門職員においては、主として学生の就職に関する情報の収集・提供及び調査・統計などの事務を行っている。

近年の調査結果では、卒業後の大学院への進学者が漸増の傾向にある。また、就職の動向としては、職業別では事務系への就職者のポイントが増加し、技術者等への就職者のポイントが減少している。業種別では官公庁、サービス業、金融保険業、その他への就職者のポイントが増加し、製造業、運輸通信電気ガス水道業等への就職者のポイントが減少している。

なお、平成8年度の卒業後の状況等は次表のとおりである。

卒業後の状況

平成9年3月卒業者(平成9年5月現在)

進 学	就 職	聴講生・研修員 非常勤職など	臨床医・その他	計
50.6%	38.1%	7.5%	3.8%	100%

就職者職業別分類

技術者	教 員	医療系技術者	事務系	その他	計
27.7%	1.5%	0.3%	67.4%	3.1%	100%

就職先業種別分類

官公庁	農 林 産 水 産 建設業	製造業	卸小売	金 融 保険業	運輸通 信電気 ガス 水道業	サービ ス 業	その他	計
15.6%	5.0%	29.2%	5.0%	19.7%	9.7%	13.1%	2.7%	100%

5. 福利厚生施設（厚生課専門職員）

福利厚生施設としては、次表の施設があり、その大部分を京大大学生活協同組合（略称「生協」昭和24年5月設立）に、委託している。

構内別	施設名	主な事業内容
本部	組合員センター (生協本部)	生協加入 学生総合共済加入・給付 クリーニング
	中央購買部 (時計台建物地階)	文具 食品 日用品 医薬品 コピー 衣料品 スポーツ用品 DPE メガネ 時計
	コープ旅行センター (時計台建物地階)	国内旅行 海外旅行 チケット 自動車教習所 各種レンタル 映画・コンサートチケット その他
	中央食堂 (工学部8号館地階)	朝・昼・夕食 パン ドリンク テイクアウト弁当
総合人間学部	吉田ショップ (購買部・書籍部)	文具 食品 日用品 コピー 自動車教習所 教科書 雑誌 文庫・新書
	吉田食堂フォント(1F)	昼食 ドリンク コンパ
	吉田食堂リンデ(2F)	昼食 軽食 ドリンク
西部	西部会館1階 ショップ「ルネ」	専門書 洋書 一般本 教科書 雑誌 文庫・新書 CDソフト パソコン・ワープロ 家電製品 自転車 バイク 自動車教習所 その他
	西部会館2階 カフェテリア「ルネ」	昼・夕食 パン ドリンク
北部	北部購買部	文具 食品 日用品 パソコン・ワープロ 雑誌
	北部食堂	朝・昼・夕食
	喫茶「ほくと」	昼食 ドリンク
南部	南部購買部・書籍部	文具 食品 日用品 パソコン・ワープロ 医学書 薬学書 教科書
	南部食堂	昼・夕食
	喫茶「ブリュッケ」	昼食 ドリンク
宇治	宇治購買・書籍部	文具 食品 日用品 パソコン・ワープロ 書籍 雑誌
	宇治食堂	昼食
	喫茶「ピアチ」	昼・夕食



6. 課外活動 (学生課教養掛・専門職員)

学生が自主的に取組む課外活動は、先輩・後輩の深い絆を育み、その中で自己の生き方を求め、自己の存在を確かめる場でもあり、人間形成の上で意義あるものである。

サークルには、文化系と体育系の団体があり、本学創立まもなく誕生したものから最近結成されたものまで、全学公認団体として約200の団体があり、学生の約35%が参加している。

さまざまなグループが参加して開かれる大学祭(11月祭)は、多数の学生諸君の自主的活動の研究成果発表の場として、講演会、展示会、音楽会、演劇会、体育祭、前夜祭、仮装行列など総合した催しがあり、大学生活で抱く問題意識を追求し、これを通じて社会と学問研究を結び付けようと毎年(11月下旬)行われている。

(1) 学生団体 (平成9年5月現在)

a) 文化・研究団体 99団体

音楽部交響楽団	軽音楽部	音楽研究会	合唱団
グリークラブ	ギタークラブ	マンドリンオーケストラ	吹奏楽団
リコーダー同好会	E.M.B.G.	こんべいとう	軽音サークル・ZETS
吉田音楽製作所	山城組	民族舞踊研究会	ALL京大舞踏研究会
アマチュアダンスクラブ	劇団ケッペキ	劇団「遊劇体」	劇団ペーバームーンシアター
映画部	映画文化研究会	シネマ研究会	雪だるまプロ
漫画研究部	アニメーション同好会	美術部	美術研究会
陶芸部	広告研究会	写真部	書道部
能楽部観世会	能楽部宝生会	能楽部金剛会	能楽部狂言会
歌舞伎研究会	叡風会	千鳥会	心茶会
落語研究会	囲碁部	将棋部	チェスクラブ
クイズ研究会	ロールプレイングゲーム研究会	奇術研究会	S F 研究会
ふしぎ研究会	エマオ研究会	聖書研究会	キリスト者学生会
基督教共助会	L.H. 陽光研究会	平和哲学研究会	古典に学ぶ会
原理研究会	唯物論研究会	京大に在籍する在日韓国・朝鮮人学生の集い	韓国文化研究会
アフリカ研究会	京都ムスリム協会	歴史研究会	地理同好会
鉄道研究会	クツドサマリタンクラブ	バス研究会	天文同好会
粹な科学の会	生物科学の会	ころぼっくる	野生生物研究会
科学論研究会	野草を食べる会	都市公害問題研究会	社会科学研究会

E. S. S.	環境ネットワーク4Rの会	エスペラント語研究会	点 訳 サ ー ク ル
放送局・KUBS	平和委員会	現代社会研究会	アムネスティックラブ
人権研究センター	アジア連帯!学生キャンペーン	刑事法研究会	I. S. A.
ユネスコ学生クラブ	ユニセフクラブ	アイセック	さいもんめ
どんぐりグループ	探 検 部	西部講堂連絡協議会	文化サークル連合会
11月祭全学実行委員会	京都大学新聞社	京大学生新聞会	

b) 体育団体

体育団体には「体育会」所属の団体と体育会に所属していない団体があります。

体育会は学生スポーツの振興とその発展向上に努めるとともに、体育会所属の各運動部の統括、部活動の援助、体育行事の開催、レクリエーション施設の運営、一般学生に対する運動用具の貸し出しなどの事業を行っています。

ア) 体育会所属の運動部 47団体

硬式野球部	準硬式野球部	硬式庭球部	ソフトテニス部
卓球部	バスケットボール部	バレーボール部	ハンドボール部
水泳部	ラグビー部	アメリカンフットボール部	バドミントン部
フィールドホッケー部	サッカー部	陸上競技部	ボクシング部
空手道部	剣道部	アイスホッケー部	スキー競技部
相撲部	弓道部	少林寺拳法部	合気道部
ヨット部	ボート部	ゴルフ部	カヌー部
山岳部	馬術部	ソフトボール部	体操部
フェンシング部	ライフル射撃部	柔道部	自動車部
自転車競技部	グライダー部	バーベル部	アーチェリー部
スピードスケート部	居合道部	サイクリング部	ボウリング部
ウインドサーフィン部	フィギュアスケート部	ウェイトリフティング部	

イ) 体育会に所属していない体育系サークル 40団体

旅愛好会	京都を歩く会	青い鳥	散策の会
オリエンテーリングクラブ	ワンダーフォーゲル部	神陵ヨットクラブ	硬式庭球同好会
硬式庭球同好会・フリーク	フリームショットテニスクラブ	硬式庭球同好会・KIDDY・KIDS	軟式庭球同好会
総合格闘サークル KUIWF	スキー同好会・スノーバンサー	基礎スキークラブ・ラスカル	青城サッカークラブ
ラクロス部	ラグビー同好会・DBW	ラグビー愛好会・CROSS BREED	飛翔会
持久走同好会	メイプルバスケットボール同好会	バスケットボールサークル・フリークラブ	バレーボールサークル・JUSTICE
剣道同好会・指薪会	天之武産合気会	空手同好会	東洋拳法燃える男会
太極拳同好会	圓和道部	軟式野球同好会・ウッドストック	軟式野球サークル・スラッガーズ
ソフトボール同好会	卓球同好会	バドミントン同好会	アルバトロスゴルフ同好会
・プレッシャーズ		・レモンスカッシュ	



c) その他の団体 4 団体

京都大学院生協議会, 生活協同組合組織部学生委員会, 応援団, 卒業者名簿
編纂委員会

(2) 課外活動施設

a) 部 室

西部構内58室, 北部構内10室, 南部構内16室, 総合人間学部構内5室, 学生
集会所12室, その他4室

b) 課外体育施設

ア 北部構内

《グラウンド》 ラグビー, フィールドホッケー, サッカー, ハンドボール,
アメリカンフットボール, 陸上競技, エアーライフル射撃,
ゴルフ, ウェイトリフティング
(夜間練習のために照明灯が設置されている)

《トイレ・シャワー棟》

《北白川スポーツ会館》学生合宿所(鉄筋2階建, 収容人員90名)

《馬 場》厩舎, 管理棟

イ 総合人間学部構内

《グラウンド》硬式野球, 準硬式野球, ソフトボール

《軟式テニスコート》クレイコート7面

ウ 西部構内

《総合体育館》 ハンドボール, バasketボール, バレーボール, バドミ
ントン, 卓球, 体操, 柔道, 居合道, 剣道, 空手道, 合気
道, 少林寺拳法, ボクシング, フェンシング, バーベル及
び各種トレーニング

《総合体育館付設プール》50メートル， 8コース（日本水泳連盟公認）

エ 京都織物跡

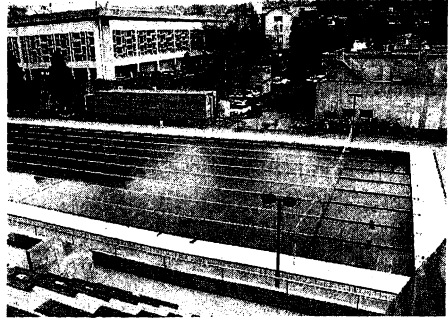
《バレーコート》クレイコート2
面

《弓道場》

《アーチェリー場》

《相撲場》

《硬式テニスコート》クレイコー
ト6面



オ 宇治総合グラウンド（宇治市五ヶ庄三番割）

《各種競技場》ラグビー場

《陸上競技場》サッカー場共用

（夜間練習のために照明灯が設置されている）

《宇治学生合宿所》木造2階建3室， 収容人員33名

カ その他

ボート部合宿所・艇庫（大津市蛸谷）， 瀬田（カヌー）艇庫（大津市瀬田），
ヨット艇庫（大津市鏡ヶ浜）， 元田中スポーツ会館（京都市左京区田中大久保）

c) 学外の施設

ア 白浜海の家〔和歌山県西牟婁郡白浜町（理学部附属瀬戸臨海実験所構内）〕
木造平屋建， 収容人員30名

イ 白馬山の家（長野県北安曇郡小谷村大字千国字柳久保）
中部山岳国立公園白馬山麓に位置し， 木造2階建， 収容人員26名

ウ 笹ヶ峰ヒュッテ（新潟県中頸城郡妙高高原町杉ノ沢村笹ヶ峰）
新潟県の広大な牧場地にあって， 木造2階建， 収容人員20名

エ 志賀高原ヒュッテ（長野県下高井郡山の内町丸池）
木造3階建， 収容人員約39名

7. 自治会

全学自治団体として同学会がある。

同学会は， 会員の自治により， 学問の自由， 学園の自治， 民主主義を守りつつ， 会員の文化体育活動の育成と社会経済的諸条件の改善などを通じて， 学生生活全般の発展向上を図ることを目的としている。

8. 課外教養行事

a) 音楽会

大学の創立記念行事として、毎年6月中旬に著名な音楽家を招き音楽会を催している。

b) 能楽鑑賞会

毎年12月上旬に京都観世会館において、京都能楽会の能楽師等による能及び狂言の鑑賞会を催している。

9. 留学生（留学生課）（6章 学生交流を参照）

外国人留学生にかかわる受入れ及び生活全般に関する業務を担当している。

業務内容は、新人留学生に対するオリエンテーション、国費留学生の奨学金の支給、各種団体の奨学金等に関する業務、宿舍のあっせん、傷病の際の医療費補助、見学旅行の実施、外国人留学生に係わる地域との交流事業に関する業務、外国人留学生に対する日本語補講等の実施に関する業務、私費外国人留学生統一試験等の実施に関する業務、各種パーティ（新人生歓迎パーティ等）の実施、などである。



10. 個人相談

1) 学生懇話室

学生懇話室は昭和31年（1956）に設置された。その目的は、大学の大量化が進行する中で、新制大学の理念を支える厚生補導の一環としての、全人教育的な修学適応指導—学生相談—に当たることであった。

以後、今日まで学生懇話室は、(1)個人ガイダンス、個人カウンセリング、ケース・ワーク、心理テスト等による助言・指導、(2)修学・進路等に関するオリエン

テーション、(3)グループ体験合宿等集団的技法による指導、(4)様々な問題で特に危機的状況にある者の早期発見とその予防、(5)カウンセリング理論とその実践に関する調査・研究等を主業務とするカウンセリング・センターとしての機能を果たしてきており、その活動状況は、「京都大学学生懇話室紀要」として毎年報告されている。平成7年度、学生の利用状況は、来談実人員が533名、延面接回数3,442回、実人員の54%、延面接回数の20%が教育相談、また実人員の38%、延べの74%が心理相談であった。学生懇話室は京都大学学生懇話委員会－各学部選出教官、精神医学、保健医学、心理学等の学生相談に関係する専門領域の教官、学生部関係職員、学生懇話室カウンセラーを委員として構成、現在26名－によって運営されている。

学生懇話室スタッフ

室長 教授 齋藤久美子
 カウンセラー 助教授 青木健次 非常勤講師 桑原知子
 講師 菅野信夫 千原雅代
 〃 杉原保史

開室日時は、土曜・日曜・祝日を除き午前9時より午後5時までである。

2) 身体障害学生相談室 (人試課教務掛)

この相談室は、身体に障害を有し、修学上様々な悩みや相談ごとをかかえる学生の相談に応じており、相談室に各学部などから選出された教官により、管理運営委員会が組織されている。

視覚、聴覚、肢体に障害、病弱などの理由で修学上あるいは学生生活を送る上で、支障を感じたり、進路上の相談などについては、各学部の相談室の委員がこれに対応している。





▲入学試験



▲合格発表風景



▲入学式



▲紅萌祭



▲授業風景（共通科目）



▲授業風景（理・数学）



▲授業風景 (LL授業)



▲実習風景 (理・地学)



▲実習風景 (医療技術短期大学部)



◀ 授業風景（留学生）



◀ 授業風景（ゼミ）



▲ 書籍購買部



▲食堂



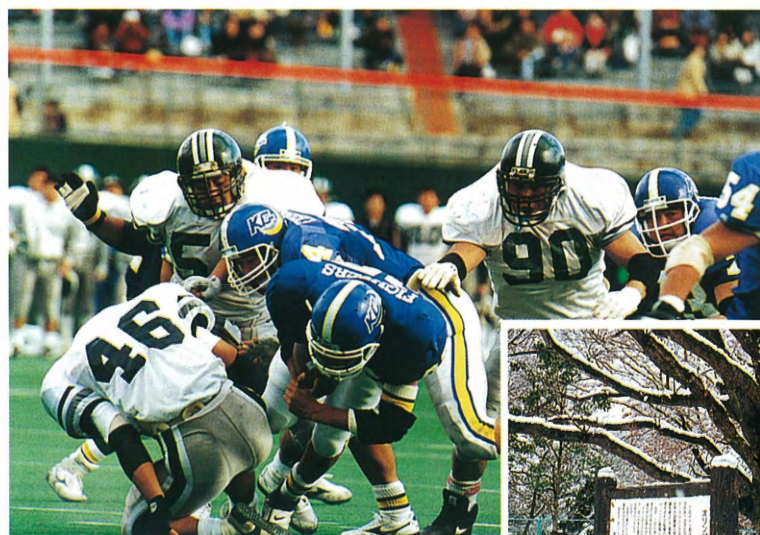
◀課外活動（馬術部）



▲課外活動（ボート部）



◀ 課外活動（剣道部）



▲ 課外活動（アメリカンフットボール部）

オリンピックオーク▶





▲11月祭前夜祭



11月祭(総合人間学部構内)▶



▲11月祭(本部構内)



▲卒業式

附 表

1. 歴代総長

		氏 名	就 任	退官・転任
初 代	法 博	木 下 廣 次	明治30. 6. 28	明治40. 7. 1
	理 博	久 原 躬 弦(事務取扱)	40. 7. 1	40. 10. 16
第2代		岡 田 良 平	40. 10. 16	41. 7. 21
		岡 田 良 平(兼任)*	41. 7. 21	41. 9. 2
第3代	理 博	菊 池 大 麓	41. 9. 2	45. 5. 8
	理 博	久 原 躬 弦(事務取扱)	45. 5. 8	45. 5. 13
第4代	理 博	久 原 躬 弦	45. 5. 13	大正2. 5. 9
第5代		澤 柳 政太郎	大正2. 5. 9	3. 4. 28
	医 博	荒 木 寅三郎(事務取扱)	3. 4. 28	3. 8. 19
第6代	理 博	山 川 健次郎(兼任)**	3. 8. 19	4. 6. 15
第7代	医 理	荒 木 寅三郎	4. 6. 15	昭和4. 3. 22
第8代	理 博	新 城 新 藏	昭和4. 3. 22	8. 3. 22
第9代	文 博	小 西 重 直	8. 3. 22	8. 6. 30
	法 博	山 本 美越乃(事務取扱)	8. 6. 30	8. 7. 7
第10代	理 博	松 井 元 興	8. 7. 7	12. 6. 30
第11代	文 博	濱 田 耕 作	12. 6. 30	13. 7. 25
	工 博	平 野 正 雄(事務取扱)	13. 7. 25	13. 11. 25
第12代	文 博	羽 田 亨	13. 11. 25	20. 11. 1
第13代	工 博	鳥 養 利三郎	20. 11. 1	26. 11. 1
第14代	医 博	服 部 峻治郎	26. 11. 1	28. 12. 11
第15代	法 博	瀧 川 幸 辰	28. 12. 11	32. 12. 16
第16代	医 博	平 澤 興	32. 12. 16	38. 12. 15
第17代	農 博	奥 田 東	38. 12. 16	44. 12. 15
第18代	工 博	前 田 敏 男	44. 12. 16	48. 12. 15
第19代	医 博	岡 本 道 雄	48. 12. 16	54. 12. 15
第20代	農 博	沢 田 敏 男	54. 12. 16	60. 12. 15
第21代	工 博	西 島 安 則	60. 12. 16	平成3. 12. 15
第22代	医 博	井 村 裕 夫	平成3. 12. 16	

*文部次官を兼任, **東大総長を兼任

2. 職員数

(平成9年5月1日現在)

区 分	総 長	教 授	助教授	講 師	助 手	その他の職員	計
総 長	1						1
事 務 局					8	304	312
学 生 部						50	50
附 属 図 書 館						38	38
総 合 人 間 学 部		70	55		20	70	215
文 学 研 究 科 ・ 文 学 部		54	23	1	11	26	115
教 育 学 部		13	12		7	12	44
法 学 研 究 科 ・ 法 学 部		35	10	1	13	30	89
経 済 学 研 究 科 ・ 経 済 学 部		24	13	2	2	18	59
理 学 研 究 科 ・ 理 学 部		74	72	14	123	102	385
医 学 研 究 科 ・ 医 学 部		41	44	53	51	55	244
医 学 部 附 属 病 院		4	7	8	139	889	1,047
薬 学 研 究 科 ・ 薬 学 部		14	14		19	17	64
工 学 研 究 科 ・ 工 学 部		157	140	21	211	245	774
農 学 研 究 科 ・ 農 学 部		71	60	14	91	91	327
農 学 部 附 属 農 場		1	1		5	25	32
農 学 部 附 属 演 習 林		2	2	2	4	61	71
人 間 ・ 環 境 学 研 究 科		34	20		9		63
エ ネ ル ギ ー 科 学 研 究 科		21	22	1	12	3	59
化 学 研 究 所		26	24		46	49	145
人 文 科 学 研 究 所		17	17		19	16	69
胸 部 疾 患 研 究 所		6	10	5	16	115	152
エ ネ ル ギ ー 理 工 学 研 究 所		11	9	1	15	23	59
木 質 科 学 研 究 所		8	8	1	9	7	33
食 糧 科 学 研 究 所		8	8		12	9	37
防 災 研 究 所		33	32		38	50	153
基 礎 物 理 学 研 究 所		8	8		4	13	33
ウ イ ル ス 研 究 所		10	10		23	18	61
経 済 研 究 所		10	9	1		12	32
数 理 解 析 研 究 所		12	11	1	11	25	60
原 子 如 実 験 所		19	14	3	41	70	147
壺 長 類 研 究 所		10	12		15	24	61
東 南 ア ジ ア 研 究 セ ン タ ー		12	8		7	8	35
大 型 計 算 機 セ ン タ ー		1	1		3	35	40
放 射 線 生 物 研 究 セ ン タ ー		3	2		2	2	9
超 高 周 電 波 研 究 セ ン タ ー		4	3		5	6	18
生 態 学 研 究 セ ン タ ー		8	6		2	6	22
放 射 性 同 位 元 素 総 合 セ ン タ ー		1	1		5	4	11
環 境 保 全 セ ン タ ー		1	1		1	4	7
遺 伝 子 実 験 施 設		1			2	1	4
生 体 医 療 工 学 研 究 セ ン タ ー		6	6		1	2	15
留 学 生 セ ン タ ー		3	4				7
高 等 教 育 教 授 シ ス テ ム 開 発 セ ン タ ー		2	1		2		5
総 合 博 物 館		3	3		3	4	13
総 合 情 報 メ デ ィ ア セ ン タ ー		2	2	1	3	6	14
保 健 管 理 セ ン タ ー		1	2	2		2	7
体 育 指 導 セ ン タ ー			2				2
計	1	841	709	132	1,010	2,547	5,240
医 療 技 術 短 期 大 学 部		18	15	5	14	12	64
合 計	1	859	724	137	1,024	2,559	5,304

3. 学生数等

学 部

(平成9年5月1日現在)

区 分	学 生	科目等履修生	聴 講 生	計
総合人間学部	614	9	10	633
文 学 部	966	23	58	1,047
教 育 学 部	298	5	29	332
法 学 部	2,310	1	10	2,321
経 済 学 部	1,126	2	5	1,133
理 学 部	1,462	3	17	1,482
医 学 部	638			638
薬 学 部	363			363
工 学 部	4,539	2	8	4,549
農 学 部	1,337	1	2	1,340
計	13,653	46	139	13,838

大 学 院

(平成9年5月1日現在)

区 分	修士課程	博士後期課程	科目等履修生	聴講生	計
文学研究科	266	205		22	493
教育学研究科	79	58			137
法学研究科	153	76		4	233
経済学研究科	155	135			290
理学研究科	599	597	1	2	1,199
医学研究科	—	612			612
薬学研究科	142	62			204
工学研究科	1,521	488		2	2,011
農学研究科	528	365			893
人間・環境学研究科	304	258			562
	—	15			15
エネルギー科学研究科	217	38		1	256
計	3,964	2,909	1	31	6,905

(注) 医学研究科は、博士課程である。

人間・環境学研究科の下段は、一貫制博士課程である。

研究生等

(平成9年4月1日現在)

医療技術短期大学部 (平成9年5月1日現在)

研 究 生	(173) 472	看護学科	245	作業療法学科	71
日本学術振興会特別研究員(PD)	135	衛生技術学科	123	専攻科 助産学特別専攻	22
研 修 員	256	理学療法学科	63	計	524

(注) 上段()書は外国人留学生を表し、内数である。

4. 入学状況 (平成9年度)

学 部

区 分	募集人員	(一般) 入学者	外国学校出身者 の入学申込者による入学者	外国人 留学生	第3学年 編入学者	再入学者	計
総合人間学部	130	130		1	1		132
文学部	220	224			3		227
教育学部	60	63			6		69
法学部	400	390	16	2	13		421
経済学部	240	234	10	12	13		269
理学部	326	326					326
医学部	100	103					103
薬学部	80	84					84
工学部	1,050	1,050		14	8		1,072
農学部	315	321		1		1	323
計	2,921	2,925	26	30	44	1	3,026

大学院

区 分	修士課程			博士(後期)課程				計
	入学者	外国人 留学生	計	進学者 (入学者)	編入学者	外国人 留学生	再入学者 (転入学者)	
文学研究科	112	3	115	52	6	3		61
教育学研究科	36	2	38	21	1	2		24
法学研究科	52	4	56	18	1	7	2	28
経済学研究科	53	26	79	24	8	9		41
理学研究科	286	5	291	145	20	10	1	176
医学研究科	—	—	—	148	—	16		164
薬学研究科	73	4	77	17	2	1		20
工学研究科	707	32	739	85	37	26		148
農学研究科	255	11	266	74	12	17		103
人間・環境学研究科	130	8	138	59	11	9		79
				7				7
エネルギー科学研究科	108	2	110	4	10	4		18
計	1,812	97	1,909	654	108	104	3	869

(注) 人間・環境学研究科の下段は、一貫制博士課程である。

医療技術短期大学部

区 分	募集人員	合格者数	入学者数
看護学科	80	96	79
衛生技術学科	40	61	40
理学療法学科	20	27	20
作業療法学科	20	27	20
助産学特別専攻	20	20	20
計	180	231	179

5. 平成9年度入学試験諸統計

1) 募集人員、志願者数、合格者数、入学者数、合格者最高点・最低点(総点)等調

学部・日程	募集人員	志願者数	第1段階 選 抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満 点	総 点		
								最高点	最低点	
総合 人間学部	前期 文系	55	274	269	267	55	130	800	571.25	483.58
	前期 理系	55	269	261	256	56		800	597.25	467
	後期	20	420	327	198	20		800	674.33	559.66
文学部	前期	190	651	651	646	193	224	700	523.41	429.33
	後期	30	467	301	138	31		700	576.25	503.25
教育学部	前期	40	194	192	189	43	63	800	581.58	516.41
	後期	20	159	159	120	20		900	673.91	598.91
法学部	前期	340	982	981	963	345	390	750	576.75	466.75
	後期	40	624	500	236	46		500	415.25	377.25
経済学部	前期 般	160	548	518	509	163	234	800	587.5	486.75
	前期 論文	50	311	250	247	50		1,050	705.75	532.25
	後期	20	466	382	210	27		950	645.45	553.85
理学部	前期	294	1,035	1,013	994	294	326	650	554	344
	後期	32	1,453	1,135	754	32		400	305	248
医学部	前期	90	459	457	442	93	103	1,250	1,111	885.5
	後期	10	308	174	96	11		1,400	1,168.5	1,093.25
薬学部	前期	70	190	190	183	73	84	950	692.75	565.83
	後期	10	156	154	74	11		950	687.08	616.2
工学部	前期	940	2,470	2,462	2,446	941	1,050	1,000	848.33	588.33
	後期	110	1,415	1,409	738	113		1,100	891	738.75
農学部	前期	252	764	762	753	259	321	1,050	740.08	600.33
	後期	63	829	828	517	63		810	610.13	502.2
小 計	前期	2,536	8,117	8,006	7,895	2,565				
	後期	355	5,997	5,369	3,081	374				
合 計	2,891	14,114	13,375	10,976	2,939	2,925				

- (備考) 1) 合格者数には追加合格者を含む。
 2) 前期は3月8日、後期は3月22日の合格発表時のものである。
 3) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。
 4) 合格者最低点について、同点者複数の場合には、学内選考規定により優先順位を付し合格者を決定する
 従って、同一得点であっても合否の異なる場合がある。

[外国学校出身者のための選考の実施結果(外数)]

学 部	募集人員	志願者数	第1次選考 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法 学 部	20人以内	60人	43人	30人	16人	16人
経 済 学 部	10人以内	25	18	15	10	10

〔工学部・農学部学科別内訳〕

学部・学科・日程	募集人員	志願者数	第1段階 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満 点	総 点		
								最高点	最低点	
工 学 部	前期	940	2,470	2,462	2,446	941	1,050	1,000	848.33	588.33
	後期	110	1,415	1,409	738	113		1,100	891	738.75
地球工学科	前期	188	569	566	1,000	188	210	1,050	759.5	597.83
	後期	22	342	340		22			890.75	756.5
建築学科	前期	85	193	192		85	95		788.83	616.25
	後期	40	112	112		40			827.25	738.75
物理工学科	前期	232	587	586		232	260		848.33	629.83
	後期	28	370	368		29			864.25	777.5
工 学 科	前期	126	332	331		126	140		831.16	623.75
	後期	14	172	172		14			833	755.5
情報学科	前期	90	217	216		90	101		806.91	628.08
	後期	11	136	135		11			891	750.5
工業化学科	前期	219	572	571		220	244		775.66	588.33
	後期	25	283	282		27			858.75	739
農学部	前期	252	764	762	753	259	321	1,050	740.08	600.33
	後期	63	829	828	517	63		810	610.13	502.2
生物生産科学科	104	(合格者数) 106 (前期 85名 後期 21名)				105	1,050	740.08	600.33	
生物機能科学科	125	128 (前期103名 後期 25名)				128				
生物環境科学科	86	88 (前期 71名 後期 17名)				88				

6. 卒業者・修了者数等

学部卒業者数

区 分	平成8年度	累 計
総合人間学部	89	89
文 学 部	223	13,003
教 育 学 部	83	2,259
法 学 部	435	29,767
経 済 学 部	268	18,056
理 学 部	290	13,015
医 学 部	89	10,552
薬 学 部	90	2,708
工 学 部	1,056	43,141
農 学 部	336	13,899
計	2,959	146,489
田 制		
附属医学専門部	—	804
理工科大学	—	944
合 計	2,959	148,237

大学院修了者数

区 分	修 士 課 程		博士課程
	平成8年度	累 計	平成8年度 現在者累 計
文学研究科	88	3,015	86
教育学研究科	28	688	14
法学研究科	63	767	18
経済学研究科	54	663	52
理学研究科	252	5,281	1,857
医学研究科	—	—	1,905
薬学研究科	60	1,245	399
工学研究科	741	18,602	1,641
農学研究科	208	4,404	938
人間・環境学研究科	104	398	20
計	1,598	35,063	6,930

博士学位授与者数

区 分	文学博士	教育博士	法学博士	経済博士	理学博士	医学博士	薬学博士	工学博士	農学博士	人間・環 境学博士	計
	田 制										
大正9年6月以前の 学位令によるもの	(*16) 29		(*28) 32		(*9) 21	(*14) 183		(*28) 42			(*95) 307
大正9年7月以後の 学位令によるもの	272		94	80	1,052	5,559	308	1,338	641		9,344
新 制											
大学院博士課程修了者	86	14	18	52	1,857	1,905	399	1,641	938	20	6,930
論文提出によるもの	328	72	110	208	1,321	1,616	566	3,245	2,144	1	9,611
計	(*16) 715	86	(*28) 254	340	(*9) 4,251	(*14) 9,263	1,273	(*28) 6,266	3,723	21	(*95) 26,192

(注) 上段(*)書は推薦によるもので、内数である。

医療技術短期大学部卒業者・修了者数

区 分	平成8年度	累 計
卒 業 者 数	153	2,603
修 了 者 数	18	419

7. 学術交流協定締結大学等

大学間交流

(平成9年5月1日現在) 部局間交流

地域	国 名	大 学 名	締結年月日	
アジア州	中華人民共和国	西 北 大 学	1980.5.31	
		武 漢 大 学	1980.10.15	
		北 京 大 学	1983.4.1	
	大 韓 民 国	慶 北 大 学 校	1984.6.5	
		ソウル大 学 校	1991.5.21	
(3)	タイ王国	カセサート大学	1984.2.28	
大洋州	オーストラリア	クイーンズランド大学	1981.12.22	
	ニュージーランド	オークランド大学	1997.4.10	
	オーストリア共和国	ウイーン大学	1993.10.12	
	チェコ共和国	カレル大学	1990.6.5	
ヨーロッパ	フランス共和国	パリ第7大学	1979.11.2	
		ストラスブール第一第二大学 (ストラスブール第一大学) (1991.1.23)	1996.1.23	
	ドイツ連邦共和国	ベルリン自由大学	1984.10.30	
ミュンヘン大学		1980.9.1		
ボン 大 学		1990.6.27		
ハイデルベルク大学		1990.10.11		
パシフィック	イタリア共和国	シエナ大学	1989.11.22	
		ボローニャ大学	1995.4.25	
	オランダ王国	ライデン大学	1997.3.6	
	スウェーデン王国	ウプサラ大学	1997.2.18	
	(9)	スイス連邦	スイス連邦工科大学	1989.12.18
サセックス大学			1989.10.5	
オックスフォード大学			1991.12.7	
ロシア連邦	モスクワ大学	1987.10.26		
北アメリカ州	カナダ	トロント大学	1991.9.16	
		ケベック州大学学長 校長協議会 (18大学・研究所)	1994.3.17	
	メキシコ合衆国	グアダラハラ大学	1983.5.10	
		ウエイン州立大学	1985.10.7	
		スタンフォード大学	1989.11.10	
		アメリカ合衆国	カリフォルニア大学	1990.3.29
			ポリテクニク大学	1990.4.28
(3)	ブラウン大学	1992.4.14		
計 (18か国)		30大学 2大学群		

(平成9年5月1日現在)	
部 局 名	協 定 締 結 数
文 学 部	2
教 育 学 部	2
法 学 部	1
経 済 学 部	8
理 学 部	2
医 学 部	5
薬 学 部	2
工 学 部	185
農 学 部	8
人 間 ・ 環 境 科	12
化 学 研 究 所	12
人 文 科 学 研 究 所	1
胸 部 疾 患 研 究 所	1
エ ン ー ル ー ジ ー 工 学 研 究 所	6
木 質 科 学 研 究 所	1
防 災 研 究 所	9
基 礎 物 理 学 研 究 所	1
経 済 研 究 所	1
数 理 解 析 研 究 所	1
原 子 如 実 験 所	8
霊 長 類 研 究 所	2
東 南 ア ジ ア 研 究 セ ン タ ー	1
生 体 医 療 工 学 研 究 セ ン タ ー	1
生 態 学 研 究 セ ン タ ー	2
計	274

8. 主な公開講座の開催状況

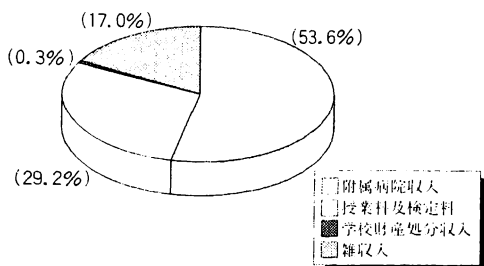
(平成9年度)

部 局 等	講座名等	テ ー マ 等	時 期	受講対象者	募集人員
京 都 大 学	市民講座	共通テーマ 「日本の国土と文化」	10月18日、25日、 11月8日	一般市民	400
	(春) 春秋講義	(月曜講義) 生命を考える	5月～6月の月曜日	一般市民	150
		(水曜講義) 「21世紀日本の難問 －閉塞の日本と勃興 のアジア」など	5月～6月の水曜日	一般市民	150
	(秋)	(月曜講義) 国際社会と日本	10月～11月の月曜日	一般市民	150
		(水曜講義) 「東南アジア経済と 日本」など	10月～11月の水曜日	一般市民	150
総合人間学部	公開講座	国際化・国際交流・ 比較文化	9月1日～3日	一般市民	120
理 学 部	公開講座	現代数学展望	7月28日～8月1日	現代数学に興味のある高 中生以上の方	50
工 学 部	公開講座	新素材－未来をひら く新しい工業材料－	6月7日～6月21日 の3回の土曜日	一般市民	160
農 学 部	公開講座	農林経済・経営・簿 記講習会	7月19日～7月23日	農業改良普及 員・営農指導 員・農業指導 関係者	40
農学部附属 演 習 林	公開講座	森のしくみと働き －芦生演習林への招 待－	8月21日～8月23日	一般市民	50
防災研究所	公開講座	“災害の予防と予測” －その現状と将来の 展望－	8月12日	一般市民	250
人文科学研究所	夏期公開講座	メイド・イン・ジャ パンの重細重	7月4日～7月5日	一般市民	100
数 理 解 析 研 究 所	公開講座	数学入門	8月4日～8月8日	一般市民(数 学的教養を有 する者)	120
霊長類研究所	公開講座	霊長類の進化	8月21日～8月22日	一般市民	70
総 合 博 物 館	(春) 公開講座	博物学の展望 －21世紀へ向けて－	5月10日～5月31日 の4回の土曜日	一般市民	60
		野外調査と博物館 －フィールドから考える－	11月22日～12月13日 の4回の土曜日	一般市民	60
	(秋)				
総合情報 ディアセンター	公開講座	教育とコンピュータ	8月25日～8月27日	京都市内中学 教員	60
療 技 術 期 大 学 部	公開講座	～豊かな生活とコミ ュニケーション～	7月5日～7月26日 の4回の土曜日	一般市民	70

9. 歳入及び歳出等

歳入
国立学校特別会計

(平成8年度)

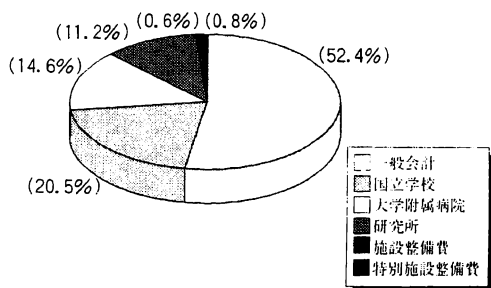


(単位:円)

歳入	
国立学校特別会計	
附属病院収入	17,790,375,829
授業料及検定料	9,688,793,300
学校財産処分収入	90,593,940
雑収入	5,629,902,326
合計	33,199,665,395

歳出	
一般会計・国立学校特別会計	
一般会計	799,379,680
国立学校	53,153,170,478
大学附属病院	20,815,258,972
研究所	14,830,761,390
施設整備費	11,347,505,300
特別施設整備費	573,628,000
小計	100,720,324,140
合計	101,519,703,820

歳出
一般会計・国立学校特別会計



科学研究費補助金

(平成8年度)

種 目	件数	金額(千円)
特別推進研究	7	420,900
重点領域研究	246	2,075,437
基盤研究(A)	303	1,945,000
基盤研究(B)	362	1,034,059
基盤研究(C)	473	582,392
萌芽的研究(A)	71	111,390
奨励研究(A)	223	222,108
国際学術研究	98	532,900
特別研究員奨励費	487	438,469
創成的基礎研究費	2	202,800
COE形成基礎研究費	1	325,000
計	2,273	7,890,455

国立学校特別会計支出済歳出額内訳(平成8年度)

人件費	50,705,645,526 円
物件費	50,014,678,614 円

外部資金受入状況

(平成8年度)

名 称	件数	受入額(千円)
民間等との共同研究	60	181,029
受託研究	283	2,240,328
奨学寄附金	2,825	2,766,747

寄附講座

研究科	講 座
医学研究科	分子免疫学・アレルギー学
工学研究科	水資源質総合計画
人間・環境学研究科	国際予防栄養医学

10. 建物面積

部局別			建物面積(m ²)
部	局	名	
事	務	局	26,881
学	生	部	43,263
附	属	図書館	14,011
総	合	人間学部	38,421
文	学	研究科・文学部	22,870
教	育	学部	5,135
法	学	研究科・法学部	12,653
経	済	学研究科・経済学部	8,051
理	学	研究科・理学部	69,026
医	学	研究科・医学部	41,454
医	学	部附属病院	162,719
薬	学	研究科・薬学部	11,062
工	学	研究科・工学部	131,149
農	学	研究科・農学部	56,426
農	学	部附属農場	6,014
農	学	部附属演習林	8,814
人	間・環	境学研究科	12,654
工	ネ	ルギー科学研究科	4,398
化	学	研究	23,995
人	文	科学研究研究所	7,655
胸	部	疾患研究所	12,071
工	ネ	ルギー理工学研究所	19,664
木	質	科学研究研究所	6,943
食	糧	科学研究研究所	3,770
防	災	研究研究所	36,214
基	礎	物理学研究所	5,788
ウ	イ	ルス研究所	8,684
経	済	研究研究所	3,009
数	理	解析研究研究所	3,938
原	子	如実験研究所	23,525
霊	長	類研究研究所	12,670
東	南	アジア研究センター	5,498
大	型	計算機センター	4,623
放	射	線生物研究センター	2,669
超	高	周電波研究センター	4,546
生	態	学研究センター	1,225
放	射	性同位元素総合センター	6,320
環	境	保全センター	1,121
遺	伝	子実験施設	1,704
生	体	医療工学研究センター	4,544
体	育	指導センター	193
留	学	生センター	940
総	合	博物館	4,780
総	合	情報メディアセンター	2,122
保	健	管理センター	1,320
医	療	技術短期大学部	9,190
職	員	宿舎	27,599
計			921,321

構内別 (平成9年5月11日現在)

構内別			建物面積(m ²)
構	内		
本	部	構内	218,776
西	部	構内	18,746
総	合	人間学部構内	60,171
北	部	構内	119,636
医	学	部構内	50,034
病	院・薬	学部構内	220,435
熊	野	構内	9,051
宇	治	構内	99,158
熊	取	構内	25,984
犬	山	構内	14,737
そ	の	他	84,593

11. 土地面積

(平成9年3月31日現在)

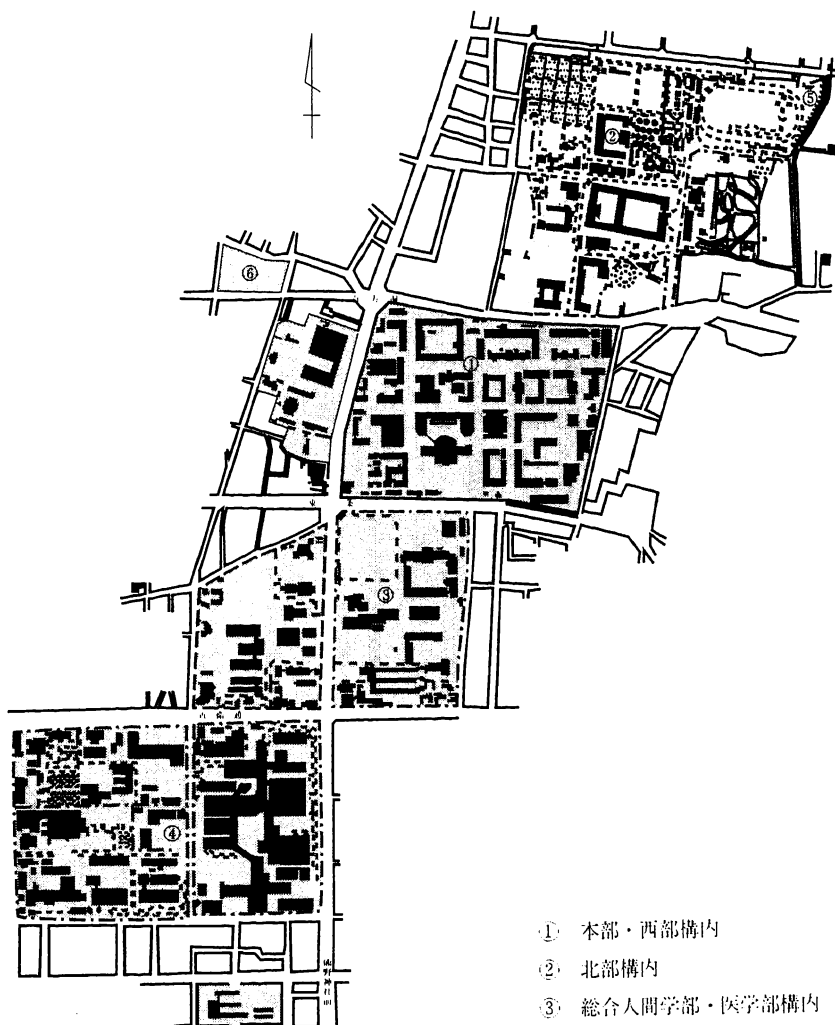
都道府県	部局・構内等	土地面積(㎡)				
京都府 (市内)	本部 構内	162,270	奈良	大宇陀観測所(理)	1,580	
	北 部 構内	209,396		地震予知研究センター	915	
	西 部 構内	33,051		屯鶴峯観測所(防)		
	総合人間学部構内	83,964		その他	55	
	医学部 構内	63,494		和歌山	瀬戸臨海実験所(理)	67,380
	薬学部 構内	43,515			亜熱帯植物実験所(農)	117,505
	病院 構内	143,654			和歌山演習林(演)	703,566
	羽田記念館(文)	448			白浜試験地(演)	553,149
	花山天文台(理)	25,005			災害観測実験センター	3,969
	上賀茂地学観測所(理)	31,760			白浜海象観測所(防)	
	納骨墓地(医)	683		災害観測実験センター	6,236	
	上賀茂試験地(演)	507,776		潮岬風力実験所(防)		
	東洋学文献センター(人)	4,228		その他	607	
	災害観測実験センター	68,236		北海道	北海道演習林(演)	21,983,043
	宇治川水理実験所(防)				新 潟	災害観測実験センター
	基礎物理学研究所・	262		大湯波浪観測所(防)		1,000
数理解析研究所		その他				
共同利用研究員宿泊所		福 井	地震予知研究センター	2,998		
清 風 荘	12,535		北陸観測所(防)			
熊 野 構内	15,081	長 野	木曾生物学研究所(理)	4,756		
吉田山浄水場	2,754		上赤松外線望遠鏡観測室(理)	500		
学生寄宿舎室町寮	1,300		白馬山の家	330		
国際交流会館	6,185	その他	1,877			
アメリカンフットボール	330	岐 阜	飛騨天文台(理)	244,941		
クラブハウス	902		地震予知研究センター	4,566		
清 風 会 館	902		上宝観測所(防)			
その他	621		災害観測実験センター	11,415		
京 都 (府下)	宇 治 構内	216,938	穂高砂防観測所(防)			
	宇治総合運動場	55,296	愛 知	霊長類研究所	45,740	
	牧 場(農)	156,245		鳥 取	地震予知研究センター	1,207
	栽培植物起源学研究室(農)	6,218	鳥取観測所(防)			
	水産実験所(農)	45,226	山 口	徳山試験地(演)	418,516	
	芦生演習林(演)	21,960,105		徳 島	地震予知研究センター	1,557
	その他	994	徳島観測所(防)			
滋 賀	生態学研究センター	117,988	災害観測実験センター	2,047		
	地震予知研究センター	610	徳島地すべり観測所(防)			
	逢坂山観測所(防)		熊 本	地球熱学研究施設	395,432	
	環境質制御研究センター(工)	2,483		火山研究センター(理)		
	MJレーダー観測所(超)	78,102	大 分	地球熱学研究施設(理)	23,058	
	艇 庫	2,274		その他	160	
その他	1,914	宮 崎	地震予知研究センター	4,278		
大 阪	地震予知研究センター		98,571	宮崎観測所(防)		
	阿武山観測所(防)		幸島観測所(霊)	5,628		
	農 場	162,336	鹿 児 島	吹上浜野外シロアリ試験地(木)	16,855	
	原 子 炉 実 験 所	386,022		火山活動研究センター(防)	57,001	
	その他	415	その他	1,869		
		その他	4,066			
			合 計	49,402,292		

12. 創立以来の比較

区 分	講座数		職員数		学生数		卒業者数	建 物 (㎡)	敷 地 (㎡)	図書冊数	総費総額 (千円)
	部門数	数	教員	その他	学生	その他					
明治30年創立当時	21		9	12	47	—	—	3,911	162,899	41,611	54
明治32年法科及び医科大学増設当時	42		62	101	205	13	—	12,387	162,899	76,041	341
明治39年文科大学増設当時	79		134	321	1,195	52	275	74,258	652,879	157,818	835
大正8年大学令改正当時	135		235	693	1,901	229	460	80,936	411,676	446,695	2,158
昭和5年度	199		508	1,468	5,354	200	1,373	131,577	931,940	879,808	4,984
同10年度	201		494	2,521	5,619	204	1,449	134,985	934,466	1,099,090	5,732
同15年度	215		561	2,509	5,077	328	1,286	144,241	1,063,177	1,351,065	6,445
同20年度	236		567	2,430	7,801	477	821	152,770	1,324,962	1,539,238	14,974
同25年度	251		634	2,621	9,831	475	1,487	160,572	23,143,944	1,621,944	794,064
同30年度	271 (55)		1,365	1,802	8,974	271	1,404 (359)	296,489	23,680,205	1,890,493	1,824,893
同35年度	292 (67)		1,461	1,958	8,740	204	1,479 (318)	329,626	23,921,642	2,036,445	3,554,756
同40年度	370 (95)		1,975	3,160	11,967	189 (聴講生)	2,017 (628)	467,957	24,281,986	2,362,527	9,779,625
同45年度	421 (114)		2,282	3,397	14,295	187	2,401 (869)	593,395	25,146,210	2,916,941	17,566,459
同50年度	433 (20)		2,477	3,325	14,756	268	2,355 (867)	688,791	25,143,252	3,381,883	36,380,662
同55年度	442 (12)		2,561	3,220	14,583	263	2,487 (896)	688,311	25,159,522	3,837,072	53,952,906
同60年度	452 (13)		2,630	2,985	15,014	245	2,490 (989)	755,452	25,251,011	4,357,715	67,879,904
平成元年度	459 (143)		2,601	2,866	16,535	228	2,510 (1,040)	832,001	25,278,150	4,764,136	75,497,603
同5年度	467 (161)		2,694	2,724	18,227	235	2,743 (1,237)	835,923	25,277,728	5,135,480	105,088,198
同9年度	447 (147)		2,745	2,559	20,526	217	—	921,321	25,293,600	5,470,001	—

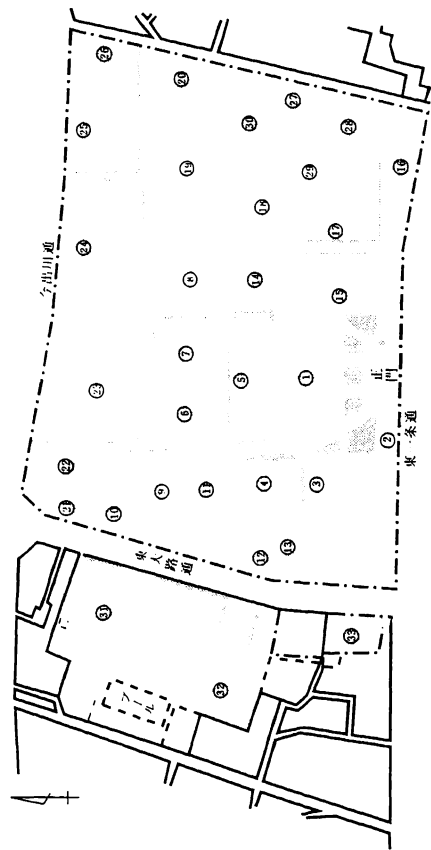
(注) 学生数(その他)の欄は聴講生・研究生を、卒業者数欄()書は修士を外数で計上した。昭和30年度以後の講座数欄()書の部門数は外数である。
有する土地を除き、経費は経常部、臨時部の決算額を計上した。昭和30年度以後の講座数欄()書の部門数は外数である。

13. 構内建物配置図



- ① 本部・西部構内
- ② 北部構内
- ③ 総合人間学部・医学部構内
- ④ 病院・薬学部構内
- ⑤ 北白川スポーツ会館
- ⑥ 清風荘

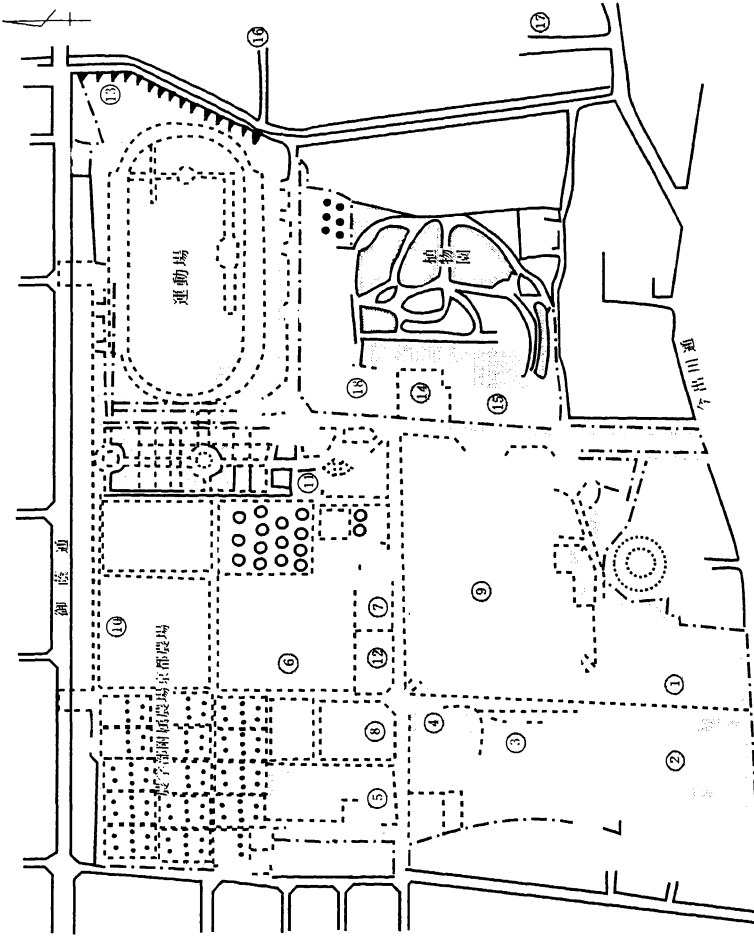
本部・西部構内



- ① 大学本館(庶務部、施設部、企画室及び法学部、経済学部附属国際法政文献資料センター)
- ② 保健診療所及び保健管理センター
- ③ 学生生活、体育指導センター、留学生センター、留學生懇話会及び理学部附属機器分館センター
- ④ 法学部、経済学部講義室、研究室及び法学部附属国際法政文献資料センター
- ⑤ 法学部、経済学部講義室、研究室、事務室及び図書館
- ⑥ 文学部附属、研究室、講義室及び図書館
- ⑦ 総合図書館
- ⑧ 給水センター
- ⑨ 教育学部
- ⑩ 経済文化財研究所
- ⑪ 工学部共同講義室、教壇、理工学専攻、事務部及びエエネルギ一科学研究所
- ⑫ 工学部材料工学専攻、数理工学専攻、応用ステンレスキ一科学専攻、情報学、附属メゾ材料研究センター及びエエネルギ一科学専攻、情報学、附属メゾ材料研究センター(11号館)
- ⑬ 工学部航空宇宙工学専攻、精密工学専攻、機械物理工学専攻、物理工学科及びエエネルギ一科学研究所(12号館)

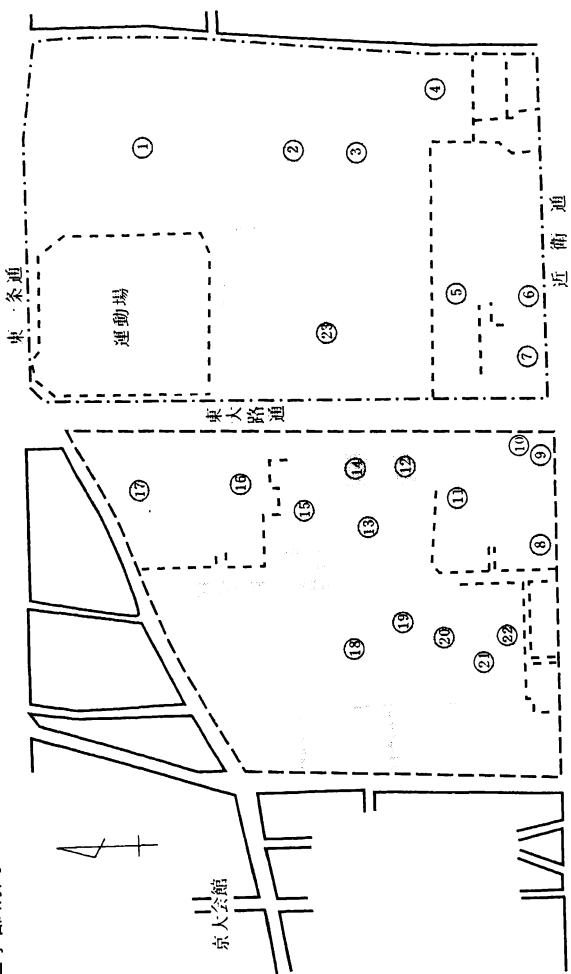
- ⑭ 工学研究科、工学部資源工学専攻、原子核工学専攻、エエネルギ一科学研究所及び総合情報メテアセテクノロジー(1号館)
- ⑮ 工学研究科、工学部電気工学専攻、電子物理工学専攻、電子通信工学専攻、応用システム科学専攻、電気電子工学科及び附属エエネルギ一科学施設(3号館)
- ⑯ 工学研究科、工学部情報工学専攻及び総合情報メテアセテクノロジー(10号館)
- ⑰ 工学研究科、工学部分子工学専攻
- ⑱ 工学研究科、工学部物質化学専攻(9号館)
- ⑳ 工学研究科、工学部有機化学専攻、高分子化学専攻、合成、生物化学専攻、化学工学専攻、工業化学科及び環境保健センター(4号館)
- ㉑ 工学研究科、工学部土木工学専攻、土木システム工学専攻、環境工学専攻、環境地球工学専攻及び地球工学科(5号館)
- ㉒ 工学研究科、工学部建築学専攻、生活空間学専攻、環境地球工学専攻及び建築学科(7号館)
- ㉓ 工学部機械システム工学専攻
- ㉔ 工学部機械システム工学専攻(新2号館)
- ㉕ 工学部物理系共同研究棟(新2号館)
- ㉖ ハンチキ一、ピシキ一、ラボラトリー(VBL)
- ㉗ 総合講堂
- ㉘ 西部講堂
- ㉙ 人文科学研究所

北 部 構 内



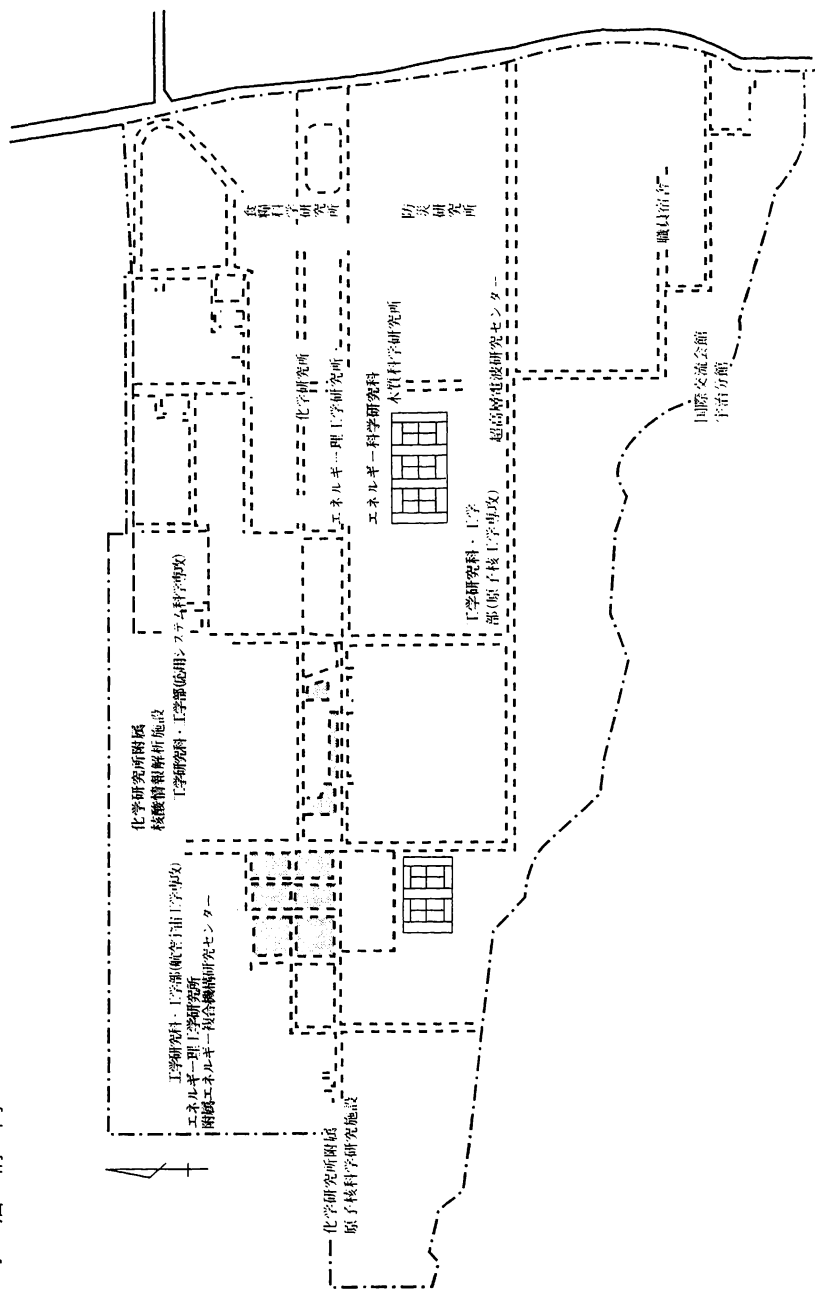
- 1 理学研究科化学教室、地質学鉱物学教室、生物物理学教室、附属機電部分七ヶ分室、共同講義室、中央図書室及び事務室
- 2 理学研究科動物学教室及び植物学教室
- 3 理学研究科数学教室
- 4 理学研究科宇宙物理学教室、地球物理学教室及び理学部附属地帯公共世界資料解析センター
- 5 理学部附属天文台分室
- 6 理学研究科化学教室機電設備研究室及び極低温高分解能電子顕微鏡実験室
- 7 理学研究科物理学教室及びバレンツクワコ型加速器実験室
- 8 エネルギープロパゲーション放射線同位元素総合センター
- 9 農学部研究科・農学部農学専攻、森林科学専攻、応用生命科学専攻、応用生物科学専攻、地球環境科学専攻、生物資源経営学専攻、大講義室、図書室、附属演習林事務室及び附属演習林事務室
- 10 農学研究科応用生物科学専攻畜産学動物実験棟
- 11 農学研究科附属演習林本部試験地
- 12 農学研究科別館
- 13 北白川水泳場会館
- 14 基礎物理学研究所
- 15 数理解析研究所
- 16 基礎研・数研共同利用研究者宿舎所
- 17 人文科学研究所附属東洋学文庫センター
- 18 基礎物理学研究所

総合人間学部・医学部構内



- | | |
|--|---|
| <p>1 総合人間学部A号館（講義室、研究室及び事務室）</p> <p>2 総合人間学部B号館</p> <p>3 総合人間学部C号館及びE号館（講義室及び研究室）</p> <p>4 総合人間学部D号館（講義室及び研究室）</p> <p>5 学生會宿舎</p> <p>6 楽友會館、人間・環境学研究所</p> <p>7 職員會館</p> <p>8 医学部医学図書館</p> <p>9 医学研究所、医学部留学生実習室</p> <p>10 有機合成施設備室</p> <p>11 医学研究科、医学部知行動物科学及び医学部附属先天異常態本解析センター</p> <p>12 放射線生物研究センター</p> <p>13 医学部附属動物実験施設</p> | <p>14 放射性同位元素施設（七ヶタ）一本館</p> <p>15 医学部放射線総合センター</p> <p>16 医学部放射線同位素センター</p> <p>17 医学研究科・医学部法医学、微生物感染学、放射線遺伝学、K施設、生体情報科学、免疫細胞生物学、機能微細形態学、形態形成機構学、神経生物学、細胞機能制御生物学、神経生物学、細胞機能制御生物学、実習室及びK施設</p> <p>18 医学研究科・医学部分子生物学、分子細胞情報学、循環生理学、神經・細胞生理学</p> <p>19 人間・環境学研究所教育</p> |
|--|---|

宇治構内



あ　と　が　き

「京都大学を紹介する冊子」は、京都大学を社会に紹介することを目的として、昭和63年4月1日にその第1号が刊行された。当時の西島安則総長の発案に基づくものであった。以後、2年毎に刊行を重ね、今回の「冊子」(1997)は第6号にあたる。

この間、京都大学は大きく動いてきた。例えば、“大学院重点化”である。すなわち、法学研究科(平成4年度)、理学研究科(平成7年度)、医学研究科(平成7年度)、文学研究科(平成8年度)、工学研究科(平成8年度)について、平成9年度には経済学研究科、薬学研究科と農学研究科の整備も完了した。また、平成8年度に“独立研究科”としてエネルギー科学研究科が設置された。一方、原子エネルギー研究所とヘリオトロン核融合研究センターが改組されてエネルギー理工学研究所となった。また、防災研究所が共同利用の研究所に改組された。さらに、教育学研究科の重点化のほか、独立研究科として情報科学研究科とアジア・アフリカ地域研究科の設置が計画されている。総合博物館、総合情報メディアセンター、教育学部附属臨床教育実践研究センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等も「冊子」第5号の刊行以後に設置されている。また、学部学生の国際交流の促進を目的として、短期留学生を受け入れる国際教育プログラム(KUINEP)も平成9年10月より開始された。このような“京都大学の不断の前進”が、京都大学における教育・研究の具体的な内容とともに、「冊子」によって広く社会に紹介されることを願うものである。

今回の「冊子」第6号の編集は編集委員会企画小委員会により行われた。その基本方針はこれまでと大きな違いはなく、各部局選出の編集委員に執筆でないし執筆責任者となって部局を紹介していただいた。なお、第1章総論の「大学の歴史」の項については、「冊子」第1号で教養部の宮本盛太郎助教授(現在、総合人間学部教授)が、法学部の大塚健洋助手(現在、姫路独協大学法学部助教授)の協力のもとに執筆されたのであったが、その後、第5号では海原 徹教授(人間・環境学研究科)、本第6号では瀬地山 敏教授(経済学研究科)に加筆していただいている。また、第2章「学部と大学院」の総説と第3章「研究所とセンター」の総説については、理学部の吉澤尚明教授(現在、名誉教授)から第1号の編集の際にいただいた原稿がもとになっているが、その後、第1章総論の「大学の運営」の項とともに、第5号では佐藤幸治教授(法学研究科)と向山 毅教授(化学研究所)、第6号では瀬地山 敏教授に日を通していただいている。表紙のカットは総合博物館のお世話になった。題字は、第5号と同様、井村裕夫総長のものを使わせていただいた。

平成9年は京都大学創立百周年にあたる。記念行事の準備に尽力された方々も少なくない。ご多忙の中、本冊子第6号の刊行にご協力いただいた各部局の方々や編集委員会と企画小委員会の方々に厚くお礼申し上げます。また、広報調査課の方々の献身的なご協力なしには本冊子の刊行はあり得なかったであろうことをとくに申し添えておきたい。

平成9年10月31日

冊子編集委員会委員長 水 野 昇

「京都大学を紹介する冊子」編集委員会委員

任期(平成8年11月27日～10年11月30日)

委員長	水野	昇(医)																
副委員長	高橋	三郎(総)																
愛宕	岩元(総)		水野	直樹(人)	江島	洋介(放生)												
川合	康三(文)		永田	和宏(胸)	高月	紘(環)												
山崎	高哉(教)		千葉	明朗(工研)	橋本	弘藏(超)												
稲垣	恭子(教)		小村	松田	清水	章(遺)												
杉原	高嶺(法)		村松	田幸	池作	健(生)												
岡田	知弘(経)		赤松	純平(防)	森田	眞理子(留)												
曄道	三恭(理)		松井	哲男(基)	田端	英雄(生熊)												
川口	三郎(医)		難波	雄二郎(ウ)	田中	每実(高等)												
平岡	眞寛(病)		岡田	章(経研)	壇重	辻正												
中川	照眞(薬)		三輪	哲二(数)	清水	芳裕(埋)												
橋本	伊織(工)		西庄	牧武	重田	眞通												
笈田	昭(農)		庄田	孝芳	万波	通彦(函)												
河瀬	晃四郎(場)		玉野	芳正	宮地	昭(学)												
柴田	昌三(演)		青野	澤正	瀬地	敏(総特)												
西井	正弘(人環)		金澤	憲(大)	松本	雅彦(医短)												
近藤	克己(工科)		五十	人(放)	黒川	征(事)												
尾崎	那宏(化)		山下	謙智(体)														

企画小委員会委員

委員長	水野	昇
副委員長	高橋	三郎
	山崎	高哉
	橋本	伊織
	西井	正弘
	赤松	純平
	金澤	正憲
	森眞	理子
	壇辻	正剛
	万波	通彦
	宮崎	昭
	瀬地	山敏

索 引

人 名 索 引……………	1
(名誉教授, 教授, 助教授, 専任講師など)	
事 項 索 引……………	20

人名索引 (五十音順)

人名	頁
あ	
相原茂夫	510
相見満	581
青木生	305
青木健次	753
青木宏光	255
青野充	652
青山卓史	465
青山秀明	85, 407
青山吉隆	275
赤池昭紀	258
赤岡功	166
赤羽徳英	205
赤星光彦	575
赤松純平	529
赤松智子	675
赤松紀彦	77, 413
赤松美紀	370
秋津元輝	379
秋月謙吾	152
秋友和典	190
秋葉知温	80
秋元直茂	260
秋吉成	337
秋吉恒和	573
朝尾直弘	685
朝木善次郎	302
浅川滋男	410
浅田忠裕	334
浅野(中静)透	614, 615
浅原達郎	476
浅見淳之	378
浅見耕司	456
浅田彰	557
浅野潔	407
足利健亮	409
芦田譲	277
芦名定道	110
東順	371
東滋	585
飛鳥井雅道	476
麻生武彦	310
足立紀尚	272
足立紀彦	324
足立裕彦	301
足立基齊	427, 493
足立幸男	409
足立芳宏	378
阿辻哲次	77, 413
跡見晴幸	338
阿部恭久	542
安部琢哉	614, 615
天知輝夫	358
天野高久	354
天野正輝	128
網谷良一	481
荒木茂	416, 656
荒木千里	234
荒木徹	191
荒木寅三郎	5
荒木雅弘	323, 644
荒木光彦	310
荒野奈	259
荒牧典俊	473, 476
蘭信三	413, 635
有賀健	560
有賀哲也	195
有福孝岳	67, 406
栗倉奈弘	301
淡路敏之	190
安達修三	362
安藤和雄	413, 589
安藤仁介	150
安藤信	387
安藤雅孝	525
安部光雄	566
い	
飯田彰	255
飯田恭敬	273
飯塚忠彦	230
家村浩和	274
家森俊彦	205
筏義人	629
五十嵐顕人	320
五十嵐晃	274
五十嵐忠孝	413, 590
五十棲奈人	408, 624
池内健	630
池内健二	434
池上詢	429

池田克夫	322	石田英実	197	伊藤嘉昭	454
池田克己	418	石原昭彦	92,406	伊藤嘉彦	337
池田秀三	101	石原和弘	527	伊原康隆	564
池田篤治	361	石原慶一	421	伊從勉	414
池田浩士	73,413	石原潤	116	稲垣恭子	131,132,136
池田保	183	石森其一郎	332	稲垣耕作	322
池田善郎	375	石山拓二	429	稲垣省五	188
池田隆介	185	泉井桂	364	稲垣直樹	78,412
池永満生	408,603	泉井久之助	683	稲田伊久徳	75,416
池野旬	416,656	泉孝英	480	稲葉カヨ	197
池橋宏	352,379	磯祐介	184	井波陵一	476
池淵周	283,528	磯田正二	454	稲村達也	352
池本正生	672	位田隆一	150	稲室隆二	338
池本幸生	413,592	市川厚	258	稲本志良	376
石井慶之	295	市川新	280	稲本俊	669
石井隆次	305	市川光雄	418,656	乾賢一	247
石垣泰輔	523	市橋則明	673	乾敏郎	114
石川興二	155	伊藤秋男	299	乾智行	331
石川順三	311	伊藤和彦	243	乾晴行	302
石川尚人	90	伊藤和行	117	乾義尚	309
石川	682	伊藤潔	525	井狩彌介	475,477
石川裕彦	522	伊藤那武	106	井田正二	508
石川光庸	72,413	伊藤禎彦	279	井手千束	216
石川本雄	309	伊東史朗	410	井上和也	521
石川義孝	117	伊藤紳三郎	334	井上國世	363
石黒武彦	185	伊藤澄子	425	井上敬	198
石黒浩	322	伊藤孝夫	149	井上紘一	306
石坂恭一	407	伊藤忠直	200	井上俊	116
石沢俊亮	188	伊藤信行	257	井上達雄	430
石田明文	78,416	伊藤操子	353	井上民二	614,615
石田定顕	367	伊藤美千穂	255	井上丹	195
石田泰郎	287	伊藤靖彦	425	井上信幸	430,489
石田亨	322	伊藤之雄	152	井上信	466
石田紀郎	365	伊藤義勝	337	井上正志	331

井上善晴 509
 井川八郎 200
 井川正人 527
 井深俊郎 255
 井街悠 647, 648, 649
 井村裕夫 22, 34
 猪子止戈之助 234
 茨木俊秀 319
 今井一郎 369
 今井憲一 187
 今井晴雄 557
 今久保幸生 164
 今郷哲久 190
 今谷勝次 430
 今中忠行 338
 今西錦司 582
 今西信嗣 299
 今西英器 82
 今福道夫 196
 今村正之 234
 今本博健 523
 人倉孝次郎 517
 岩井齊良 82
 岩井茂樹 477
 岩井敏洋 319
 岩井八郎 133
 岩井吉彌 355
 岩城見一 110
 岩崎敷久 184
 岩嶋樹也 522
 岩瀬正則 433
 岩田博夫 629
 岩田豊 572
 岩塚明 184

岩瀨雅樹 198
 岩村淑 361
 岩本武和 165
 岩本康志 560
 イレノウスキ
 ウリドウスキ

う

上正明 82, 407
 上杉孝實 132
 上田國寛 463
 上田哲生 82, 416
 上田皖亮 311
 上谷宏二 286
 上野健爾 183
 上野民夫 359
 上野徹 330
 上野嘉夫 319
 上原一慶 559
 上原真人 114
 植田和弘 166
 植田充美 337
 植田洋匡 522
 植野洋志 359
 植松恒夫 85, 417
 植村榮 331
 魚住泰広 195
 宇佐美齊 475, 477
 宇敷重廣 406
 牛野正 374
 宇津呂雄彦 572
 牛首文隆 236
 内井惣七 117
 内田有恆 368
 内田宏美 670

内田賢徳 76, 413
 内本喜朗 328
 内本喜晴 425
 内山勝利 107
 宇津宮智昭 271
 宇仁宏幸 162
 内海成 512
 内海博司 575
 海原徹 406
 梅田亨 184
 梅田幹雄 374
 梅田康弘 525
 梅谷重夫 456
 梅村純三 455
 裏出令子 511
 古部城太郎 614, 617
 ウグロフ・デニス 565

え

榮永義之 333
 英保茂 324
 江崎信芳 464
 江島洋介 603
 江島義道 407
 江原武一 128
 遠藤隆 364
 延與秀人 187

お

尾池和夫 190
 笈田昭 374
 應地利明 413, 591
 大井元晴 483
 大石眞 149

大浦 康介 477	大野 照文 702	岡村 秀典 476
大江 浩一 331	大畠 誠一 387	岡本 厚 281
大鍛治 隆司 184	大畠 卜キ子 86	岡本 久 566
大川 勇 75, 413	大東 肇 362	岡本 道雄 19
大木 充 74, 407	大東 祥孝 407, 635	小川 郷太郎 153
大木谷 耕司 566	大引 得弘 427, 490, 494	小川 侃 406
大久保 捷敏 427, 493	大堀 淳 567	小久見 善八 330
大久保 嘉高 575	大見 哲巨 185	荻野 勝哉 324
大倉 敬宏 90	大村 善治 610	荻野 文丸 338
大崎 純 284	大森 治紀 235	奥田 東 17
大崎 直太 365	大矢 勇次郎 319	奥田 敏広 78
大沢 達 234	大山 莞爾 360	奥西 一夫 518
大澤 秀行 582, 585	大和田 拓 305	奥村 浩士 310
大澤 真幸 414	岡 穆宏 465, 467	奥村 正悟 357
大薦 幸一郎 327	岡 昌吾 256	奥本 裕 352
大島 康裕 194	岡 太郎 528	芋阪 直行 114
大志万 直人 525	岡 正典 632	尾崎 恵一 257
大嶋 正裕 339	岡 興志男 89, 415	尾崎 邦宏 459
大須賀 篤弘 195	岡川 長郎 635	尾崎 博明 278
太田 至 417, 656	岡崎 敏 329	長村 光造 303
大高 章 254	岡崎 甚幸 287	小佐野 広 558
大嶽 秀夫 152	岡田 章 559	小嶋 泉 566
大谷 晋一 89	岡田 温司 67, 413	小田 滋晃 376
大谷 浩 188	岡田 渥美 639	小田 順一 463
大谷 雅夫 99	岡田 清孝 198	小田 伸午 92, 407
大谷 隆一 294	岡田 敬司 67, 406	小貫 明 186
大塚 研一 668	岡田 知弘 165	小野 勝敏 433
大槻 徹 422, 494	岡田 憲夫 516	小野 紘一 275
大手 信人 371	岡田 篤正 190	小野 公三 577
大西 近江 365	岡田 康伸 131, 134	小野 紀明 152
大西 広 163	尾形 幸生 427, 492	小野寺 秀俊 315
大西 正視 431, 489	岡部 寿男 325, 598	愛宕 元 77, 412
大西 有三 274	岡村 周一 149	落合 庄治郎 294, 341, 342
大野 惇吉 462	岡村 忠生 149	落合 美恵子 116

尼野照治	72,413	桂 義元	482	茅 陽	123
澤 湯久孝	683	桂 山康司	78	唐 渡見弘	152
折 田彦市	1	加 藤 邦男	287	河 合 明彦	257
	か	加 藤 宏郎	375	河 合 潤	302
海 田 能 宏	413,591	加 藤 重樹	194	河 合 武	573
加賀爪 優	377	加 藤 正二	188	河 合 隆裕	565
柿 木 茂	466	加 藤 信一	80,415	河 合 俊雄	130,136
丘 野 義昭	297	加 藤 剛	116,413,590	河 合 俊哉	566
丘 本 直人	310	加 藤 暢夫	361	河 上 繁樹	410
角 所 考	323,614	加 藤 直樹	284	河 上 肇	3,6,153,151,155
角 谷 忠昭	361	加 藤 尚武	109	河 上 倫逸	149
掛 谷 誠	416,656	加 藤 真	414	河 崎 靖	83,412
景 山 節	585,586	加 藤 幹郎	67,416	河 瀬 見四郎	381
籠 谷 直人	476	加 藤 雄大	435,490	河 田 嗣郎	153
笠 井 正俊	151	加 納 健司	361	川 田 照雄	362
笠 原 勝幸	668	加 納 隆至	582	河 田 惠昭	529
笠 原 三紀夫	423	加 茂 映子	668	河 地 利彦	373
梶 慶輔	459	金 坂 清則	405	河 野 昭一	199,701
梶 田 淑一	641	金 澤 正憲	325,598	河 野 允宏	288
梶 田 茂	9	金 村 聖志	330	河 原 太八	365
梶 本 興重	194	金 谷 利治	459	河 原 達也	322
柏 久	379	金 子 周司	259	川 合 康三	100
柏 原 正樹	184,565	金 久 實	465	川 上 養一	313
上 總 康行	167	狩 野 博幸	410	川 口 三郎	235
嘉 田 良平	377	狩 野 亨吉	3,95	河 崎 清	697
片 井 修	298	狩 野 直喜	10,99,470	川 崎 敏祐	256
片 岡 勲	300	我部山キヨ子	676	川 崎 伸子	668
片 桐 晃	88,427	鎌 田 元一	111	川 崎 雅史	281
片 山 道	580	蒲 池 美鶴	70,416	川 崎 昌博	333
片 山 徹	320	亀 田 弘行	516	川 崎 三津夫	333
片 山 幸士	371	亀 山 幸義	321	川 崎 良孝	133
勝 村 哲也	474,476	亀 山 正那	237	川 島 昭夫	78,413
桂 順治	289,522	亀 山 美智子	670	川 瀬 洋一	574
		嘉 門 雅史	518	川 添 信助	107

川那辺 三郎 356
 川野 眞治 572
 川端 祐司 572
 川濱 昇 150
 川原 琢治 306
 河本 晴雄 422
 川本 芳 581
 神田 啓治 424, 571
 神野 郁夫 300
 神野 賢一 185
 神戸 正雄 5, 153
 菅野 信夫 753
 上林 彌彦 322
 カール, B 415
 カンスタブル, J 78
 ガリグ・ジャック 567

き

木上 淳 408
 菊沢 喜八郎 614, 616
 菊地 宏吉 277
 菊池 光造 164
 喜志 哲雄 104
 岸下 雅通 672
 喜志麻 孝子 635
 喜多 源逸 326
 北 徹 224
 北岡 豪一 203
 北川 敏一 330
 北畠 直文 510
 北畠 能房 410
 北村 隆行 294
 北村 雅夫 193
 北村 隆一 275

北山 忍 83, 407
 鬼頭 誠 511
 木田 章義 99
 木田 秀次 190
 木寺 詔紀 194
 木南 敦 149
 木下 知己 330
 木下 廣次 1, 2, 679
 木下 正弘 427, 493
 來海 徹太郎 256
 木村 晃彦 431, 491
 木村 光 509
 木村 逸郎 300
 木村 健二 294
 木村 淳 237
 木村 俊作 329
 木村 大治 418, 656
 木村 崇 78, 413
 木村 亮 272
 木村 雅昭 152
 清野 純史 274
 紀平 英作 118
 行者 明彦 82, 415
 金 文京 476
 金田 章裕 116
 <
 九後 太一 186
 鯨岡 峻 406
 楠田 啓 433
 工藤 章 574
 國枝 治郎 287, 517
 國友 浩 541
 久野 英二 365

久保 愛三 296
 久保 一之 113
 久保 禮次郎 541
 久保田 信 197
 久保田 洋 197
 熊谷 英彦 363
 熊本 博光 296
 倉橋 和義 621
 倉光 正己 309
 蔵本 由紀 186
 黒河 宏企 204
 黒木 裕志 673
 黒田 義弘 256
 桑原 武夫 477
 栗原 保正 359
 栗山 正進 474, 476
 クレイク, E. M. 103
 け
 玄 丞 熊 630
 こ
 小出 康夫 302
 小岩 昌宏 303
 郷 信広 194
 鞠谷 信三 455
 興膳 宏 100
 幸田 武久 306
 幸田 成行 95
 幸塚 広光 458
 河野 明 183
 河野 敬雄 81, 406
 香山 晃 435, 490
 国府 寛司 184

小岸昭	73,412	駒井謙治郎	293	神利之	363
小久保正	328	子安増生	129,130	相良直彦	407
小崎隆	372	近藤克己	426	壽元道德	387
小嶋祥三	583	近藤輝幸	331	櫻井正一郎	72,413
小島祐馬	9	近藤文男	167	櫻井芳雄	584
小尻利治	528			櫻川貴司	83,407
小菅皓三	195		さ	桜田一郎	326
小瀧努	427,493	西園寺公望	1	櫻田忠衛	155
小玉英雄	542	齋藤烈	337	櫻田嘉章	151
小堤保則	257	齋藤恭司	565	櫻谷哲夫	371
小寺秀俊	292	齋藤久美子	131,134,135	左子芳彦	368
小西重直	7	斎藤敏明	277	笹尾登	187
小西淳三	226,242	齋藤裕	410	笹田昌孝	671
小西紀一	675	齊藤眞弘	375,571	笹山哲	672
小橋澄治	371	齋藤衛	188	佐伯啓思	414
小林捷平	571	齋藤盛彦	565	佐川典正	227
小林潔司	273	斎藤軍治	194	佐々恭二	518
小林啓祐	300	斎藤誠	165	佐々木丞平	110
小林茂夫	91,406	齊藤泰弘	106	佐々木克	472,476
小林昭一	282	坂志朗	422	佐々木惣一	6
小林四郎	329	坂井昭夫	559	佐々木隆興	10
小林慎太郎	371	坂口治隆	187	佐々木徹	104
小林隆史	454	坂口守彦	369	佐々木正夫	603
小林信彦	101	坂本宏	187	佐々木義之	366
小林正美	281	坂本亘	368	佐々木隆	541
小林達彦	360	阪井康能	361	佐々木隆造	362
小松紘一	460	阪上孝	475,477	佐治英郎	259
小南一郎	473,476	阪上雅昭	85,408	佐竹範夫	482
小山勝二	187	酒井明	304,342	佐藤昭裕	103
小山哲	477	酒井敏	90,415	佐藤幸治	149
小山直樹	418,656	酒井哲郎	271	佐藤進	159,166
後藤喬雄	409	酒井徹朗	355	佐藤忠信	517
後藤仁志	271	酒井英昭	320	佐藤亨	314
古林徹	576	酒井裕	358	佐藤直樹	456

佐藤 矩行 197
 佐藤 文隆 187
 佐藤 文彦 360
 佐藤 雅彦 90
 佐藤 雅彦 321
 佐藤 公道 257
 里村 雄彦 190
 佐野 史道 427,491
 佐野 光貞 84
 佐和 隆光 422,557
 定道 宏 163
 篠山 重威 222
 沢田 篤史 598
 沢田 敏男 19
 沢田 正昭 410
 澤田 純男 517
 澤田 豊明 523
 澤本 光男 334
 澤柳 政太郎 3,682
 榎木 哲夫 296
 し
 椎葉 充晴 521
 塩崎 忠 312
 塩地 要 168
 塩路 昌宏 429
 塩田 浩平 215,240
 塩田 隆比呂 184
 塩津 正博 432
 塩見 淳 151
 志賀 正幸 302
 四口谷 敬子 67,406
 重川 一郎 184
 重田 眞義 417,656

茂原 信生 581
 新後園 禎 558
 穴戸 圭一 683
 静谷 謙一 541
 志田 忠正 194
 七田 芳則 201
 篠崎 祐三 288
 篠原 資明 67,406
 篠本 滋 186
 芝 正己 387
 芝池 義一 149
 柴崎 浩 237
 柴田 章久 560
 柴田 敬 154
 柴田 誠一 572
 柴田 俊忍 293
 柴田 昌三 387
 柴田 光藏 149
 澁川 明正 255
 島 進 292
 島 丈治郎 681
 島崎 健 76,413
 島田 周平 417,656
 島田 眞杉 79,413
 島田 充彦 525
 清水 章 624,625
 清水 勇 614,616
 清水 昌 360
 清水 御代明 114
 清水 慶彦 631
 清水 勇二 183
 清水 芳久 283,342
 下坂 守 410
 下谷 政弘 168

下野 登士男 668
 初宿 正典 149
 庄垣内 正弘 115
 庄武 孝義 581
 白井 亨 155
 白井 康之 432
 白石 隆 413,591
 白石 信夫 358
 白石 英秋 195
 白石 裕 134,136
 城下 莊平 702
 代谷 誠治 428,573
 秦 和夫 300
 新宮 一成 405
 新宮 秀夫 421
 新城 新藏 7
 新庄 輝也 457
 神保 道夫 184
 新村 出 682
 シンマジモ グンレフ
 ジモ エフラジ
 スト
 レッ
 ヤ
 ト、
 ド
 ン
 430
 す
 水光 雅則 74,416
 末川 博 6
 末広 祥二 335
 末峯 章 523
 菅 佐和子 668
 菅野 強 276
 菅原 和孝 71,412
 杉浦 明 353
 杉浦 邦征 275
 杉浦 幸雄 462
 杉江 俊治 324

杉原高嶺 150
 杉原保史 753
 杉万俊夫 83,406
 杉本敦子 614,616
 杉本直三 324
 杉元宏 305
 杉本均 128
 杉本幸彦 258
 杉山勝之 85
 杉山直 187
 杉山正明 112
 杉山雅人 88,415
 杉山幸丸 582
 楢崎弘幸 467
 洲崎博史 150
 岡子秀樹 426
 鈴木健一郎 293
 鈴木康三 673
 鈴木茂嗣 151
 鈴木晶子 126
 鈴木仁美 195
 鈴木雅之 70,413
 鈴木康弘 484
 鈴木祥之 289,516
 鈴木亮輔 433
 須藤靖明 203
 砂村賢 635
 砂本順三 337
 住友則彦 525
 住友恒 279
 皇紀夫 134
 諏訪浩 518

せ

清野裕 223,245
 関口秀雄 523
 関本謙 543
 關谷次郎 360
 瀬地山敏 162
 瀬戸川烈司 193
 芹川忠夫 239
 芹澤昭示 300
 善林明治 380

そ

早田次郎 85
 宗宮功 279
 曾我直弘 328
 祖田修 379
 曾根良夫 305
 蘭田坦 107
 蘭田稔 76,413
 祖父江育子 670
 曾布川寛 474,476

た

田尾雅夫 166
 多賀茂 78,413
 多賀徹 256
 騰尾和昭 314
 高岡義寛 340
 高木郁二 300
 高木興一 280
 高倉喜信 259
 高倉弘喜 322
 高桑昭 151

高崎金久 83,407
 高瀬冬人 311
 高田滋 305
 高田慎治 206
 高田時雄 473,476
 高田光雄 285
 高田保馬 154
 高野幹夫 457
 高橋三郎 67,413
 高橋敏 464
 高橋隆 245,405
 高橋強 374
 高橋秀直 111
 高橋大次 285
 高橋宏幸 103
 高橋康夫 287
 高橋義人 410
 高橋由典 67,415
 高橋義朗 185
 高畑尚之 199
 高山知司 521
 高橋清之 674
 高橋保 521
 高橋眞 69,415
 高橋正治 485
 高橋陽一郎 566
 高橋玲 217
 高林純示 372
 高藤晃雄 372
 高部圭司 357
 高村仁一 684
 高村泰雄 416,656
 高谷修 72
 高柳敦 356

寶	馨	528	多々納	裕	516	田中	克	368,379
財部	静治	153,155	立川	康人	521	田中	良和	203
瀧川	敏算	329	立花	明知	332	田部	勢津久	88
瀧川	幸辰	7,12,15	橘	邦英	312	田邊	玲子	73,413
宅田	裕彦	434	橘木	俊詔	558	田野	恵三	575
宅間	薫	310	立本	成文	413,589	田端	英雄	614,617
田口	貞善	407	龍田	貞	184	田畑	勝好	672
田口	紀子	105	巽	好幸	90,415	田畑	泰彦	629
竹井	義次	565	建山	和由	273	玉尾	皓平	461
竹市	雅俊	200	棚瀬	孝雄	148	玉川	安騎男	564
武内	章	81	田中	渥夫	337	玉川	雅章	429
竹内	賢	330	田中	功	301,432	玉田	攻	410
竹内	文朗	525	田中	和彦	195	玉田	芳史	413,591
竹内	典之	387	田中	一義	332	玉村	啓和	254
竹内	洋	131,132	田中	周友	683	田丸	啓吉	315
竹腰	清乃理	194	田中	圭	461	田村	武	270
竹田	晋也	355	田中	紘一	227	田村	類	408
竹中	修	585	田中	耕一郎	185	田門	肇	339
竹村	恵二	190	田中	耕司	413,593	谷	史人	510
竹本	篤史	83	田中	耕治	128,129	谷	嘉明	629
竹本	修三	190	田中	成明	148	谷垣	静子	670
竹山	聖	285	田中	重雄	256	谷垣	昌敬	339
竹脇	出	286	田中	真介	91	谷口	栄一	273
武末	貞二	86,408	田中	二郎	417,656	谷口	淳一	113
武田	時昌	477	田中	静吾	463	谷口	雅彦	183
武田	俊一	239	田中	淡	474,476	谷口	安平	150
武田	信生	278	田中	每実	641	谷坂	隆俊	352
武田	博清	370	田中	寅夫	525	谷本	親伯	272
武部	隆	376	田中	秀夫	164	多羅間	茂雄	319
武部	啓	233	田中	泰明	320	垂水	浩幸	322
竹安	邦夫	90,408	田中	文彦	335	壇辻	正剛	644
田坂	昌生	198	田中	仁	426			
田島	錦治	5,153	田中	正昭	522			
多田	博一	312	田中	雅一	412,475,477	千木良	雅弘	518

千坂修	200	寺島泰	278	富谷至	474,476
千葉勉	223,241,246	嘩道恭	185	友杉邦雄	528
千葉明朗	434,489	照山博司	558	友永雅己	583
中條善樹	334		と	豊島喜則	414
陳光斉	274			豊田久美子	670
	つ	上井真一	149	豊田昌倫	104
塚田和彦	278	藤定義	186	豊原治彦	369
塚谷恒雄	558	土岐憲三	274	鳥井清司	370
月田早智子	669	東郷雄二	74,407	鳥居雅之	192
月田承郎	232	藤堂剛	408,603	鳥養利三郎	11,14,471
辻雄	565	東野達	423	鳥湯隆三	234
辻文三	288	東畑謙三	470	トラウデン, D	70
辻正樹	455	東樋口護	283		な
辻井博	378	堂下修司	322	内藤静雄	431,491
辻本雅史	127	戸口田淳也	632	内藤虎次郎	95
津田謹輔	91,407	戸田海市	153	内藤正明	281
津田鉄雄	334	戸田圭一	521	内藤道雄	67,413
津田敏隆	608	戸部博	90,407	長井苑子	482
津田盛也	372	徳永宗雄	102	長尾真	313,685
津野洋	342	年光昭夫	461	長岡弘明	286
土屋和雄	306	登田隆	200	長岡康夫	255
筒井清忠	115	枡倉匡文	257	中居文治	167
堤定美	630	礪波護	112	中井幹雄	297
綱島良祐	459	富井政章	4	中井義勝	669
恒藤恭	8	富岡清	255	中尾一和	221
坪内良博	413,589	富田直秀	632	中川大	275
	て	富永茂樹	476,477	中川照真	255
丁津泰	565	富永惠	286	中川一	521
出口弘	169	富井洋一	425	中北英一	283,528
手塚哲央	423	富田克敏	193	中込良廣	424,571
寺尾武彦	194	富田憲二	542	中澤岩太	2
寺嶋正秀	194	富田眞治	321	中沢良夫	9
		富田博之	84,408	中島章子	159,162
		富田恭彦	67,406		

中 島 剛	335	中 村 俊 春	111	西 田 榮 介	200
中 島 皇	387	中 村 素 典	163	西 田 幾 多 郎	10
中 島 啓	183	中 村 泰 人	282	西 田 吾 郎	183
中 島 將 光	315	中 村 祐 司	426	西 田 孝 明	184
中 島 正 愛	287,517	中 村 行 宏	315	西 田 龍 雄	684
中 島 玲 二	567	仲 村 匡 司	357	西 田 利 貞	197
中 谷 和 彦	337	中 森 喜 彦	151	西 田 律 夫	359
中 務 哲 郎	103	中 山 宏 太 郎	221	西 原 英 晃	424
中 辻 博	336	中 山 昇	565	西 原 宏	684
中 坪 文 明	358	永 井 和	118	西 瀨 光 昭	413,592
中 西 麻 美	387	永 尾 雅 哉	362	西 牧 研 壯	571
中 西 一郎	190	永 田 和 宏	484	西 牟 田 祐 二	167
中 西 和 樹	328	永 田 誠	565	西 村 和 雄	387
中 西 重 忠	215	永 田 雅 嗣	565	西 村 和 雄	558
中 西 輝 政	69,406	永 田 豊	422	西 村 健 一郎	69,406
中 西 寛	152	永 益 英 敏	702	西 村 重 夫	413,591
中 西 正 己	614,616	永 持 仁	319	西 村 周 三	168
中 西 康	151	長 屋 政 勝	69,406	西 村 進	567
中 野 一 新	165	成 田 孝 三	116	西 村 直 志	282
中 畑 正 志	107	成 田 哲 也	614,616	西 村 善 彦	231
中 原 俊 隆	220	成 宮 周	236	西 本 清 一	330
中 原 紘 之	369	繩 田 榮 治	371	西 本 美 彦	74,412
中 原 勝	455			西 山 享	81
中 部 主 敬	293		に	西 山 孝	433
中 坊 徹 次	702	新 山 陽 子	376	西 山 良 平	76,412
中 村 泉	379	錦 織 成 史	150	西 脇 常 記	77,412
中 村 榮 太 郎	91,308	西 井 正 弘	410	西 和 田 公 正	81,406
中 村 薫	462	西 岡 孝 明	366	二 宮 正 夫	541
中 村 紘 一	105	西 上 実	410	蜷 川 虎 三	154
中 村 定 男	667	西 川 伸 一	233	丹 羽 太 貫	604
中 村 順 一	644	西 川 元 也	258	丹 羽 隆 昭	79,416
中 村 孝 志	229,243	西 澤 英 和	288	仁 保 龜 松	3
中 村 卓 史	542	西 嶋 光 昭	195		
中 村 達 雄	631	西 島 安 則	19		

	ぬ	橋本健治	339	濱田穰	580
		橋本弘藏	610	濱本なお	387
沼倉宏	303	橋本敏	295	早川尚男	408
沼田邦彦	355	橋本竹治	335	早川宏子	675
	ね	橋本信夫	238	林勇夫	369
根井雅弘	168	橋本学	525	林孝洋	352
根岸学	258	橋本佳幸	150	林民生	195
瀬津家久	282	長谷正當	109	林哲介	86,415
	の	長谷博友	576	林春男	529
		長谷川高士	373	林基治	584
野木達夫	324	長谷川利治	324	林行夫	413,590
野澤博	432	長谷川尚史	387	林力丸	359
野澤正徳	162	長谷川博一	335	林良平	684
野尻美保子	541	長谷川泰	1	速水正憲	408
野田章	466	長谷部伸治	340	原公彦	194
野田公夫	378	畑信吾	364	原随園	683
野田進	313	畑浩之	186	原田誠	427,493
野田亮	232	畑政義	83,407	半田哲郎	256
野中泰一郎	287,517	畑安雄	464		ひ
野潤正	370	波田雅彦	336	口合弘	218,240,244
野間昭典	216	幡野恭子	90	口置弘一郎	166
野村巖	673	八田夏夫	434	口置尋久	83
野村隆昭	184	服部峻治郎	15,16	日野龍夫	99
ノイマン, B	72	服部春彦	113	東邦夫	300
	は	服部文昭	78,413	東正彦	614,615
		服部良久	113	東谷公	338
灰野昭郎	410	服部律子	670	東山紘久	131,136
萩原朋道	310	花崎紘一	278	疋田努	196
萩原良巳	516	花田禎一	89,415	引原隆士	311
萩原理加	425	花谷清	427,491	樋口芳樹	194
狭間直樹	475,476	羽田亨	10,11,471,682	久本憲夫	164
橋田充	258	馬場正昭	88,415	土方弘明	183
橋本伊織	340	濱弘道	673	人見光太郎	557
		濱田耕作	10,470		

人見滋樹 483,485
 檜山爲次郎 328
 平井武 184
 平尾一之 328
 平岡武夫 683
 平岡眞寛 226
 平澤興 17
 平島崇男 192
 平田昌司 100
 平田孝 369
 平田龍幸 188
 平竹潤 463
 平藤哲司 301
 平野丈夫 200
 平野勇 277
 平野正雄 10
 廣井善二 457
 廣瀬正明 510
 廣田勇 190
 廣田襄 194
 廣田昌義 105
 心
 深尾浩次 86
 深尾昌郎 609
 深谷賢治 183
 福井勝義 71,412
 福井謙一 21,326
 福井次矢 242,247
 福井捷朗 413,592
 福井有公 220,639
 福岡和子 75,413
 福岡伸一 511
 福岡浩 518

福澤秀哉 360
 福嶋雅夫 320
 福田洋一 190
 福田善弘 672
 福谷茂 107
 福地義之助 480
 福中康博 434
 福間順 373
 福田猛 460
 福山秀直 237
 富士薫 461
 藤井栄 282
 藤井讓治 111
 藤井信孝 254
 藤井秀樹 167
 藤井正人 477
 藤井學 271
 藤井康雄 644
 藤井義久 357
 藤尾博重 297
 藤木裕 558
 藤嶋昭 427
 藤田和生 114
 藤田健一 89
 藤田耕司 74
 藤田茂夫 313
 藤田静雄 313
 藤田潤 234
 藤田昇 614,615
 藤田正勝 110
 藤田正俊 671
 藤田正治 356
 藤田昌久 560
 藤田稔 357

藤田薫顕 571
 藤谷築次 376
 藤林康久 259
 藤本孝 295
 藤本博 332
 藤吉好則 200
 藤原勝紀 130,136
 藤原建史 278
 藤原建紀 368
 藤原悌三 289,516
 藤原弘康 433
 伏木亨 362
 二井禎 372
 船越満明 320
 船橋新太郎 91,407
 船引卓三 332
 降簇大介 566
 布野修司 287
 夫馬進 112
 古川顯 165
 古川久雄 413,589
 古川良茂 381
 古阪秀三 286
 古崎昭 543
 古澤巖 365
 古澤保 525
 古庄卷史 225
 古田幹雄 565
 古原忠 303
 フォーゲル, J 473
 へ
 別所泰典 423
 ベッカー, C 70

松村 康生	511	三原 弟平	75,412	嶺 重 慎	188
松村 一男	525	三村 衛	518	美濃 尊彦	323,644
松本 英治	430	三好 郁朗	75,412	箕 島 弘二	293
松本 治	256	三好 功峰	238,246	御 牧 克己	102
松本 澄	405	三芳 秀人	361	宮内 弘	104
松本 孝芳	351	三輪 哲二	566	宮岡 伯人	115
松本 紘	609	三輪 嘉尚	256	宮岡 洋一	565
松本 雅彦	674	御崎 洋二	332	宮川 豊章	271
松本 勝	282	水内 亨	427,490	宮川 恒	359
松柳 研一	186	水垣 涉	109	宮崎 昭	367
松山 隆司	314	水崎 隆雄	185	宮崎 健創	435,491
松山 泰史	575	水谷 雅彦	109	宮崎 興二	405
間藤 徹	360	水谷 義	336	宮地 英紀	185
的場 敏博	152	水野 一晴	418,656	宮下 直彦	364
眞鍋 昇	367	水野 廣祐	413,592	宮 島 久雄	111
間野 英二	113	水野 清一	477	宮田 隆	200
間宮 陽介	414	水野 直樹	476	宮田 登	328
丸橋 良雄	72,416	水野 尚之	79	宮本 武明	460
丸山 圭藏	90,408	水野 昇	234	宮本 元	367
丸山 正樹	183	水野 眞理	72	宮本 英雄	8
万波 通彦	294,685	水間 長代	575	宮本 宗實	81,415
マークス, E	79	水間 満郎	375,571	宮本 盛太郎	69,413
マシューズ, ジョシ フイリッ	190	水山 高久	356	宮本 嘉久	86,415
み		溝端 佐登史	559	む	
三浦 孝一	338	道下 敏則	86	麥谷 那夫	476
三尾 直士	482	道旅 泰三	75,413	向山 毅	186,454
三上 章允	584	光谷 拓実	410	牟田 一弥	309
三上文三	512	光藤 武明	331	鞭 享	88
三木 邦夫	194	湊 和也	358	宗 像 豊哲	320
三澤 毅	428,573	湊 長博	219	宗本 順三	285
三島 嘉一郎	428,573	南川 高志	113	村形 明子	67,413
三瀬 和之	365	南 政次	566	村上 章	373
三野 徹	373	南 雅文	257	村上 哲明	199
		南 出 靖彦	567		

村上正紀	302	森義昭	378	柳谷俊	525
村上正浩	337	森澤眞輔	282	藪崎努	185
村山直	378	森下富士夫	329	藪下信	319
村瀬雅俊	543	森下玲児	651	矢部寛	297
村田幸作	513	森島績	332	矢持秀起	194
村中重利	88, 115	森島信弘	300	山内淳	408
村中孝史	151	森谷敏夫	410	山内龍男	357
村野藤吾	171	森永敏博	673	山内正敏	80, 415
村松岐夫	152	森棟公夫	557	山岡清	259
松本嘉雄	271	森本滋	150	山岡仁史	334
室田雄	566	森本芳則	409	山岡義生	227
ムーア, T	75	守屋和幸	366	山川健次郎	5
め					
日片文夫	584	森山裕丈	574	山岸常人	287
飯哲夫	198	森脇淳	183	山河重弥	379
メニル, E	67	諸岡明	301, 342	山岸哲	196
も					
毛利明博	86, 107	モータメド・エリ	297	山岸秀夫	200
元木奈雄	76	クテサビ・ワシ	315	山口巖	409
本山美彦	165	モリニゲアルケビチ	78	山口知三	104
望月新一	564	モンベール, G		山口正治	302
百瀬孝昌	194	や			
森明雄	582	八尾健	425	山口良平	89, 407
森健次郎	229, 246	八尾誠	185	山子茂	336
森重文	565	八木紀一郎	162	山崎あけみ	676
森眞一郎	321	八木芳之助	154	山崎高哉	126
森健	192	八坂保能	312	山崎稔	374
森時彦	473, 476	矢崎一史	360	山路敦	193
森友彦	511	矢澤進	352	山路勝彦	476
森知也	558	矢野智司	127	山下清	69
森正武	566	矢野秀雄	367, 380	山下謙智	648, 649
森眞理子	635	安井邦夫	406	山下隆男	523
		安岡孝一	598	山下富義	258
		安田浩一朗	91	山品元	296
		柳田充弘	200	山末祐二	353
		柳田玲子	255	山田耕作	185
				山田公	340

山田 勇 413,589
 山田 啓文 312
 山田 繁 574
 山田 孝子 70
 山田 誠 69,413
 山田 雅保 366
 山田 洋子 129
 山名 元 574
 山中 一郎 114,657,701
 山中 敏史 410
 山中 大 学 609
 山中 康裕 131,135
 山梨 正明 83,407
 山根 寛 675
 山邊 時雄 333
 山村 則男 614,617
 山室 信一 473,476
 山本 克治 299
 山本 克己 151
 山本 敬三 150
 山本 憲二 363
 山本 耕平 107
 山本 直一 410
 山本 裕美 169
 山本 雅英 334
 山本 衛 610
 山本 美越乃 153
 山本 靖 489
 山本 有造 476
 山本 行男 410
 山本 裕 324
 家森 幸男 410

ゆ

湯 浅 太 一 322
 遊 磨 正 秀 614,617
 湯 川 秀 樹 10,17,539
 湯 本 貴 和 614,618
 湯 山 哲 守 86
 由 佐 悠 紀 203

よ

横 尾 俊 信 458
 横 小 路 泰 義 292
 横 山 順 一 542
 横 山 俊 夫 473,476
 横 山 文 子 670
 義 家 敏 正 573
 吉 川 潔 431,489
 吉 川 真 司 701
 吉 川 忠 夫 474,476
 吉 川 恒 夫 292
 吉 川 榮 和 423
 吉 崎 武 尚 335
 吉 田 修 228,244
 吉 田 和 男 168
 吉 田 和 彦 115
 吉 田 起 國 425
 吉 田 郷 弘 332
 吉 田 潤 一 336
 吉 田 城 105
 吉 田 進 314
 吉 田 鐵 也 356
 吉 田 治 典 282
 吉 田 敬 之 183
 吉 田 彌 太郎 413,592

吉 田 善 章 427
 吉 野 雄 二 80,406
 吉 原 久 仁 夫 413,592
 吉 村 一 良 195
 吉 村 徹 464
 吉 村 允 孝 297
 吉 岡 一 男 151
 吉 川 左 紀 子 131
 吉 川 正 明 508
 吉 田 博 宣 356
 依 田 義 丸 67,406
 余 田 成 男 190
 米 井 脩 治 197
 米 森 敬 三 353
 ヨリッセン, E 72,412

ら

ラ ローズ, J 72

れ

レオン, J 81,409

ろ

六 鹿 宗 治 194
 六 反 田 収 72

わ

若 島 正 105
 若 谷 誠 宏 426
 若 林 靖 永 167
 脇 坂 知 行 293
 鷺 津 正 夫 292
 和 田 英 太郎 613,614,617
 和 田 俊 和 314

和田 裕 文 302
和田 洋 巳 483
渡 边 邦 彦 525
渡 边 信 三 184

渡 边 晃 525
渡 边 弘 之 355
渡 边 英 一 271
渡 边 雅 之 86

渡 边 尚 164
渡 边 宏 459
渡 边 史 夫 286
渡 部 好 彦 257

事項索引 (五十音順)

事 項	頁		頁
あ			
アクション	466	IRBP	612
アシウスギ	384	阿武山観測所	526
アトピー性皮膚炎	222		
アフリカ地域研究	401, 416, 654	い	
アフリカ地域研究会	655	イオン交換	571
アポ蛋白の機能	256	イオン交換機転	216
アメリカ合衆国政治社会史	118	イオンサイクロトロン波	492
アメリカ議会図書館	684	イオンサイズ認識	457
アメリカ現代史	79	イオン線形加速器	466
アメリカ小説	105	イオンチャネル	216, 256
アメリカ知識人研究	79	イオンビーム	341, 576, 662
アメリカの文学と文化	80	イオン表面相互作用	294
アメリカン・ルネサンス	79	イギリス型ソネット	72
アラビドフシス	198	イギリス近代史	79
アラブ史	113	イギリス小説	78
アルコール	219	イギリス文化	70
アルツハイマー病	239, 258, 463	イギリス文学	70
アレゴリー文学	75	イタリア演劇史	106
アレルギー	258	イラン・アフガニスタン・ パキスタン仏教美術調査	477
アンモニアガス	433	イラン文化史	113
問の交通論	68	インスリンファミリー	257
芦生演習林	383	インターネット	687
亜熱帯樹木	386	インターフェイス	423
甘味タンパク質	511	インターロイキン	232
安全管理	373	インド仏教思想	102
安定供給システム	433	インフレーション理論	542
安定同位体比精密測定用 質量分析計	613	医科大学	2
African Study Mono- graphs	655	胃・腸外科	234
		育種	366
		育種学講座	352
		育種方法	352

一次生産	351	医用高分子研究センター	628
一貫教育体制	263	医用材料	632
一酸化炭素	220	医用材料の力学物性	630
一般相対論	541,543	医用人工現実感 (VR) システム	630
遺伝	199	医用ロボット	631
遺伝医学講座	233	医療情報	245
遺伝子	206,255,256,257,258	医療薬理学	247
遺伝子異常	91	移植片対宿主病 (GVHD)	243
遺伝子-環境相互作用の解析	352	移植免疫医学講座	227
遺伝子組換え	352	限石成因論	193
遺伝子組換え実験	624	印欧語比較研究	115
遺伝子形質転換動物	624		
遺伝資源	382,383	う	
遺伝子工学	513	ウイルス	365
遺伝子診断	224,234,463	ウイルス蛋白	257
遺伝子制御	198	ウイルスベクター	244
遺伝子操作	365,509,512	ウイルス抵抗性	353
遺伝子損傷	494	ウイルス発癌	218
遺伝子単離	353	ウイルスフリー株	382
遺伝子地図	240	ウィンダム・ルイス	79
遺伝子治療	234,244	上野文庫	155
遺伝子導入	353	宇治川水理実験所	524
遺伝子ノックアウト動物	624	宇治分校	13
遺伝子ノックアウトマウス	215	宇宙	188
遺伝子発現	232,259	宇宙資源エネルギー	434
遺伝情報	372	宇宙放射線生物学	602
遺伝的不安定性	604	宇宙線物理学	187
遺伝的変異	581	宇宙論	542
遺伝病解析	624	海蜘蛛類	202
遺伝分析	352	雲岡石窟	477
移動体通信	314		
稲作技術	593	え	
医薬品化学	254	エキスパートシステム	245
医薬品原料	259	エスキモー語	115

エネルギー応用	432	MHD 発電	309
エネルギー機器	432	MU レーダー	607
エネルギー機能変換	490	LCA	423
エネルギー貯蔵	491	LC MARC	684
エネルギー開発	268	NMR	455
エネルギー材料	425	NO 合成酸素	480
エネルギー変換	329,425	X 線解析	256
エネルギー・物質利用	407	X 線結晶学	194
エマルション	511	X 線結晶構造解析	463,510,512,513
エリザベス朝演劇	70	X 線天文学	187
エリスロポエチン	362	X 線分光	454
エンドセリン	217		
英国小説	104	お	
英国の諷刺喜劇	72	オーストラリア現代詩	75
英詩	104	オープンスペーススラブ	642~645
英米演劇	68,104	オウィディウス	103
英米法	149	オフロード車両	374
栄養化学	362	オランウータン	583
栄養生理学	367	オンライン同位体分離	575
栄養問題	219	オンライン利用者用目録	686
液体固体ヘリウム	185	欧米文化表現	413
閲覧室から出火	682	応用システム科学専攻	323
遠隔講義	642~645	応用生命科学	350
沿岸海洋学	379	応用物性工学分野	333
園芸作物	351	応用分子工学分野	333
園芸植物	352	大宇陀観測所	188
演劇理論	104	大型コレクション	687
演習林関係資料	708	大潟波浪観測所	525
炎症	258	逢坂山観測所	526
ASIC 設計技術	316	岡林術式	228
HSF3	484	岡村教授譴責事件	139
HSF4	484	音環境	285
HSP47	484	音環境工学	280
MRI	242	音韻	99

音韻論と統語論	74	海洋生物学	201, 202
温度受容チャネル	91	海洋大循環系	190
温熱療法	226, 242, 485	海洋物理学	90, 190
音波特性	375	化学生態学	359
か		化学専攻	181
カウンセリング	130	科学哲学	117
カオス	186	化学熱力学	433
カキ属植物	353	化学反応の機構	194
カドヘリン	232	化学療法	483, 485
ガラス	328, 458	可換環論	81
ガラス転移	459	花卉	352
カルシウム代謝	226	夏期公開講座	478
カント哲学	67, 107	花卉や果実の品質	375
海岸海洋工学	271	核エネルギー	298
海岸・海域災害	521	核医学	226
外国学校出身者	141, 160	核医学・画像診断学領域	226
外国経済書講読	159	各種放射線増感剤	226
外国雑誌センター館	685	顎関節の機能	231
外国産樹種の導入	385	学際的共同研究	587
外国人教員任用法	473	学術資源	700
海産無脊椎動物	369	学術情報問題調査検討委員会	684
開所記念講演会	478	学生交流	723
海水の運動	190	核データ	573
解析理論	373	核特性	576
海底熱水口	368	核物質	571
概念表象	114	核プロセス	574
外部経済	378	核分裂	571, 573
界面	492	核変換	573
界面化学	434	核防護	571
回遊行動	368	核マトリックス	198
海洋	367	核融合	185, 298, 527
海洋観測船	190	核融合エネルギー	490
海洋資源エネルギー	433	核融合炉	489, 573, 574
		確率・統計的モデル	320

確率論	183	環境強度	293
加工・生産プロセス	434	環境構成材料学	282
火山活動研究センター	527	環境資源保全	377
化石	581	環境指標物質	371
化石エネルギー	433	環境浄化	371
河川工学	271	環境質制御	342
画像解析システム	204	環境質評価	342
画像情報データベース	686	環境情報	368
画像処理	596	環境情報工学	281
画像診断学	226	環境情報認知論	407
画像保管伝送システム	242	環境ストレス	508,510
画像認識・理解	314	環境制御	353
家族社会学	116	環境生態系	342
加速器	298,466,573	環境相関解析論	415
語りの構造	105	環境デザイン学分野	355,356
家畜飼養管理技術	367	環境デザイン工学	278
学旗と学歌	10	環境調査研究	383
学校教育法	13	環境動態	574
活構造	189	環境認識表象論	416
活性酸素	509	環境プロセス工学	338
活動銀河中心部	188	環境物性解析論	409
荷電粒子ビーム	311	環境変異原	604
過敏性肺臓炎	482	環境保全	268,410
上質茂試験地	385	環境保全技術	361
上室観測所	526	環境保全発展論	410
灌漑水路システム	373	環境問題	370
灌漑排水	373	環境リスク工学	282
感覚	199	関係解析	372
感覚運動系病態学講座	229	関西大学創立次第概見	1
環境	309,354	関西二帝国大学ヲ新設スル建議案	1
環境医学領域	219	関西文庫協会	681
環境応答機構	369	幹細胞システム	233
環境汚染物質	493	漢詩文	99
環境解析	410	感情現象	67

函数解析学	183	気相クラスター	194
岩石学	90, 192	基礎病態学講座	218
岩石成因論	192	貴重書庫	693
漢籍所在調査	478	希土類	572, 575
漢籍並びに漢字の電算処理の講習会	478	機能材料	293
感染・免疫学講座	218	機能材料設計	327
感染症	219	機能性材料	330
乾燥・貯蔵	375	機能性セラミックス	426
冠動脈形成術	222	機能性微粒子	339
冠動脈バイパス術	228	機能性無機固体材料	328
癌発生	218	機能性有機物質	194
癌抑制遺伝子産物	232	機能微細形態学領域	216
管理会計論	167	希薄気体力学	305
環論	81	寄附講座	23
		客員講座	141
		旧教養部	61
		旧石器時代	114
		球状星団	189
		教育関係論	67
		教育基本法	12
		教育財政及び教育政策	134
		教育史	127
		教育職員免許状	122
		教育相談	134
		教育人間学	127
		教育方法学	125
		教員適格審査委員会	12
		境界層レーダー	610
		凝集沈澱	571
		凝集系の理論	185
		凝集相	576
		強震動地震学	517
		行政学	152
		共生関係	202
き			
キャリア形成	133		
ギリシャ哲学	107		
機械工学・機械物理工学・精密工学関係資料	707		
機械システムのデザイン	296		
機械要素	297		
企画展示	708		
器官外科学講座	227		
気管支喘息	479		
気管支肺アスペルギルス症	482		
気圏環境工学	282		
気候システム	191		
技術講習会	467		
技術史	697		
技術史関係資料	706		
気象海象研究	524		
気象学	189		
気象環境	371		
寄生虫	586		

行政法	149	旭江文庫	689
競争機構	353	魚類学	379
京大(瀧川)事件	6,140	魚類飼育設備	379
京大会館	19	魚類資源の変動機構	368
京都大学医学部芝蘭会	212	魚類初期生活史	379
京都大学経済学会	156	近縁野生種	364
京都大学経済学叢書	156	近・現代ドイツ文学	79
京都大学経済論集	161	筋・骨格系病態学領域	229
京都大学後援会	716	筋末梢神経疾患	238
京都大学国際教育プログラム	24	銀河	188
京都大学七十年史	19	銀河物理学	188
京都大学農学部附属演習林報告	387	近世史	111
京都大学附属医学専門部	13	近世ドイツ哲学思想	107
京都大学附属図書館規程	684	近世文学	99
京都大学附属図書館利用規程	684	近赤外線分光分析	375
京都大学法学会	144	近代キリスト教思想	110
京都帝国大学史	10	近代市民社会	73
京都帝国大学新聞	6	近代西欧科学史	117
京都帝国大学防衛団	10	近代日本政治思想史	69
京都帝国大学法学会	144	近代フランス文学	78
京都哲学会	96	金融システム	165
京都文学会	95	菌類	364,372
京都法学会	144	CALL	644
京都法学会雑誌	145	CAD/CAM	630
胸部悪性腫瘍	485	KING	245
胸部外傷	481	Kyoto University Economic Review	154
共有環境システム論	414	QOL (quality of life)	606
魚介類	369		
極限熱輸送	568	<	
虚血性心疾患	222,228	クオーク	186,541
居住空間工学	283	クラススイッチ再構成	231
巨大災害過程	530	クラミドモナス	198
巨大災害研究センター	529	クラスターイオン	341
巨大磁気抵抗効果	457	クリーンエネルギー	492

グリア細胞	216	経済法	150
クルーガー図書館	683	経済論叢	153, 156
グループ・ダイナミックス	84	計算機科学	83
クロロフィル	198	計算機科学コース	317
櫛クラゲ類	202	計算機工学講座	321
組換え DNA 実験	624	計算機実験	609, 610
組換え DNA	467	計算物理学	434
訓話	99	刑事学	151
群管理システム	375	刑事訴訟法	151
KUINEP	24	形質転換植物	360, 465
		傾斜地保全	520
け		形成外科学領域	231
ゲームの理論	557	形態形成	199
ケインズの経済学	69, 162	形態形成機構学領域	215
ゲノム解析	465	系統関係	372, 580
ゲノムネットデータベース	465, 468	系統進化	193
サービス		系統分化	365
ゲル化特性	509	系統分類	353
ゲルマン語学	72	芸文	95
計画プロセス論	283	刑法	151
経営	166	計量経済分析	557
経営形態	376	外科バイオロジー学	230
経営情報	377	激変星	188
経営情報システム	163	血圧制御	631
経営史	166	血液学	221
経営組織	166	血液疾患	221
経学	101	血液浄化療法	244
景気循環理論	162	血液透析療法	244
景観設計	373	血液病態学領域	221
経済経営情報システム (ECOMIS, エコミス)	156	結核	481
経済英語	157	結晶構造	193, 195
経済システム進化論	169	結晶性高分子	455
経済史	163	結晶成長学	193
経済政策	164	結晶物理学	185
経済発展	592		

結晶粒界	295
決断科学	247
決定分析	631
限界値分析	631
研究者養成コース	143
研究留学生特別コース	267
健康保護	268
言語	230
言語環境相関論	416
言語情報	407
言語情報処理	314
言語哲学	67
言語類型論	84
原索動物	202
元雑劇	77
原子・分子の分光	295
原子核	298, 542
原子核物理学	187
原子核論	186, 542
原子レベル制御	662
原子力	375
原子炉	298, 568
現代経済学	168
現代神学	110
現代日本産業論	168
現代日本社会論	67
建築・地域空間史学	287
建築・場所論	288
建築基礎構造設計	286
建築計画	285
建築工学関係資料	707
建築情報システム	284
建築生産	286
建築設計	285

原爆災害総合研究調査班	11
憲法	149
KYO	199

こ

コヒーレント光源	491
コヒーレント放射	575
コミュニケーション行動	584
コミュニケーション論	116
コムギ	364
コムギ近縁野生種	365
ゴリラ	582
コレステロール	512
コンピュータグラフィクス	83
コンピュータネットワーク	597
コンボジットレジン	630
高圧合成法	458
広域文化地域論	413
抗ウイルス性ペプチド	255
高位論理合成設計	315
公益的機能	378
高エネルギー原子分光学	186
高エネルギー素粒子物理学	85
高温液体ナトリウム	495
高温超伝導	458
高温超伝導体	457
高温二次電池	88
高温不稔	381
公開講座	266, 384, 698
光学活性体薬物	255
工学研究所	9
工学的極限状態	432
甲殻類	202
甲状腺	224

高活性触媒	331	構造材料学	271
高脂血症	224	構造設計	285
高齢化社会	224	構造物震害研究	518
高機能性分子集団	195	高速プラズマ流	191
公共経済学	168	抗体遺伝子	231
工業化学関係資料	707	抗体触媒	464
工業政策	164	耕地生態系	352
工業教員養成所	18	降着ガス円盤	189
公共政策	141	腔腸動物	202
高強度・高伝導複合材料	456	交通システム	275
公共図書館	133	行動の進行	366
航空宇宙機の動力学	306	高等教育	128
航空宇宙工学	304	高等教育研究	641
口腔機能病態学領域	230	高度画像情報	324
口腔腫瘍	231	高度情報化社会	317
高血圧症	221	鉱物学	193
膠原病性間質性肺炎	482	鉱物資源	433
抗原レセプター	219	高分解能分光	194
考古資料	703	高分子	185, 186
後鰓類	202	高分子機能物性	329
抗酸菌感染症	482	高分子ゲル	459
高次脳科学講座	234	高分子材料特性	460
高次脳機能	237	高分子電解質溶液	459
高次脳形態学領域	234	高分子の結晶化	459
高次脳神経機能	215	高分子光機能	334
公衆衛生学領域	220	高分子物理化学	459
洪水災害	521	高分子物理学	185
合成反応	195	高分子分子特性	460
恒星物理学	188	高分子溶液学	335
高選択的有機合成	255	高分子力学	335
酵素	363, 584, 585	高分子理論物性	335
酵素遺伝子	255	高齢化社会	91
光増感色素分子	88	語学実習室	65
構造工学	271	呼吸器感染症科	485

呼吸器外科	485	固体 NMR	459
呼吸器内科	485	固体 NMR 法	194
呼吸酵素系	220	個性の解釈学	68
呼吸不全	483	固体バラ水素	194
古教会スラブ語	103	固体表面	194
国際防災共同研究	517	固体を識別	375
国際防災の十年	516	古代ウイグル語	115
国語学	76	古代キリスト教思想	109
国際会計論	167	古地磁気学	90
国際金融システム	165	骨粗鬆症	221
国際経済政策	165	骨軟部悪性腫瘍	229
国際交流	267, 711	子ども	127
国際交流委員会	712	近衛家本	689
国際交流会館	21, 729	古文書シリーズ	698, 709
国際交流プログラム	664	雇用・労働システム	164
国際災害情報網	531	昆虫	365
国際私法	151		
国際政治学	152	さ	
国際地域環境医学講座	219	サービス事業体	377
国際地域環境医学領域	219	サイクロトロン	187
国際取引法	151	サイバネティックス	316
国際農業分析	165	サテライト	644
国際法	150	サルコイドーシス	479, 482
国際法政文献資料センター	142	サルバルサン	6
国際マーケティング	167	サンスクリット文学	101
国際野外生物学実習	613	災害観測実験研究センター	523
国際予防栄養医学	418	災害気候	522
国産材の活用	354	災害史・災害変貌機構	530
極低温	467, 468	災害情報システム	530
国土保全	268	災害水象研究	523
国宝	703	災害に関する学理の研究	514
古生態学	193	災害リスクマネジメント	516
戸籍原簿	700	材質制御	303
古脊椎動物	193	最先端エネルギー	432

財産システム	165	澤柳事件	3,139
最適システム設計・生産	297	産官学連携	664
栽培技術	352	三高資料室	65
栽培システム	354	産業連関表	162
栽培植物	364	酸性雨	371
栽培植物の起原	365	産地間競争	376,378
栽培理論	352	産地形成	376
裁判法務	141	山地保全学分野	355,356
細胞がん化	232	山地災害環境研究	520
細胞間接着装置	232	産地別試験地	387
細胞構造	375	産肉生理学	380
細胞生物学	90		
細胞毒性	513	し	
細胞内超微細構造	90	ジーンバンク	365
細胞の物理特性	375	ジオフロント工学	274
細胞培養	360	シグナル伝達	198,232,254,465
細胞分化	513	シグナル伝達系	604
細胞分裂	199	システム信頼性・安全性 解析	296
財務会計論	167	シナプス	259
材料科学	301	ジャカルタ連絡事務所	588
材料工学	300	ショウジョウバエ	603
材料構造物性	303	シロアリ	371
材料設計	301,430	シロイヌナズナ	198
材料の開発・加工	434	シングルフォトン・エミ ッションCT (SPECT)	226
材料物性	302	シンプレクチック構造	82
材料プロセス	339	潮岬風力実験所	524
材料物理	303	史学研究会	96
作業療法	243	自学自習	157
作付体系	354	視覚認知	584
桜島火山観測所	527	視覚病態学領域	230
鎖状有機分子	86	歯科鑄造技術	631
雑種	582	紫外線	233
雑草	353	磁気核融合	426
砂漠化	354	磁気共鳴法	194

色彩	375	自然災害	514
色素性乾皮症	233	自然災害総合研究班	530
子宮頸癌根治手術	228	自然史	697
磁気流体不安定性	426	自然史関係資料	705
資源	268	自然発症てんかんラット	240
資源植物	364	自然風土	378
資源培養技術開発	368	仔稚魚	368
資源問題	370	視聴覚メディア	131
嗜好性	511, 512	実験小動物	366
自己免疫	232	実験水槽室	201
脂質分子集合体	256	自動化	375
糸状菌	365	自動制御	310
実習教育	382	支那学会	96
地震学	90, 189	地盤環境工学	288
地震活動	525	地盤工学	272
地震工学	274	地盤防災解析研究	519
地震災害研究	517	地盤災害研究	518
地震テクニクス研究	525	編々学	193
地震動研究	525	社会環境	413
地震発生機構	190, 526	社会環境システム論	414
地震予知	190	社会基盤整備	268
地震予知計測	526	社会教育	132
地震予知研究センター	525	社会教育主事	132
地震予知情報	527	社会経済学	422
地震予知データ総合処理	526	社会構造	202, 406
地すべりダイナミクス	520	社会思想史	164
次世代クリーンエネルギー	493	社会情報処理	406
姿勢	581	社会心性	416
自然・社会環境防災	517	社会生態	413
自然・人間共生基礎論	406	社会調査	132
自然環境論	407	社会統計学	69
自然気胸	483	社会人間学	115
自然現象の予知・予測	514	社会発展	406
自然構造基礎	408	社会復帰	246

社会文化生態力学	590	循環器学	224
社会法	151	循環器病学	221
社会予防医学講座	219	循環生理学領域	217
重イオン	542	循環病態学領域	222
重合反応	334	初期宇宙	86
集積化機能メモリデバイス	662	消化・吸収	512
集団生物学	199	生涯学習	700
自由電子レーザー	490	生涯学習計画	133
自由な学問研究	137	渉外関係法	151
宗教・社会相関	416	消化器外科学領域	227
修復遺伝子	603	消化器病学	221
重要文化財	688,703	消化器病態学領域	223
収量・土壌マップ	375	商事法	150
重力	187,189,543	照射効果	570
重力多体問題	189	照射損傷	574
儒学思想	99	少数多体系	466
受精	200,234	小説理論	104
出血性・血栓性疾患	222	照明設計法	287
術中照射療法	226	常設展示	698
種子交換	385	蒸発散	374
出版物	709	蒸発濃縮	571
種分化	198,581	情報学	317
樹木—土壌系	370	情報学科	316
腫瘍	226	情報基礎学講座	321
腫瘍系	225	情報工学専攻	321
腫瘍外科学領域	234	情報システム講座	322
腫瘍生物学講座	217	情報処理演習室	65
腫瘍組織	259	情報通信システム	324
受容体蛋白質	235,256,257	情報発信系	702
腫瘍治療	576	情報物質	372
狩猟採集民	654	植生地理学	656
狩猟採集民社会	71	食道外科	234
準安定相	88	触媒設計工学	331
準ヘリカル対称磁場	426	触媒有機化学	331

食品	350	神経系	199, 225, 235
食品関連微生物	363	神経物質受容体	259
植物栄養学	360	神経行動学	238
植物学関係資料	705	神経細胞死	258
植物細胞	360	神経生物学領域	235
植物細胞構造学分野	355, 357	神経精神医学	238
植物細胞の形態形成	90	神経ネットワーク	215
植物情報	374	神経分化	232
植物ブランクトン	369	神経変性疾患	238
植物分子生物学	360	神経保護作用	258
植物分類学・形態学	90	神経臨床電気生理学	230
植物ホルモン	361	人口移動	116
食糧生産の増強	352	人工衛星測位システム (GPS)	375
食糧の増産	354	人工関節	229
食連星	188	人工血管	483
除草剤	353	人工格子	457
白浜海象観測所	524	人工格子結晶	457
白浜試験地	386	人工骨材	229
芝蘭会	212	人工細胞工学	337
自律走行車両	375	人工細胞膜	492
資料開発系	701	人工心臓	292
資料基礎調査系	701	信号伝達機構	217
磁力線トポロジー	492	人工内耳手術	230
進化	199	人工内臓	631
進化経済学	161	人工軟骨関節	631
新規機能性無機材料	89	人口爆発	378
新規産業創出	660	人工膝関節	632
新規電子材料	312	心筋細胞	216
真菌・細菌感染症	481	心臓血管外科学領域	228
神経学	238	腎臓病	221
神経因性膀胱	228	清朝史	77
神経回路形成	256	振動・騒音	297
神経化学的研究	238	心不全	221, 222
神経活性物質受容体	235	人物交流	717

人文	477
旧人文科学研究所	471
人文科学研究所50年	472
人文学報	477
心理医学	238
心理医学・神経行動学	238
心理教育相談室	123, 130
心理教育臨床	134
心理療法	130
心理臨床	135
森林	354
森林育成学	387
森林育成学分野	355
森林科学	354
森林管理学講座	354, 355
森林資源学講座	355
森林情報学	387
森林情報学分野	355
森林水文学	371
森林生産学講座	354, 355
森林生態系	370
森林生物学分野	355, 356
森林・人間関係学分野	354, 355
森林のガス交換機能	371
森林の洪水低減機能	371
森林利用学分野	355
COE	569
COPD	480, 481
CD-ROM	65, 686
CTシミュレータ	242
C4植物	364
GEOTAIL衛星	609, 610

す

スーパーコンピュータ	596
スコラ哲学	107
ストレス蛋白質	484
スピネコウ	573
スペース・プラズマ	609
スマトラ	116
スラヴ語	78
水域環境工学	282
水産生物標本館	379
水産増養殖	379
水質の管理・制御	373
水質変動	373
水質保全対策	374
水素吸蔵材料	491
膵臓外科	234
水族館	201
水素結合	572
隋唐の政治社会史	112
水分動態	371
水文・水資源工学	275
水利構造物	373
数学・数理解析専攻	179
数値解析学	183
数の認識	583
数理科学	319
数理計画法	320
数理現代経済分析	167
数理工学コース	317
数理工学専攻	318
数理的思考	317
数理電波科学研究部門	610
数理認識	416

数量モデル	162	政治過程論	152
鈴鹿本今昔物語集	688	政治経済学科	5
せ		政治史	152
ゼニゴケ	360	政治思想史	152
セファルディ	73	清酒	509
セルラーゼイ	371	静脩	684
センサー	433	生殖	585
センター・オブ・エクセ レンス	23	生殖機構	353
生育診断法	352	生殖細胞	234
生育促進	353	生殖生理学	366
生化学	195, 358, 493	生殖発生医学領域	225
生化学反応の機構	462	成人・老年病病態学領域	224
生活環境施設整備	374	成人病	221
生活空間	407	精神疾患	246
生活空間環境	287	精神分裂病	246
生活史	202, 365	精神分裂病・感情病	239
生活文化	589	整数論	81, 182
星間雲	187	生態学	370
制癌性化合物	576	生態学的研究	383, 589
生業生態論	417, 655	生態環境	413
制御技術	353	生態系	353
制御工学	306	生態人類学	654
制御システム	320	生体医療工学	430
清家文庫	688	生体機能材料	329
政策目標	377	生体構造医学講座	215
青酸	220	生体高分子	194, 359
生産工学	296	生体情報科学講座	215
生産システム	354	生体情報科学領域	215
生産と利用	352	生体触媒	463
生産プロセス	340	生体制御医学講座	216
生産予測	352	生体濃縮	576
政策科学・行政学	220	生体の内部環境の制御	631
政治学	152	生体膜	465
		成長	586

成長円錐とシュワン細胞	216	世界経済システム	165
生長制御	364	脊椎運動ニューロン	92
制度の経済学	162	設計の方法論	296
生物科学専攻	181	石刻史料	112
生物学的精神医学	238	節足動物	202
生物環境システム論	414	接着前処理	630
生物間相互利用	372	接着分子	216
生物圏	408	摂動角相関法	575
生物材料	354	設備設計	288
生物材料科学	350	遷移金属錯体	337,461
生物材料化学分野	355,358	遷移金属	89
生物材料機能学講座	355,357	遷移状態アナログの合成	464
生物材料工学講座	355,357	全学共通科目	61
生物材料生産システム学 分野	355,357	全学共通科目レビュー委 員会	23
生物材料設計学分野	355,357	専修コース	143
生物生産工学講座	374	染色体	352
生物有機化学	359,361	染色体異常	603
性分化	360	染色体進化	581
政法協会	144	先進材料	430
精密加工	297	先進電子材料	660
生命科学	199	喘息	480
生命環境	408	先端機能高分子	332
生命相関	407	先端・国際医学講座(客 員)	239
生命の生理科学機構	367	先天異常	218
西洋古代哲学	107	先天異常標本解析センター	240
西洋美術史	68	先天聾	230
西洋部	475,477	前頭連合野の機能	91
西洋文化研究所	470,471	専任講座	263
西洋法制史	149	線量評価	571
生理活性物質	328,359,361		
生理活性ペプチド	508	そ	
生理生態	352	相関数理	416
生理・生態的特性	353	臓器移植医療	227
生力学的研究	632	臓器及び免疫細胞へのタ ーゲティング性	630

総合解剖センター	240
総合体育館	19
総合人間学	57
総合博物館	697
総合人間学部関係資料	708
総合法政分析講座	141
総合防災研究	516
相互関係	372
相互作用	408
走査トンネル顕微鏡	194
造山運動	192
創傷治癒	231
増殖性硝子体網膜症	230
創造性教育	661
総長公選制	5, 139
総長特別補佐	34
相転移	195
相平衡	195
創薬基礎科学	463
創立百周年	24
測地学	189
蔬菜	352
組織因子	585
組織接合性材料	629
組織培養	382
塑性加工	292
租税法	149
卒業論文	158
卒業論文制度	138
素粒子	186, 187, 541
素粒子論	186
損害賠償法	69

た

ターナー文庫	142
タケ	371
ダニ	359
タバコ感受性	481
タンパク結合	255
タンパク質	258, 352, 353
タンパク質工学	510, 512, 513
第一原理計算	491
対外受精	225, 228
大学院重点化	22, 263
大学院特別研究生	11
大学院脳統御医科学系専攻	211
大学間学術交流協定	714
大学教育評価	639
大学教授法	639
大学成人教育	132
大家畜	366
大学科制	263
大気・熱環境工学	279
大気環境問題	423
大気災害研究	522
大気大循環	191
大気潮汐波	608
大気波動	190
第三高等学校	13
第三高等学校	138
第三次救急施設	242
第3年次編入学制度	141
代謝	259
代謝・栄養疾患	245
代謝系	225
代謝調節機構	484

大正デモクラシー	5	炭酸固定	360
耐震	571	炭酸同化	364
耐震機構研究	518	男子不妊症	228
耐震基礎研究	518	男女共学制	11
耐震設計	289	胆道・肝外科	234
代数解析学	183	単糖誘導体の合成	89
代数学	182	蛋白質立体構造	464
代数幾何学	182		
代数群の表現論	82	ち	
耐性機構	352	チタン	433, 631
大都市の機能と構造	116	チタンのレーザー溶接	630
第二種入学制度(大学院)	134	チベット仏教思想	102
耐風構造	523	チユルク系言語	115
太陽	188, 204	チロシンキナーゼ群	233
太陽系	187	チンパンジー	582, 583
太陽系物理学	204	地域環境資源	377
太陽地球系科学	206	地域計画	374
太陽風	191	地域産業分析	165
太陽物理学	188, 204	地域水利システム計画	529
体力の老化現象	91	地域生活空間	287
卓越した研究拠点	23	地域生態論	416, 655
多次元時空間理論	186	地域動態論	418
多雪寒冷地	585	地域農業	376
谷村文庫	689	地域発展	413
田畑輪換	381	知覚心理学	84, 114
多文化教育	128	地殻の構造	190
多変数関数論	81	地殻物理学	189
多変数複素解析学	82	地殻変動	526
多面的機能	377	地下構造	190
多様体	182	地下水	374
脱髄性神経疾患	238	地球化学	88
単一原子分析法	454	地球環境	268
炭化水素化学	330	地球環境調和型プロセス ング	434
短期留学生	725	地球環境動態論	415

地球環境変化	516	中枢神経伝導路	235
地球規模水文循環	528	中枢神経の再生	216
地球規模の環境変化	514	中性子	570, 572, 573, 575, 576
地球圏	408	中性子回折	526
地球工学	268	中性子線回折実験	256
地球磁場	191	中世ヨーロッパ	72
地球潮汐	190	中世ロシア語	103
地球テクトニクス	192	中性粒子入射加熱	496
地球電磁気学	205	中毒学	220
地球内部研究	526	中密度流体	194
地球物理学	189	超ウラン元素	573, 574
地球惑星科学専攻	180	超越数論	83
畜産技術論	380	超音速空気力学	305
地圏工学	282	聴覚	236
地磁気	190, 205	聴覚・言語病態学領域	230
知識ベース	465	聴覚認知	583
地質学・鉱物学・古生物学関係資料	706	超弦理論	85, 186, 541
地図・民族資料	704	超高層電波工学研究部門	609
知的財産権	665	超高層物理学研究部門	608
知能化	375	調査船	379, 613
知能システム	324	超伝導	432, 433, 543
知能情報学講座	322	超伝導応用機器	309
知能情報処理	298	超伝導体	194
痴呆	239	超並列計算	610
痴呆疾患	238	超流動液体ヘリウム	432
中央アジア史	113	超臨界水	456
中間子論	539	超冷中性子	572
中国学データベース	478	超 LSI	432
中国古典詩	100		
中国東南諸方言	100	て	
中国文字学	77	データベース	206, 259, 596
中古文学	76	データベース構築論	163
中枢神経系	92	ダイケア	246
中枢神経機能可塑的变化	257	デイドロ	106

テクスチャー	511	電子物性	489
テクトニクス	193	電子メール	596
デバイス	432	電磁場と力学場	430
低環境負荷農業	374	電流駆動	426
低酸素性肺血管攣縮	483	電力の変換と制御	310
低酸素性肺高血圧	480	転写因子	198, 463
低次元スピン	489	天体核物理学	186
低次元多様体のトポロジー	82	伝達物質	217, 235
底生動物群集	202	天敵利用	372
呈味物質	369	伝統食品	509
適応・学習制御	324	伝統的農業	353
適応機構	353	天然更新機構	384
鉄筋コンクリート構造	286	天然繊維工学分野	355, 357
鉄鋼精錬プロセス	433	天然有機化合物	255, 362
鉄骨構造物	289	天皇事件	15
てんかん	239	電波科学計算機	607
電気化学	88, 330, 425	電波工学	314
電気化学工学	434	天文学	188, 189
電気生理学的	238	電力輸送技術	310
電気電子回路	310	DNA	337, 352, 575
電気特性	375	DNA 修復機構	233, 602
電極触媒機構	492	DNA 多型解析	585
電顕的検索	218	DNA 認識機構	462
電子エネルギー損失分光	194	DIWPA	612
電子エネルギー損失分光法	454	T リンパ球	482
電子カルテ	245		
電子教科書	245	と	
電子顕微鏡	494	トーマス・マン	104
電子顕微鏡の解析	217	ドイツ近代の思想	78
電子構造	454	ドイツ詩	68
電子線分光型超高分解能	468	ドイツ抒情詩	75
電子顕微鏡	468	ドイツ中世史	113
電子図書館システム	685	ドイツの中世演劇	71
電子ファイリングシステム	685	ドイツ中世文学	72
電子ビーム	489		

ドイツ語文学・思想	75	動物福祉	586
ドイツ文化研究所	471	東壁	681
トゥール文庫	142	東方学報	477
トカマク装置 (WT 3)	426	東方部	473,476,477
ドラッグデリバリーシステム	258	東方文化学院京都研究所	470
トマス・アクィナス	107	東方文化研究所	470,471
トランスジェニック動物	624	動脈硬化	224
トランスジェニックマウス	215	動脈硬化症	221
トリチウム	571	東洋学	3
トルコ民族史	113	東洋学文献類目	478
同位体製造	571	東洋文化財保全	410
投影法	135	動力学	194
遠縁雑種	352	動力システム	428
冬季森林調査	384	登録・管理	700
道具使用	582,583	同和教育等人権教育	132
統計遺伝学	366	特許講習会	664
統計学	162	徳島地すべり観測所	524
統計力学	87	特定保健用食品	512
統合環境	413	特発性間質性肺炎	479
統語構造	74	特発性肺線維症	482
糖質関連物質	363	特別企画展示	698
唐宋変革	77	徳山試験地	386
動態環境論	405	独立研究科	23
唐代思想	77	都市衛生工学	279
疼痛治療	229	都市環境安全工学	282
東南アジア	587	都市基盤システム工学	273
東南アジア学フォーラム	593	都市施設計画	273
東南アジア研究	595	都市空間安全制御	517
東南アジアセミナー	593	都市代謝工学	278
東南アジア地域研究	413	都市耐水研究	522
東南アジア地域研究講座	588	都市地域計画	275
糖尿病	221,223,245	都市・地域水文循環	528
動物学関係資料	705	土質力学	272
動物地理	656	都市の生活空間	69

都市問題	268	南方科学研究所	12
土砂・環境研究	524		
土砂流出災害	522	に	
土壌	372	ニオブ	433
土壌環境	372	ニホンザル	582,585
土壌資源	372	ニューロン	235
土壌水の状態	373	西田哲学	110
土壌調査	372	日欧文化交渉史	76
土壌肥沃度管理法	372	日常言語の認知機能	84
土地生産力	354	日独文化研究所	470
土地利用	354,374	日周期活動	202
土地利用計画	374	日米ワンデイセミナー	685
突然変異	494,603	日本海ゼミ	380
突然変異誘発因子	352	日本教育史	127
鳥取観測所	526	日本近現代の政治史	118
「飛び級」制度	265	日本近世絵画史	110
土木材料	373	日本近代哲学	110
土木基礎情報学	270	日本経済論	168
屯鶴峯観測所	526	日本語・日本文化教育	636
		日本政治外交史	152
な		日本中世政治史	76
ナチズムや天皇制	73	日本の学習文化	128
ナノアナリシス	329	日本部	472,476,477
ナノインデンテーション	494	日本文化環境論	412
ナノメゾ微細構造	493	日本文化論	76
内視鏡	246	日本法制史	149
内視鏡的治療	246	日本歴史考古学	114
内燃機関	293	二枚貝類	202
内発的発展	656	尿路結石	228
内分泌代謝学	221	人間環境	413
苗生産	353	人間環境設計学	281
中院家本	689	人間形成	406
内陸アジア研究施設	98	人間形成論	406
軟体動物	202	人間行動	406

人間社会論	405
人間存在基礎論	405
認識人類学	71
認知・社会・文化心理学	84, 114
認知機構	407
認知行動脳科学	235
認知情報処理	407
認知発達研究	130

ね

ネーデルランド絵画	111
ネマトーダ	372
熱帯	371
熱機関	428
熱効率向上	429
熱帯雨林	656
熱帯作物	371
熱帯林	354
熱輸送機構	294
熱帯林環境学分野	354, 355
熱電変換	433
熱流体科学	429
熱流体力学	432
熱焼システム	429

の

ノーベル賞	17, 21
ノックアウトマウス	236
脳	199
農家経済	378
農業経営	376
農業システム工学分野	374
農業思想	379
農学	351

農学部関係資料	708
膿胸	483
農業水利	374
農業生産・経営システムの最適化	374
農業生産物	375
農業生態学	656
農業生態系	371
農業の生産性	373
農業の本質	379
農業保護	377
農業用水	373
農業用ロボット	375
農耕地	353
農耕民	654
農作物	351
農作業の高度自動化	374
農村地理学	116
脳血管障害	238
脳血管内手術法	238
脳血流測定法	238
脳腫瘍の治療	238
脳神経外科学領域	238
脳病態生理学講座	237
農村開発研究	591
農村地域の環境問題	374
農村づくり	374
農地の水環境	373
脳内サイトカイン類	257
脳内生理活性物質	584
農薬	350

は

バーコレーション臨界現象	425
バイオサイエンス	248, 250, 350

バイオ人工臓器	629	発生の分子機構	232
バイオテクノロジー	350	発生生物学	207
バイオマス	350, 371, 422	発生発達医学講座	225
バイオマスエネルギー	374	発生病態学講座	218
バイオリアクター	363, 493	発生病態学領域	218
ハイテクインキュベーター	665	発達小児科学領域	225
ハイブリッド型人工骨	632	発展途上国	219, 378
パタスモンキー	582	波動光学	573
ハチェック文庫	142	羽田記念館	98
バックエンド	574	場の理論	85
バックナンバーセンター	684	繁殖生態	202
パッチクランプ法	216	阪神・淡路大震災	516
ハドロンの多体系	186	半単純代数群	81
ハンセン氏病患者	223	半導体電子物性	312
バンコク連絡事務所	588	反応機構	195
肺移植	483	反応工学	339
胚移植法	225, 228	π 共役系	460
肺癌	479, 483	Publ. Seto Mar. Biol. Lab.	201
肺気腫	479, 480, 483		
配偶子形成機構	215	ひ	
肺結核	483	ビームの物理	466
肺高血圧	480	ピコ秒ダイナミックス	194
肺腫瘍	479	ヒスタミン	258
肺真菌症	482	ヒスタミン合成酵素	258
肺線維症	479	ビッグバン	187
肺胞蛋白症	484	ヒットライト語	115
配位子設計	457	ヒト	603
配列有機分子集合体	195	ヒト・ゲノム解析	624, 625
破壊力学	430	ヒト化	578
箱庭療法	135	ヒト疾患モデル動物	240
島島	201	ヒト胚子コレクション	240
八放サンゴ類	202	ヒト発癌ウイルス	218
鉢虫類	202	ヒドロ虫類	202
発がん抑制物質	362	ヒビ	581

ヒューマン・マシン・システム	423	非中性プラズマ	427
ヒンドゥー教	102	非定型抗酸菌症	479, 481, 482
非可逆現象	85	泌尿器病態学領域	228
比較教育学	591	皮膚病態学領域	222
比較言語学	74	微分幾何学	182
比較宗教哲学	71	微分方程式	182
比較農業	370	非平衡系物理学	543
比較認知科学	114	非平衡統計物理学	186
比較文化	412	肥満	223, 362
東アジア経済・経営システム	168	肥満細胞	258
東アフリカ都市	116	肥満症	221
光・温度ストレス	353	びまん性汎細気管支炎	480
光応用計測	315	表象分化	68
光機能材料	313	病態代謝栄養学領域	223
光物性	185	表面改質	629
光量子電子工学	313	表面処理	301
被害抑止システム	530	平松家本	688
非結核性肺感染症	479	微小重力環境	434
非線形力学系	320	微粒子	339
非線形システム	309, 311	病態生物医学領域	218
美術資料	704	病理組織学	218
微小核アッセイ法	485	微量金属元素	259
微生物	337, 338, 360, 361, 363, 372	微量元素	220, 371
微生物化学	464	疲労やクリーブ	294
微生物感染症学領域	218	品質管理技術	375
微生物酵素	464	品質向上	353
線形可積分	83	Be 星	188
線形光学	458, 491	P3実験室	625
非線形固体	430		
非線形動力学	85, 186	ふ	
非線形な多体系	320	フェムト秒	491
非線形・非均衡	496	フェロモン	366
非線型偏微分方程式	184	フォトニクスデバイス	662
非弾性構成式	430	プシコロギア (Psychologia)	130

フラーレン	461	不斉合成	461
ブラゲマティズム	106	附属動物実験施設	239
ブラズマ	425, 426, 435	物質分離・精製	339
ブラズマ基本物性	86	物質移動	374
ブラズマの加熱	489	物質・エネルギー相関	415
ブラズマ物性	312	物質環境相関論	415
ブラズマ物理学	185	物質機能相関	415
ブラズマ分光計測	662	物質文化	656
ブラック散乱	573	物質変換能	360
ブラックホール	86, 543	物質の循環	370
フランス・スピリチュアリズム	109	物性論	543
フランスの文学・教育・宗教問題	79	物理学・宇宙物理学専攻	180
フランス近世・近代	113	物理気候学	189
フランス語学	74	浮遊生物群集	202
フランス象徴詩	75	分化	199
フリーラジカル	494	文化・社会環境論	409
ブルースト	105	文化環境	413
プレート運動	190	文化環境言語基礎論	409
ブレインストーミング	664	文化史	697
プロスタグランジン受容体	258	文化史関係資料	703
プロスタノイド受容体	236, 258	文学批評理論	75
プロトプラスト培養	353	文学研究科	93
不安定現象	286	文学部	93
福岡医科大学	2, 3	文学部陳列館	96
複合構造デザイン	275	文学理論	100
複合材料化学分野	355, 358	文化人類学	70, 412
複合培養皮膚	231	分科大学	1
複雑系	324	文科大学	3, 95
複雑性	426	文化表現	413
ふく射	295	文化変容	656
輻射物理学	185	分光電気化学	361
副専攻制度	57	分子・生命環境論	408
複素解析学	182	分子遺伝学	366
婦人科学産科学領域	227	分子遺伝学領域	233

分子運動	459	ペプチド・蛋白質化学	254
分子エネルギー工学講座	332	ペプチド・リード医薬品	255
分子環境	408	ヘムアフェレーシス(血液成分除去)	243
分子気体力学	305	ヘリオトロンE装置	487,495
分子系統学	198	ヘリオトロン磁場	487
分子細胞情報学領域	232	ヘリカルCT	242
分子集合体	456	ベンチャー精神	660
分子集合体設計	493	平滑筋細胞	585
分子触媒工学分野	332	平衡寛	236
分子生態統御学講座	231	変性	510
分子生物学	90,195,358,513	変成帯の上昇機構	192
分子生物学的手法	257,258	偏微分方程式論	81
分子生物学領域	231		
分子設計学講座	332	ほ	
分子動力学計算	491	ホームページ	697
分子ナノエレクトロニクスデバイス	662	ポーランド語	103
分子認識	255,336,461	ポジトロンCT	242
分子の励起状態	88	ボノボ	582
分子病診療学領域	234	ホモトピー論	182
分子病理	238	ホモロジー代数学	82
分子物性工学講座	332	ホヤ類	202
分子免疫学・アレルギー学講座(寄附講座)	239	ポリ(ADP-リボース)	463
文体論	76,104	ポリティカル・エコロジー	656
分泌制御機構	484	法医学領域	220
分布	202	防衛戦略	372
文法	99	法学論叢	144
文明形成	413	法科大学	2,137
分類学的研究	372	縫合糸	633
分類・系統学	202	防災工学	273
へ		防災システム工学	276
ペインクリニック	229	防災社会構造	517
ヘテロ原子化学	461	防災に関する総合研究	514
ペプチド	255	法社会学	148
		放射化分析	571,576

放射性物質	375	マルチメディア機器	131
放射線	233, 375, 570, 571, 575, 576	マレー世界	590
放射線医学講座	226	巻貝類	202
放射線遺伝学領域	233	膜	455
放射線感受性	226, 577, 604	膜機能変化	199, 255
放射線検出器	454	摩擦	434
放射線初期生成種	576	麻痺性貝毒	368
放射線損傷	575	慢性気管支炎	480
放射線治療	575	慢性気道感染症	481
放射線利用	375	慢性ペリリウム肺	482
放射線療法	483, 485		
防除法	353	み	
法精神医学領域	221	ミクロ構造制御	491
硼素化合物	577	水	455
硼素熱中性子捕捉反応	577	水環境	373
暴風雨災害	523	水環境工学	279
法理学	148	水災害研究	521
法理学経済学内外論叢	145	水資源研究センター	528
北陸観測所	526	水資源共同ネットワーク	529
牧畜民	654	水資源質総合計画	280
星	188	水循環機構	373
星形成過程	188	宮崎観測所	526
穂高砂防観測所	524	民間説話	103
本多一藤嶋効果	427	民事手続法	150
本部試験地	385	民事法	150
ま		明清時代	112
マイクロ材料	302	民族共生論	417, 655
マイクロ波エネルギー伝送実験装置	609	民族誌	656
マイクロ波CT	375	民族植物学	656
マイクロフィルム・センター館	684	む	
マーケティング	167	ムーアモンキー	582
マツクイムシ	385	無機材料化学	89
マルクス経済学	162	無脊椎動物	201

め

メカトロニクス	324
メスパワー分光法	575
メゾ材料	294, 304
メゾ材料基礎工学	304, 342
メゾ材料評価学	294, 342
メゾスコピック構造	543
名誉博士の称号授与	727
免疫・アレルギー性皮膚疾患	222
免疫アレルギー病学	221
免疫系	225
免疫系細胞	256
免疫細胞生物学領域	219
免疫神経疾患	238
免疫組織化学	218
免疫組織学	217
免疫担当細胞	219
免疫抑制剤	257
免疫療法	238, 483
免疫構造	662

も

モデル化	352, 353
モンゴル時代史	112
毛顎動物	202
木材研究所	9
木材需給	373
材組織	366
的遺伝子	256
木質機能性高分子・物性制御分野	355
木質構造機能学分野	355
木質細胞構造機能学分野	355
木質材料機能学講座	355

木質生命科学講座	355
木質バイオマス科学講座	355
木質複合材料学分野	355
木質劣化制御学分野	355
目録所在情報データベース	686
物語詩	72
藻場	369
藻場群集	202
もやもや病	238

や

ヤクシマザル	585, 586
ヤムシ類	202
焼畑農耕	656
薬学関係資料	706
薬物依存	257
薬物体内動態	247
薬物動態	255, 259
薬物相互作用	259
薬物の投与方法	258
薬用遺伝子資源確保	259
薬用植物	255, 259
柳田国男翻訳・紹介	79

ゆ

有機化学反応の開発	462
有機金属化合物	255
有機ケイ素化学	461
有機合成化学方法論	255, 336
有機合成化学反応	462
有機電導体	194
有信会	144
誘電スペクトロスコピー	456
有毒・有害赤潮藻類	368

有用遺伝資源	353	リモートセンシング計測	352
有用植物資源	352	リン酸化ペプチド	254
有用物質生産	361	リンパ腫	218
有用変異	352	理学呼吸器科	485
輸血医学	243	理学療法	243
輸送現象論	338	力学系	184, 319
よ		理工科大学	1, 261
ヨーロッパの大衆芸能	75	離散数理	319
ヨーロッパ文化環境論	413	立体構造と機能	463
ヨーロッパ民衆の生活意識調査	477	立体選択的合成研究	254
洋学史	76	律令時代	111
養水分制御	353	留学生教育論	166
用排水管理	374	留学生センター	634
養分の動態	372	留学生指導	637
吉田分校	13	粒子コード計算機実験	609
4年一貫教育	61	粒子線	573, 575
ら		流域水管理	374
ライナック	568, 571	流出機構	374
ラジオサージェリ	242	流出の制御手法	373
落葉果樹	353	流星レーダー	608
濫用薬物学	220	流動特性	511
乱流	186	量子効果	489
り		量子光学	185
リアルタイム地殻活動解析	527	量子放射光	490
リー（超）代数論	82	量子ビーム	298
リー群	81	量子物理化学	336
リカレント教育	132	量子力学	299
リグーヴェーダ神話	102	両親媒性分子	493
リサイクル	350, 422	両側性筋出力	92
リハビリテーション	243	緑地環境保全学講座	355, 356
リポリーム	480	緑膿菌気道感染症	482
		理論言語学	74
		理論物理学	539
		臨海実習	201, 202

林学	383	励起物質化学	330
林業	383	冷戦後の国際政治	69
臨床栄養学	223	冷中性子	572
臨床疫学	247	歴史環境	413
臨床器官病態学講座	221	歴史研究	378
臨床生体統御医学講座	223	歴史社会学	115
臨床神経学領域	237	歴史資料	703
臨床脳生理学領域	237	歴史人口学	116
臨床病態医科学講座	221	恋愛エレゲイア詩	103
臨床病態医科学領域	221	連合野	584
臨床病態検査学領域	224	連続体熱力学	430
臨床病態生理学領域	229	連続体力学	306, 430
臨床病理学的	217		
林分構造	384, 385	ろ	
る		ローマ演劇	103
ルソー	105	ローマ史	113
ルソー研究	477	ローマ法	149
ルネサンス期	107	ロコモーション	581
ルネサンス期の思想と文学	106	ロシア文学	78
ルミネッセンス	86	ロボット	292
れ		老化	481
レーザー	491	老化促進モデルマウス	481
レーザー作用	489	労使関係	164
レーザー分光学	185	老人保健問題	220
レーザー分光法	194	労働法・社会保障法	69
レーザー分子線分光	194	漏斗胸	483
レーザー情報処理室	610	老年医学	224
レーザー大気環境科学研究部門	611	老年痴呆	258
レーザー大気物理学研究部門	609	労務・人事管理論	166
レイトレイシング	610	老齡	583
レオロジー	459	論理学	117
励起子光物性	662	わ	
		ワクチン	257

和歌山演習林	384
惑星	205

京 都 大 学

——研究・教育の現状と展望—— (1997)

発行日 平成9年10月31日

編 集 「京都大学を紹介する冊子」編集委員会

発 行 京都大学庶務部広報調査課

〒606-01 京都市左京区吉田本町

Tel. 075-753-2071

印 刷 (企)昭和堂印刷所

〒606 京都市左京区百万遍交差点上ル東側

Tel. 075-721-4541

扉題字／井村裕夫総長

扉写真／童子塑像滋賀県竜王町雪野寺跡出土

塑像は、粘土を素材として仏、菩薩、神将などの姿を造形したものである。雪野寺の塔跡から出土したこの童子像は、釈迦の涅槃を囲む人物群のひとつとみられる。優美にみちた白鳳時代の塑像の代表例に数えられる。高さ11.6cm。1934・35年発掘。

(京都大学総合博物館)

KYOTO UNIVERSITY

